

3 社会福祉学科（専門教育科目）

基幹科目群	社会福祉学概論Ⅰ	社会福祉学概論Ⅱ	社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅱ	社会福祉の歴史と思想	福祉行財政と福祉計画	地域福祉論Ⅰ	地域福祉論Ⅱ	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	相談援助の理論と方法A	相談援助の理論と方法B	相談援助の理論と方法C	相談援助の理論と方法D	社会福祉学演習	卒業論文
-------	----------	----------	--------	--------	------------	------------	--------	--------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	---------	------

社会福祉専門科目群	老人福祉論	介護福祉論	障害者福祉論	児童福祉論	家族福祉論	公的扶助論	社会福祉調査法	相談援助演習A	相談援助演習B	相談援助演習C	相談援助実習指導Ⅰ	相談援助実習指導Ⅱ	相談援助実習	福祉経営論	保健医療論	就労支援	権利擁護と成年後見制度	更生保護	医療ソーシャルワーク論	福祉住環境論	介護技術演習	手話	医学概論
-----------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	---------	---------	---------	---------	-----------	-----------	--------	-------	-------	------	-------------	------	-------------	--------	--------	----	------

精神保健福祉専門科目群	精神保健福祉論Ⅰ	精神保健福祉論Ⅱ	精神保健福祉論Ⅲ	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	精神科リハビリテーション学Ⅰ	精神科リハビリテーション学Ⅱ	精神保健福祉演習
-------------	----------	----------	----------	-------------------	---------------	---------------	----------------	----------------	----------

精神保健福祉専門科目群	精神保健福祉援助演習	精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習	精神保健学Ⅰ	精神保健学Ⅱ	精神医学Ⅰ	精神医学Ⅱ
-------------	------------	--------------	------------	--------	--------	-------	-------

学校ソーシャルワーク専門科目群	学校ソーシャルワーク論	学校ソーシャルワーク演習	学校ソーシャルワーク実習指導	学校ソーシャルワーク実習	発達心理学Ⅰ-A	教育相談	生徒指導論	教育学概論B	教育社会学	教育制度論
-----------------	-------------	--------------	----------------	--------------	----------	------	-------	--------	-------	-------

関連科目群	倫理学	地方自治論	現代社会論A（ジェンダー・世代）	現代社会論B（情報社会論）	福祉社会学	地域社会学A	地域社会学B	コミュニティ論	NPO論	発達心理学Ⅱ	老年心理学	老年期医学	社会病理学	社会心理学	データ処理とデータ解析Ⅰ	データ処理とデータ解析Ⅱ	家族社会学A	家族社会学B	生涯教育論	社会教育論	人格心理学	対人心理学	情報数学	Webデザイン演習	プログラミング概論	データベース論	情報ネットワーク論	プログラミング演習	情報検索システム論	問題解決演習	人的資源管理論	キャリア論	組織マネジメント	ビジネス倫理	個人情報法制
-------	-----	-------	------------------	---------------	-------	--------	--------	---------	------	--------	-------	-------	-------	-------	--------------	--------------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	------	-----------	-----------	---------	-----------	-----------	-----------	--------	---------	-------	----------	--------	--------

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学概論 I		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Social Welfare I		授業コード	
必修・選択	社会福学科必修・ 公共社会及び人間 形成学科は選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士、中一種免、高一種免	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	細井 勇			
授業概要	社会福祉の原論という位置づけである。同時に、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「現代社会と福祉」の前半部分であり、テキストの前半部分にほぼ相当する。社会福祉とは何かを歴史的な形成として、同時に自由、正義、公正等との関係で捉えることを学ぶ。展開としては、欧米、とくにイギリスを中心に、社会福祉の歴史的な形成を学ぶ。次にイギリスの社会福祉政策（ソーシャル・ポリシー）について学び、社会的正義論としてロールズやセンの正義論を学ぶ。その上で、日本の近代化過程と日本的福祉国家形成の歩みを学ぶ。最後に戦後日本の代表的社会福祉理論を理解する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	お互いの意見交換を重視したい。授業中に抗議できる内容は自ずと限られてくるので、授業内容よりも詳しい内容の資料を提供し、また、推薦する図書を紹介するので、事前事後学習としてよく読み、授業内容の理解に活かしてほしい。			
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座4 現在社会と福祉』中央法規 第4版 2014年			
参考図書 ・教材等	毎回、資料を配布する。			
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	コメントカードで受け付ける。また、適宜、個別に質問・相談に応じていく。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	社会福祉を中心に人間・社会に関する専門的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 社会福祉を歴史的生成として理解し、かつ、社会福祉を自由、正義、公正の問題として主体的に理解することができるようになる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 授業の内容を十分理解できなくとも、一定の展開を知識として学ぶことはできる。		
成績評価の基準			
S：90～100		履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。	
A：80～89		履修目標を達成している。	

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	15				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	40	10	10			60
思考・判断・表現	(DP3)	30	5	5			40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	社会福祉(学)とは何か	講義、グループ討論	テキスト
2	福祉国家のルーツと古典的自由主義思想の形成	講義、グループ討論	配布資料を事前に読んでおくこと
3	社会問題の顕在化とキリスト教慈善事業の形成	講義	配布資料を事前に読んでおくこと
4	1920年前後の社会改良と福祉国家の形成	講義、グループ討論	配布資料を事前に読んでおくこと
5	英国におけるソーシャル・ポリシー	講義	テキスト第1章第2節を事前に@読んでおくこと
6	ボランニーとアンデルセンの福祉レジーム論	講義	テキスト第13章第1節を事前に読んでおくこと
7	功利か自由か、ロールズの正義論	講義、グループ討論	テキスト第3章第3節を事前に読んでおくこと
8	アリストテレスとセンの正義論	講義	同上
9	日本の近代化過程とその特徴について	講義	配布資料を事前に読んでおくこと
10	明治20年代のキリスト教慈善事業について	講義、グループ討論	テキスト第5章第一節を事前に読んでおくこと
11	明治末期の感化救済事業と大正期における社会事業	講義	同上

12	戦後日本と日本の福祉国家形成	講義	テキスト第5章第2節を事前に読んでおくこと
13	日本の代表的な社会福祉理論について：補充論	講義、グループ討論	テキスト第2章第1節、第2節を事前に読んでおくこと
14	日本の代表的な社会福祉理論について：岡村理論	講義、	同上
15	全体のまとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○		○			○			○					
その他（ ）																	
内容			自由と平等の関係、福祉の構成要素とは、日本社会とは（教育と福祉と労働の関係）等についてグループで議論し報告し合う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学概論II			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Social Welfare II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	河野 高志				
授業概要	本講義は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格受験資格取得に必要な指定科目である「現代社会と福祉」に該当する。したがって、社会福祉学概論Iの内容とあわせて、社会福祉学の基本的枠組みを解説していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉学概論I」を履修済みであること				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉（第4版）』中央法規 2014年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する）2,600円				
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	日本と諸外国の福祉政策や福祉の枠組みについて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	福祉政策の課題と展望について自らの意見を述べることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、に関する用語の意味が理解できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、について正確かつ詳細に理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、についてある程度理解した上で自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、に関する用語の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
①社会福祉学の基本的な概念、②日本と諸外国の福祉政策の特徴と発展過程、に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50	10				60
思考・判断・表現	(DP3)	10	30				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	少子高齢化時代の福祉政策①	講義	テキスト第6章を読む
2	少子高齢化時代の福祉政策②	質疑応答、講義	テキスト第6章を読む
3	福祉政策における必要と資源①	質疑応答、講義	テキスト第7章を読む
4	福祉政策における必要と資源②	質疑応答、講義	テキスト第7章を読む
5	福祉政策の理念・主体・手法①	質疑応答、講義、小テスト	テキスト第8章を読む
6	福祉政策の理念・主体・手法②	質疑応答、講義	テキスト第8章を読む
7	福祉政策の関連領域①	質疑応答、講義	テキスト第9章を読む
8	福祉政策の関連領域②	質疑応答、講義	テキスト第9章を読む

9	社会福祉制度の体系①	質疑応答、講義	テキスト第10章を読む
10	社会福祉制度の体系②	質疑応答、講義	テキスト第10章を読む
11	福祉サービスの提供	質疑応答、講義、小テスト	テキスト第11章を読む
12	福祉サービスと援助活動	質疑応答、講義	テキスト第12章を読む
13	福祉政策の国際比較①	質疑応答、講義	テキスト第13章を読む
14	福祉政策の国際比較②	質疑応答、講義	テキスト第13章を読む
15	福祉政策の課題と展望	質疑応答、講義	テキスト第14章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会保障論 I		単位	2
科目名（英語）	Social Security I		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士	
標準履修年次	1年	開講時期	前期	
担当教員	廣田 久美子			
授業概要	<p>社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。本講では、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス—現代社会における社会保障制度の課題、社会保障の概念や対象、理念についての理解、社会保障制度の体系、医療保険制度の具体的内容等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	<p>棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ（第17版）』有斐閣、2020年、1,980円（本体1,800円）</p>			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	出席カードへの記入により受け付ける他、適宜、個別の質問・相談にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会保障を理解し、社会保険と民間保険との違いを説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>社会保障制度の基本構造のほか、医療保険や介護保険をはじめとする各制度の基礎理論を理解し、現在起こっている社会保障に関する課題やその背景を理解することができる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
<p>社会保障制度の基本構造のほか、医療保険や介護保険をはじめとする各制度の基礎理論を理解し、その知識を活用することができる。</p>			
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
<p>社会保障制度の基本構造のほか、医療保険や介護保険をはじめとする各制度の基礎理論を正確に理</p>			

	解し、現在の社会保障制度をめぐる課題についてわかりやすく説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 社会保障制度の基本構造のほか、医療保険や介護保険をはじめとする各制度の基礎理論を正確に理解し、その知識を活用することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 社会保障制度の基本構造のほか、医療保険や介護保険をはじめとする各制度の基礎理論を概ね理解し、その知識を活用することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 社会保障制度の基本構造のほか、医療保険や介護保険をはじめとする各制度の基礎理論をある程度理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 社会保障制度の基本構造、社会保険の基礎理論および基本的な用語について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		95	5					
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	社会保障の概要	講義	テキスト序章を読む
2	社会保障の体系と役割	講義	テキスト序章を読む
3	社会保障の機能	講義	テキスト第8章を読む
4	社会保険の構造	講義	テキスト第7章を読む
5	社会保障と民間保険	講義	テキスト第7章を読む
6	医療保険制度①（基本構造）	講義	テキスト第1章を読む
7	医療保険制度②（被保険者・保険者）	講義	テキスト第1章を読む
8	医療保険制度③（給付等）	講義	テキスト第1章を読む
9	医療保険制度④（医療提供体制）	講義	テキスト第1章を読む

10	介護保険制度①（被保険者・保険者）	講義	テキスト第3章を読む
11	介護保険制度②（要介護認定）	講義	テキスト第3章を読む
12	介護保険制度③（給付の概要等）	講義	テキスト第3章を読む
13	介護保険制度④（介護提供体制）	講義	テキスト第3章を読む
14	社会手当	講義	テキスト第2章を読む
15	現代社会における社会保障制度の課題	講義	テキスト第8章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会保障論II		単位	2
科目名（英語）	Social Security II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	廣田 久美子			
授業概要	社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。本講では、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス一年金保険制度の具体的内容、社会保障の歴史的展開、諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障一福祉を学ぶ人へ（第17版）』有斐閣、2020年、1,980円（本体1,800円）			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	出席カードへの記入により受け付ける他、適宜、個別の質問・相談にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会保障を理解し、年金保険、雇用保険と労働者災害補償保険について、何をどのような仕組みで給付しているのか、説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会保障制度の基本構造のほか、年金保険や労働保険等の各制度の基礎理論を理解し、現在起こっている社会保障に関する課題やその背景を理解することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会保障制度の基本構造のほか、年金保険や労働保険等の各制度の基礎理論を理解し、その知識を活用することができる。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
社会保障制度の基本構造のほか、年金保険や労働保険等の各制度の基礎理論を正確に理解し、現在			

	の社会保障制度をめぐる課題について説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 社会保障制度の基本構造のほか、年金保険や労働保険等の各制度の基礎理論を正確に理解し、その知識を活用することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 社会保障制度の基本構造のほか、年金保険や労働保険等の各制度の基礎理論を概ね理解し、その知識を活用することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 社会保障制度の基本構造のほか、年金保険や労働保険等の各制度の基礎理論をある程度理解し、その知識を活用することができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 社会保障制度の基本構造、各社会保険制度の基礎理論および基本的な用語について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		95	5					
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	年金保険制度①（年金制度の体系）	講義	テキスト第4章を読む
2	年金保険制度②（国民年金）	講義	テキスト第4章を読む
3	年金保険制度③（厚生年金）	講義	テキスト第4章を読む
4	年金保険制度④（老齢年金）	講義	テキスト第4章を読む
5	年金保険制度⑤（障害年金、遺族年金）	講義	テキスト第4章を読む
6	雇用保険制度①（制度体系）	講義	テキスト第5章を読む
7	雇用保険制度②（失業等給付）	講義	テキスト第5章を読む
8	雇用保険制度③（その他の給付）	講義	テキスト第5章を読む

9	求職者支援制度	講義	テキスト第5章を読む
10	労働者災害補償保険制度① (制度体系)	講義	テキスト第6章を読む
11	労働者災害補償保険制度② (業務上または通勤による災害の認定)	講義	テキスト第6章を読む
12	労働者災害補償保険制度③ (給付)	講義	テキスト第6章を読む
13	社会保障の歴史	講義	テキスト第8章を読む
14	社会保障財政	講義	テキスト第8章を読む
15	諸外国の社会保障	講義	テキスト第8章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉の歴史と思想		単位	2
科目名（英語）	History and Philosophy of Social Welfare		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	前期	
担当教員	細井 勇			
授業概要	<p>1920年頃から、福祉国家ないし社会国家の形成史が始まる。ドイツではファシズムを経験するが、1960年代に西ヨーロッパを中心に社会民主主義体制として福祉国家が確立する。日本も、そうした国際的趨勢の中にあっただが、1960年代以降の日本は西欧型への可能性から離れ、日本型雇用慣行の確立、それを前提とした日本型福祉国家形成という独自の歩みを辿った。イギリスとドイツの違い、西欧と日本の違い、その違いはどこから生じるのかを議論したい。</p> <p>1980年代以降、経済のグローバル化を通じて、福祉国家の諸前提が崩れ、福祉国家は揺らぎ始める。そして新自由主義が台頭してくる。雇用の多様化と不安定化は、福祉国家の在り方の再編を求めることになった。日本も例外ではない。日本の課題には、ウチとソトを区別する閉鎖的な日本型福祉国家をどう乗り越えるか、という課題と同時に、新自由主義に対抗する、新たな連帯の社会構想を展望するという課題がある。そのことを考え合っていきたい。</p> <p>幸福と自由の関係をどう考えるのか、アーレントの言う「現れの空間」とは何か、専門分野を横断し、公共哲学にも目を向けていきたい。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	4年次の開設科目であり、学びの集大成、総合化を目指す。専門分野を超えて、教育と雇用と福祉の関係がどうなっているのか、総合的な理解を図っていきたい。参考文献を事前に読む姿勢を期待したい。			
テキスト				
参考図書・教材等	岩崎晋也『福祉原理』（2018年）。宮本太郎『共生保障（支え合い）の戦略』岩波新書、2017年。斎藤純一『公共性』（2001年）。岩田正美『貧困の戦後史』（2017年）。カステル『社会喪失の時代』（2015年）。小熊英二「日本社会のしくみ」（2019年）。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	適宜、質問に応じていく。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会福祉を中心に、人間・社会に関する専門知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて思考することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
幸福（福祉）とは何か、幸福と自由の関係をどう考えるのか、「共約可能な公」と「現れの空間」の関係は、こうした問題を具体的問題を通じて考え、表現できるようになること。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

福祉国家の形成史と 1980 年代以後の福祉国家の揺らぎの意味、日本型福祉国家と西欧型福祉国家の違いを説明できるようにすること。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	70				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	30			40
思考・判断・表現	(DP3)		20	40			60
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	福祉国家の形成とその揺らぎ	講義と討論	参考文献を可能な限り読む
2	岩崎晋也『福祉原理』について	同上	配布資料に事前の目を通す。参考文献を可能な限り読む
3	岩崎晋也『福祉原理』について、その2	同上	同上
4	自由主義（ハイエク）と社会民主主義（ポランニー）	同上	同上
5	アンデルセンの福祉レジーム論の課題	同上	同上
6	小熊英二『日本社会のしくみ』について	同上	同上
7	カステルの『社会喪失の時代』について	同上	同上

8	ロールズとセン、幸福と自由の関係	同上	同上
9	「共約可能な公」と「現れの空間」(斎藤純一『公共性』)	同上	同上
10	協同組合論再考	同上	同上
11	ソーシャルペダゴジーの考え方	同上	同上
12	教育と雇用と福祉の関係を考える：国際比較から	同上	同上
13	岩田正美『貧困の戦後史』について	同上	同上
14	福祉政治(宮本憲一『共生保障の戦略』等)の議論について	同上	同上
15	新たな連帯の社会構想に向けて	同上	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク								○		○				○			
その他()																	
内容			日本の社会のしくみとは何か、幸福と自由の関係は、教育・雇用・福祉の関係は、等を議論したい。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	福祉行財政と福祉計画			単位	2
科目名（英語）	Finance, Administration and Planning in Social Welfare			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	村山 浩一郎				
授業概要	わが国では、特に1990年代以降、市町村を中心とした福祉サービスの提供システムが構築され、住民や民間事業者等の参加を得て市町村が策定する各種の「福祉計画」によって、サービスの基盤整備が進められている。そこで、この授業では、市町村を中心とする福祉行財政の仕組みと市町村等が策定する福祉計画の意義と実際について理解を深める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 第5版』、中央法規出版、2017年				
実務経験を生かした授業	地方自治体における福祉計画の策定に、策定委員会委員長やアドバイザーとして参画した経験を活かして授業を行う。	授業中の撮影			
学習相談・助言体制	授業のコメントカードやメール等で受け付ける。受講生全員に関わる質問については、授業の中で回答し、個別の質問・相談については、適宜、授業外の時間に応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体（特に市町村）における福祉行財政の仕組みと、その実際について説明できる。 ・福祉計画の意義・目的、種類・内容、方法等について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	福祉行政財と福祉計画の課題と、今後のあり方について考察できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
地方自治体の福祉行財政の仕組みと福祉計画の現状について理解した上で、その課題と今後の在り方について考察し、その結果をわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
地方自治体（特に市町村）における福祉行財政の仕組み、及び福祉計画の意義・目的、種類・内容、方法等に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内 小テスト	授業内 レポート	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		60	40				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	福祉行政とは	講義、質疑応答	参考文献の第2章を読む
2	福祉行政の歴史と法制度	講義、質疑応答	参考文献の第1章第2節と第2章を読む
3	福祉行政の実施体制(1)	講義、質疑応答	参考文献の第1章第2節と第2章を読む
4	福祉行政の実施体制(2)	講義、質疑応答	参考文献の第4章を読む
5	福祉財政(1)	講義、質疑応答	参考文献の第3章を読む
6	福祉財政(2)	講義、質疑応答	参考文献の第3章を読む
7	福祉行財政の課題と今後のあり方	講義、質疑応答、授業内レポート	第1回~第6回までの授業の配布資料を読む
8	福祉計画とは何か	講義、質疑応答、小テスト	参考文献の第5章を読む
9	福祉計画の実際(1)	講義、質疑応答	参考文献の第7章第2節を読む
10	福祉計画の実際(2)	講義、質疑応答	参考文献の第7章第3節を読む
11	福祉計画の実際(3)	講義、質疑応答	参考文献の第7章第4節を読む
12	福祉計画の実際(4)	講義、質疑応答	参考文献の第7章第5節を読む

13	福祉計画の理論と技法(1)	講義、質疑応答	参考文献の第6章を読む
14	福祉計画の理論と技法(2)	講義、質疑応答 小テスト	参考文献の第6章を読む
15	福祉計画の課題と今後のあり方	講義、質疑応答、授業内レポート	第8回～第14回までの授業の配布資料を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域福祉論 I			単位	2
科目名（英語）	Community-based Social Welfare I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	村山 浩一郎				
授業概要	地域福祉は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野に並置されるものではなく、地域を基盤とした新しい社会福祉の形態や方法を意味している。地域福祉論 I では、地域福祉の基本的な考え方について学ぶとともに、地域福祉の主体と対象、地域福祉の推進のための仕組みや方法などについて理解を深めていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	①「社会福祉学習双書」編集委員会『社会福祉学習双書 2020 地域福祉論』、全国社会福祉協議会、2020年 ②川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎『しっかり学べる社会福祉 3 地域福祉論』、ミネルヴァ書房、2017年 その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。				
実務経験を生かした授業	NPO を運営した経験や社会福祉協議会等のアドバイザー業務を行った経験を活かして事業を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業のコメントカードやメール等で受け付ける。受講生全員に関わる質問については、授業の中で回答し、個別の質問・相談については、適宜、授業外の時間に応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)		
		(DP 2)	地域福祉の基本的な考え方、地域福祉に係る各主体の役割と実際、コミュニティワークを中心とした地域福祉の推進方法について説明できる。	
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域における様々な福祉課題の解決方法について、地域福祉の観点から考察できる。	
		(DP 4)		
	関心・意欲・態度	(DP 5)		
		(DP 6)		
		技能	(DP 7)	
			(DP 8)	
	(DP 9)			
	(DP10)			
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
地域福祉の視点から様々な福祉課題の解決方法を考察し、その結果をわかりやすくまとめることができる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
地域福祉の基本的な考え方、地域福祉に係る各主体の役割と実際、コミュニティワークを中心とした地域福祉の推進方法に関する用語の意味が理解できる。				
成績評価の基準				

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内 小テスト	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			60	40				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義	参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む
2	地域福祉とは何か(1)	講義、質疑応答	参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む
3	地域福祉とは何か(2)	講義、質疑応答、グループ・ディスカッション	参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む
4	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(1)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
5	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(2)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
6	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(3)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
7	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(4)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
8	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(5)	講義、質疑応答、小テスト	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む
9	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(6)	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む

10	地域福祉の推進方法(1)	講義、質疑応答	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
11	地域福祉の推進方法(2)	講義、質疑応答	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
12	地域福祉の推進方法(3)	講義、質疑応答、レポート提出	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
13	地域福祉の推進方法(4)	講義、質疑応答	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
14	地域福祉の推進方法(5)	講義、質疑応答、事例検討	参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む
15	授業のまとめ	講義、質疑応答、小テスト	これまでの授業で配布したレジュメ・資料を読む
備考	福岡県内の他の福祉系大学の教員を招聘し、ボランティア活動に関する授業（1回）を行う可能性がある。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第3回：ビデオ視聴後、関連するテーマについてグループ・ディスカッションを行う。 第14回：小グループに分かれて事例検討を行い、発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域福祉論Ⅱ		単位	2
科目名（英語）	Community-based Social Welfare Ⅱ		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	村山 浩一郎			
授業概要	地域福祉論Ⅰの内容を前提に、地域福祉の推進方法についてさらに理解を深める。具体的には、「個と地域の一体的支援」を展開する「地域を基盤としたソーシャルワーク」の理論と方法を学ぶ。また、地域福祉計画を中心に、「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	地域福祉論Ⅰを履修していること。また、授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。			
テキスト	特に指定しない			
参考図書・教材等	①川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎『しっかり学べる社会福祉3 地域福祉論』、ミネルヴァ書房、2017年 ②地域力強化検討会「中間とりまとめ ～従来の福祉の地平を超えた、次のステージへ～」、厚生労働省、2016年 その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。			
実務経験を生かした授業	地域福祉計画の策定過程への参画や地方自治体の地域福祉行政のアドバイザーとなった経験を活かして授業を行う。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業のコメントカードやメール等で受け付ける。受講生全員に関わる質問については、授業の中で回答し、個別の質問・相談については、適宜、授業外の時間に応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・地域生活課題に対する援助内容を「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点から考察できる。 ・「地域福祉の基盤づくり」の課題と今後の在り方について考察できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
地域生活課題に対する「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点からの援助内容の考察と地域福祉計画を中心とする「地域福祉の基盤づくり」の在り方の考察を的確に行い、その結果をわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法に関する用語の意味が理解できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内 小テスト	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			60	40				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	地域福祉援助の体系	講義	参考文献①の序章を読む
2	地域を基盤としたソーシャルワークの理論と方法①	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、第4章を読む
3	地域を基盤としたソーシャルワークの理論と方法②	講義、質疑応答、グループ・ディスカッション	参考文献①の第3章、第4章を読む
4	地域を基盤としたソーシャルワークの実際①	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、第4章を読む
5	地域を基盤としたソーシャルワークの実際②	講義、質疑応答	参考文献①の第3章、第4章を読む
6	地域を基盤としたソーシャルワークの実際③	講義、質疑応答、事例検討	参考文献①の第3章、第4章を読む
7	地域福祉をめぐる新たな動向①	講義、質疑応答、	参考文献②をインターネット等で入手し、読む
8	地域福祉をめぐる新たな動向②	講義、質疑応答、レポート提出	参考文献②をインターネット等で入手し、読む
9	地域福祉をめぐる新たな動向③	講義、質疑応答	参考文献②をインターネット等で入手し、読む

10	地域福祉をめぐる新たな動向④	講義、質疑応答、小テスト	参考文献②をインターネット等で入手し、読む
11	地域福祉の基盤づくりの理論と方法①	講義、質疑応答	参考文献①の第6章、第7章を読む
12	地域福祉の基盤づくりの理論と方法②	講義、質疑応答	参考文献①の第6章、第7章を読む
13	地域福祉の基盤づくりと地域福祉計画①	講義、質疑応答	自分の住んでいる地域や先進地域の地域福祉計画を調べ、読む
14	地域福祉の基盤づくりと地域福祉計画②	講義、質疑応答、事例検討	自分の住んでいる地域や先進地域の地域福祉計画を調べ、読む
15	授業のまとめ	講義、質疑応答、小テスト	これまでの授業で配布したレジュメ・資料を読む
備考	適宜、ビデオ（動画）を視聴する		

V. アクティブ・ラーニング

あり	<input type="radio"/>	なし	<input type="checkbox"/>																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				第3回：ビデオ視聴後、関連するテーマについてグループ・ディスカッションを行う。 第6、14回：小グループに分かれて事例検討を行い発表する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助の基盤と専門職 I			単位	2
科目名（英語）	Values and Ethics in Social Work I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	社会福祉士・精神保健福祉士		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	松岡 佐智				
授業概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の指定科目「相談援助の基盤と専門職」の中でも、①相談援助の定義と構成要素、②相談援助の形成過程、③相談援助の理念について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規				
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーにて質問や相談を受けつける。また、出席カードやメール等でも質問を随時受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	相談援助の定義、構成要素、形成過程及び理念について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	相談援助の理念について、事例を通して考察できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	①相談援助の定義と構成要素、②相談援助の形成過程、③相談援助の理念について正確に理解し、事例検討において分かりやすく考察できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	①相談援助の定義と構成要素、②相談援助の形成過程、③相談援助の理念について理解し、説明することができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			100					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション 授業の進め方と現代社会における様々な福祉問題	講義	現代社会における様々な福祉問題について調べること
2	社会福祉士の意義と役割①	質疑応答・講義・DVD視聴	テキスト第1章を読むこと
3	社会福祉士の意義と役割②	質疑応答・講義	テキスト第1章を読むこと
4	相談援助の定義と構成要素①	質疑応答・講義	テキスト第2章を読むこと
5	相談援助の定義と構成要素②	質疑応答・講義・DVD視聴	テキスト第2章を読むこと
6	相談援助の形成過程Ⅰ-①	質疑応答・講義	テキスト第3章を読むこと
7	相談援助の形成過程Ⅰ-②	質疑応答・講義	テキスト第3章を読むこと
8	中間のまとめ:確認小テストと解説	質疑応答・小テスト・講義	テキスト第1章~第3章までの復習と配布プリントの確認
9	相談援助の形成過程Ⅱ-①	質疑応答・講義	テキスト第4章を読むこと
10	相談援助の形成過程Ⅱ-②	質疑応答・講義	テキスト第4章を読むこと
11	相談援助の理念Ⅰ-①	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第5章を読むこと
12	相談援助の理念Ⅰ-②	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第5章を読むこと
13	相談援助の理念Ⅱ-①	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第6章を読むこと
14	相談援助の理念Ⅱ-②	質疑応答・講義	テキスト第6章を読むこと
15	全体のまとめ:確認小テストと解説	質疑応答・小テスト・講義	テキスト第4章~第6章までの復習と

			配布プリントの確認
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				第 11～13 回における小グループでの事例検討															

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助の基盤と専門職Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Values and Ethics in Social WorkⅡ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士・精神保健福祉士		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	本郷 秀和				
授業概要	本講義では「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」の学習内容を基礎とし、①専門職倫理とディレンマ、②総合的・包括的な相談援助の全体像と基本理論、③相談援助にかかる専門職の概念と範囲、④総合的・包括的な相談援助の専門的機能を軸に授業を展開する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	・教科書は1年前期科目の「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」（中央法規）と同じものを使用する。				
参考図書・教材等	・九州社会福祉研究会編、『第2版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社、2019. （*本辞典は、他の科目でも使用予定）				
実務経験を生かした授業	実務経験を基に作成した事例教材（プリント）を作成し配布する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	授業終了後のほか、適宜個別の質問・相談等に応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を説明できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマとその解決案を考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を説明できる。 ・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマについて説明することができる。 		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を説明できる。 		

・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマとその解決案を考えることができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 以下の3点について、ほぼ完全に理解している。 ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を理解し、説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を理解し、説明できる。 ・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマについて理解し、説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 以下の3点について、おおむね理解している。 ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を理解し、説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を理解し、説明できる。 ・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマについて理解し、説明することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 以下の3点について、ある程度は理解している。 ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を理解し、説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を理解し、説明できる。 ・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマについて理解し、説明することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 以下の3点について、最低限のポイントを理解している。 ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を理解し、説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を理解し、説明できる。 ・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマについて理解し、説明することができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 以下の3点について、ほとんど・全く理解していない。 ・地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と機能を理解し、説明できる。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助の活動領域と対象、職場や職名を理解し、説明できる。 ・ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマについて理解し、説明することができる。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		50				50
思考・判断・表現	(DP3)		50				50
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回)	【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	・オリエンテーション ・社会・精神保健福祉士の役割の確認、相談援助と近年の福祉問題	基本的には指定教科書の第7章～第11章までの範囲に沿って授業を行うが、配布プリントも積極的に活用する。授業全体の後半では、各授業の終わりに社会・精神保健福祉士等が行う相談援助やその対象者・問題に関するDVDを視聴し、実際の相談援助活動や扱うべき問題について各自がイメージしていく。 *可能であれば、DVDに変えて部分的に外部講師(社会福祉士・精神保健福祉士実務者や保健医療福祉施設等職員等)を招聘する可能性がある。 *各自の学習状況を見て、分りにくい点があれば、その項目に時間をとることもある。状況に応じて臨機応変に進めたい。	・教科書の目次などで学習内容を確認しておくこと。配布プリントを復習しておくこと。	
2	・専門職倫理と倫理的ディレンマ1		配布プリントを予習・復習しておくこと。	
3	・専門職倫理と倫理的ディレンマ2		教科書7章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
4	・専門職倫理と倫理的ディレンマ3		教科書7章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
5	・総合的・包括的な相談援助の全体像1		教科書8章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
6	・総合的・包括的な相談援助の全体像2		教科書8章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
7	・総合的・包括的な相談援助を支える理論 ・相談援助にかかる専門職の概念と範囲1		教科書9章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
8	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲2		教科書10章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
9	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲3		教科書10章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
10	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲4		授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。	
11	・社会福祉関連資格の概要(国家・公的・民間資格等)		授業で触れた部分の復習とグループワークに関する予習を行うこと。	
12	相談援助職に関するグループワーク1		グループワークに関する予習・復習を行うこと。	
13	相談援助職に関するグループワーク2		グループワークに関する予習・復習を行うこと。	
14	相談援助職に関するグループワーク3		グループワークに関する予習・復習を行うこと。	
15	総合的かつ包括的な相談援助の機能・まとめ		教科書11章のポイントと全体まとめ	教科書11章について、授業で触れた部分の復習と次回予習をしておくこと。
備考	*15回目にレポートまたは全体まとめの小テストのいずれか課します。理解度をみて授業時に伝えます。			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					○	○							○	○	○		
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助の理論と方法A			単位	2
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods A			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	河野 高志				
授業概要	社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、①相談援助における対象の理解、②ケアマネジメント、③実践モデルとアプローチ、④事例研究・事例分析、⑤相談援助の実際、について解説する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 第3版』中央法規 2015年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する）2,600円				
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ソーシャルワークの対象や実践モデル・アプローチの特徴を説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	相談援助の展開方法や実際の例を踏まえ、自分なりの意見を整理することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、について実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、についてある程度理解した上で自らの考えをまとめることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

ソーシャルワークの対象理解の視点と方法、実践モデルとアプローチの内容、相談援助の実際と事例研究の方法、に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50	10				60
思考・判断・表現	(DP3)	10	30				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	相談援助における対象の理解①	講義	テキスト第1章を読む
2	相談援助における対象の理解②	質疑応答、講義	テキスト第1章を読む
3	相談援助における対象の理解③	質疑応答、講義	テキスト第1章を読む
4	実践モデルとアプローチ①	質疑応答、講義、小テスト	テキスト第6章を読む
5	実践モデルとアプローチ②	質疑応答、講義	テキスト第6章を読む
6	実践モデルとアプローチ③	質疑応答、講義	テキスト第7章を読む

7	実践モデルとアプローチ④	質疑応答、講義	テキスト第7章を読む
8	実践モデルとアプローチ⑤	質疑応答、講義	テキスト第8章を読む
9	実践モデルとアプローチ⑥	質疑応答、講義	テキスト第8章を読む
10	ケアマネジメント①	質疑応答、講義、小テスト	テキスト第2章を読む
11	ケアマネジメント②	質疑応答、講義・事例検討	テキスト第2章を読む
12	事例研究・事例分析①	質疑応答、講義	テキスト第13章を読む
13	事例研究・事例分析②	質疑応答、講義	テキスト第13章を読む
14	相談援助の実際①	質疑応答、講義	テキスト第14章を読む
15	相談援助の実際②	質疑応答、講義	テキスト第14章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク												○					
その他()																	
内容			少人数のグループに分かれて事例検討を行い、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助の理論と方法 B			単位	2
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods B			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	本郷秀和				
授業概要	社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、について解説する。教科書の第1章（相談援助とは）、第2章（相談援助の構造と機能）、第4章（相談援助における援助関係）、第5章（相談援助の展開過程Ⅰ）、第6章（相談援助の展開過程Ⅱ）、第12章（相談援助のための面接技）、第13章（相談援助のための記録の技術）について講義を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規 2015年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する）2,600円				
参考図書・教材等	・九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・本郷秀和）『21世紀の現代社会福祉用語辞典-第2版-』学文社.2019.（小テストは持ち込み可）				
実務経験を生かした授業	社会福祉士としての実務経験を活かし、事例を取り入れた説明を行う。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	質問・相談等に直接またはメールで応じる。各回の授業終了間に質問の時間を確保したい。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	相談援助の展開方法や教科書・プリントの事例を踏まえ、自分なりの意見を整理することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）をほぼ完全に理解している。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）をおおむね深く理解している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）をまあまあ深く理解している。
C：60～69 到達目標を達成している。
ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）の最低限のポイントを理解している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
ソーシャルワーカーが行う相談援助の概要（概念、基本過程、態度、面接と記録）を理解していない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	・オリエンテーション、「相談援助の基盤と専門職」の振り返り	・基本事項の確認	「相談援助の基盤と専門職」の科目全体を予習・復習しておくこと。
2	・相談援助とは1（ソーシャルワークと関連技術）	教科書の第1章（相談援助とは）、第2章（相談援助の構造と機能）、第4章（相談援助における援助関係）、第5章（相談援助の展開過程Ⅰ）、第6章（相談援助の展開過程Ⅱ）、第12章（相談援助のための面接技）、第13章（相談援助のための記録の技術）、つまり全14章のうち、7つの章について解説・説明する。パワーポイントや資料配布、ロールプレイ等も適宜取り入れる。	プリントを配布するので、復習をしておくこと、教科書1章を読む。
3	・相談援助とは2		プリント・教科書1章を読む。
4	・相談援助とは3 ・相談援助の構造と機能①		プリント・教科書1、2章を読む。
5	・相談援助の構造と機能②		教科書2章を読む。
6	・相談援助における援助関係①		教科書4章を読む。
7	・相談援助における援助関係②		教科書4章を読む。
8	・相談援助の展開過程Ⅰ－①		教科書5章を読む。
9	・相談援助の展開過程Ⅰ－② ・相談援助の展開過程Ⅱ－①		教科書5、6章を読む。
10	・相談援助の展開過程Ⅱ－②		教科書6章を読む。
11	・相談援助と面接技術①		教科書12章を読む。
12	・相談援助と面接技術②		教科書12章を読む。
13	・相談援助に関する記録①		教科書13章を読む。
14	・相談援助に関する記録②		教科書13章を読む。

15	・まとめの小問題と解説・質疑応答（※指定辞書のみ持ち込み可）	小テストを活用した解説と質疑応答	講義全体の振り返りとして、事前事後学習に関する各章を読む。
備考	*15回目授業で行うまとめ（小テスト）と解説において、60%未満の正答率の場合は単位を認めない。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習															○		○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助の理論と方法C			単位	2
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods C			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	松岡 佐智				
授業概要	相談援助に必要とされる基礎的概念を学び、援助過程における①アウトリーチ、②契約、③アセスメント、④介入、⑤経過観察・再アセスメント・効果測定・評価、⑥交渉などの各技術を効果的に活用するための理論と方法について理解を深めていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	相談援助の理論と方法A、Bを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規、2015年				
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーにて質問や相談を受け付ける。また、出席カードやメール等でも質問を随時受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	相談援助の基本的な援助過程を専門的知識に基づいて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	相談援助の各技術（アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、経過観察・再アセスメント・効果測定・評価、交渉）における意義、目的、方法、留意点を述べることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	相談援助の基本的な援助過程を専門的知識に基づき、相談援助の各技術（アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、経過観察・再アセスメント・効果測定・評価、交渉）における意義、目的、方法、留意点について理解し、事例検討において効果的に活用することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	相談援助の基本的な援助過程を専門的知識に基づき、相談援助の各技術（アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、経過観察・再アセスメント・効果測定・評価、交渉）における意義、目的、方法、留意点について理解し、説明することができる。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション・相談援助の援助過程及び各技術に関する復習	講義	相談援助の援助過程及び各技術に関する復習
2	人と環境の相互作用	質疑応答・講義	テキスト第3章を読むこと
3	相談援助のためのアウトリーチの技術①	質疑応答・講義	テキスト第7章を読むこと
4	相談援助のためのアウトリーチの技術②	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第7章を読むこと
5	相談援助のための契約の技術	質疑応答・講義	テキスト第8章を読むこと
6	相談援助のためのアセスメントの技術①	質疑応答・講義	テキスト第9章を読むこと
7	相談援助のためのアセスメントの技術②	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第9章を読むこと
8	中間のまとめ：確認小テストと解説	質疑応答・小テスト・講義	テキスト第3章、第7～9章と配布プリントの復習

9	相談援助のための介入の技術①	質疑応答・講義	テキスト第10章を読むこと
10	相談援助のための介入の技術②	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第10章を読むこと
11	相談援助のための経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術①	質疑応答・講義	テキスト第11章を読むこと
12	相談援助のための経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術②	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第11章を読むこと
13	相談援助のための交渉の技術①	質疑応答・講義	テキスト第14章を読むこと
14	相談援助のための交渉の技術②	質疑応答・講義・小グループでの事例検討	テキスト第14章を読むこと
15	全体のまとめ：確認小テストと解説	質疑応答・小テスト・講義	テキスト第10章、第11章、第14章と配布プリントの復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				第4回、第7回、第10回、第12回、第14回において小グループでの事例検討														

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助の理論と方法D			単位	2
科目名（英語）	Social Work Theory and Methods D			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	河野 高志				
授業概要	社会福祉士国家試験の受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、①グループワーク、②コーディネーションとネットワーキング、③社会資源の活用・調整・開発、④スーパービジョンとコンサルテーション、⑤ケースカンファレンス、⑥個人情報保護、⑦情報通信技術（ICT）の活用、について解説していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規 2015年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する）2,600円				
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）の特徴を説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	相談援助の展開方法や実際の例を理解し、自分なりの意見を整理することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、に関する用語の意味が理解できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、について実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、についてある程度理解した上で自らの考えをまとめることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、に関する用語の意味が理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）、に関する用語の意味が理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50	10				60
思考・判断・表現	(DP3)	10	30				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	グループを活用した相談援助 ①	講義	テキスト第3章を読むこと
2	グループを活用した相談援助 ②	質疑応答、講義	テキスト第3章を読むこと
3	コーディネーションとネット	質疑応答、講義	テキスト第4章を読むこと

	ワーキング①		
4	コーディネーションとネットワーキング②	質疑応答、講義	テキスト第4章を読むこと
5	社会資源の活用・調整・開発①	質疑応答、講義、小テスト	テキスト第5章を読むこと
6	社会資源の活用・調整・開発②	質疑応答、講義	テキスト第5章を読むこと
7	社会資源の活用・調整・開発③	質疑応答、講義	テキスト第5章を読むこと
8	スーパービジョンとコンサルテーション①	質疑応答、講義	テキスト第9章を読むこと
9	スーパービジョンとコンサルテーション②	質疑応答、講義	テキスト第9章を読むこと
10	ケースカンファレンス①	質疑応答、事例検討、小テスト	テキスト第10章を読むこと
11	ケースカンファレンス②	質疑応答、事例検討	テキスト第10章を読むこと
12	ソーシャルワークにおける個人情報保護①	質疑応答、講義	テキスト第11章を読むこと
13	ソーシャルワークにおける個人情報保護②	質疑応答、講義	テキスト第11章を読むこと
14	ソーシャルワークにおける情報通信技術 (ICT) の活用①	質疑応答、講義	テキスト第12章を読むこと
15	ソーシャルワークにおける情報通信技術 (ICT) の活用②	質疑応答、講義	テキスト第12章を読むこと
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク													○	○				
その他 ()																		
内容				少人数のグループに分かれて事例検討を行い、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	奥村 賢一			
授業概要	本演習では、主に学校ソーシャルワーク、児童福祉、障害児・者福祉などの各分野から学生が関心をもつテーマについて持ち寄り、小集団における意見交換などを通して課題意識を高めていく。また、各々で情報収集や課題整理を行い、それらの研究から導き出されたものを具体的に表現していく方法を習得して、卒業論文へとつなげていくことをねらいとする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	特になし。適宜紹介をしていく。			
参考図書・教材等	特になし。適宜紹介をしていく。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	小集団での演習を通して関心ある内容を絞り、明確なテーマを選定することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	文献検索、資料収集方法、論文の書き方等を理解して意欲的に取り組むことができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	卒業論文テーマに関連する先行研究等の資料およびデータの収集を行い、適切な分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
卒業論文の作成に向けて小集団における意見交換などを通して課題意識を高め、各々が主体的かつ計画的に情報収集や課題整理を行い、それらの研究から導き出されたものを具体的に表現していく方法を習得する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
卒業論文の作成に向けて小集団における意見交換などを通して課題意識を高め、各々で情報収集や課題整理を行い、それらの研究から導き出されたものを表現していく方法を習得する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					50		50	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)				30			30
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)				10		25	35
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP 10)				10		25	35
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の確認 演習の進め方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 各自、関心のあるテーマを絞り、それをイメージ化しておくこと
2 ~ 10	【3年次前期・前半】 ①研究テーマの選定方法 ②研究課題の整理方法 ③文献検索及び資料収集の方法 ④プレゼンテーション方法	<ul style="list-style-type: none"> ①から④の解説 グループ討論 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの選定に向けて、関心ある分野の先行研究の渉猟を行うこと 事前・事後課題については授業時に指示する
11 ~ 15	【3年次前期・後半】 ①各関心テーマの課題整理 ②各関心テーマの資料収集 ③各関心テーマの発表準備 ④各関心テーマの発表	<ul style="list-style-type: none"> ①から④の指導助言 グループ討論 	<ul style="list-style-type: none"> 渉猟した先行研究を資料としてまとめていくなかで、研究テーマを絞り込むこと 事前・事後課題については授業時に指示する
16 ~ 20	【3年次後期・前半】 ①研究テーマの絞込み ②論文の作成方法 ③研究の視点及び研究(調査)方法 ④研究構想に関する検討	<ul style="list-style-type: none"> ①から④の指導助言 グループ討論 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の研究テーマと研究構想を固めていくこと 事前・事後課題については授業時に指示する

21 ~ 30	【3年次後期・後半】 ①卒業論文テーマの確定 ②卒業論文構成内容の確定と作成開始 ③卒業論文発表会への参加 ④中間発表会に向けた準備及び発表 ⑤中間発表会	・①から⑤の指導助言	・卒業論文の骨子を作り上げる
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容																	
講義回数			16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（中間発表・質疑応答）																	○
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	河野 高志			
授業概要	前期は、卒業論文で取り扱ってみたいテーマを探すことや卒業論文の書き方の習得から学習を始める。次に、各自が関心のある社会福祉のテーマについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。それを踏まえて卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心の整理をしていく。後期は、卒業論文の仮テーマを決定し、論文の構成を検討しつつできるだけ執筆をすすめていく。また、卒業論文中間発表会の準備を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	グループ・ディスカッションやプレゼンテーションが中心となるため、積極的な参加を期待する。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	適宜指示する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	必要に応じて適宜相談を受ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	関心のあるテーマについて文献や資料にもとづき現状や問題を説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	①社会福祉に関するテーマを主体的かつ積極的に調べることができる。 ②自らが取り上げたテーマに関するプレゼンテーションができる。 ③他者が取り上げたテーマに関する議論へ積極的に参加できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	①関心のあるテーマやそれにかかわる内容を先行研究から整理できる。 ②文献や資料にもとづき卒業論文を執筆することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会福祉に関するテーマについて主体的かつ積極的に調べ、その結果としての現状や問題などを的確に整理した上で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会福祉に関するテーマについて調べることができる。また、その結果を資料にまとめることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

社会福祉に関するテーマについて主体的かつ積極的に調べ、その結果としての現状や問題などを的確に整理した上で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。また、他者のプレゼンテーションに対して積極的に議論に参加し、自らの意見を述べ、ディスカッションすることができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

社会福祉に関するテーマについて主体的かつ積極的に調べ、その結果としての現状や問題などを的確に整理した上で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

社会福祉に関するテーマについて調べ、その結果を資料にまとめてプレゼンテーションすることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

社会福祉に関するテーマについて調べることができる。また、その結果を資料にまとめることができる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

社会福祉に関するテーマについて調べることができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		10	15			25
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		30	15			45
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		30				30
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	前期オリエンテーション	授業内容等の説明	
2～11	①社会福祉について関心があるテーマを探す ②関心のあるテーマに関するプレゼンテーションとディスカッション	①ゼミ生と協議のうえで授業方法を決定します ②基本的にはゼミ生が関心のある社会福祉のテーマについて発表し、学生同士で議論できるような授業展開を考えています	≪事前学習≫ ①関心のあるテーマについて、文献や論文などを読み、調べること ②発表に必要な資料を作成すること ≪事後学習≫ ①各回の発表を踏まえて、次回発表の内容や構成を検討すること ②卒業論文で取り上げたいテーマを考えること
12	卒業論文の書き方の解説	講義	
13	卒論テーマの検討①	卒論で取り上げたいテーマを発表	卒論テーマを考えておく。発表と議論を踏まえて再検討する。

14	卒論テーマの検討②	卒論で取り上げたいテーマを発表	卒論テーマの検討を重ねる。
15	卒論テーマと論文構成の検討	発表・ディスカッション	卒論で取り上げるテーマと論文構成について概要を整理しておく。
16	後期オリエンテーション	授業内容等の説明	
17	卒論テーマの仮決定	仮テーマと論文構成を発表・ディスカッション	適宜、個別に指導する。 テーマに沿って計画的に卒論を進める。
18 ～ 20	卒論テーマの精緻化と研究計画の作成	研究計画の作成・発表／ディスカッション	
21 ～ 28	卒論の執筆 進捗状況の確認	ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う	
29	卒論中間発表会の準備	中間発表の資料を作成する	
30	卒論中間発表会	ポスター形式での発表	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			自らの関心のあるテーマについて自主的に調べ、その結果を発表する。また、発表内容に対してグループ・ディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習	単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年	開講時期	通年
担当教員	鬼塚 香		
授業概要	本演習では、各学生が関心を持つテーマを取り上げ、プレゼンテーションおよびグループディスカッションをおこなうなかで、卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心を整理していく。また、卒業論文の執筆や調査の方法について学び、卒業論文執筆に向けた準備を行う。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	必要に応じて随時紹介する		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーで対応するが、必要に応じてそれ以外でも可能な限り対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	自分が関心ある社会福祉に関するテーマについて、文献等に基づき現状や課題を明らかにすることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自分あるいは同じグループの学生が関心あるテーマについて、プレゼンテーションやグループディスカッションへ、主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	卒業論文で取り上げるテーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
卒業論文の執筆や調査方法について正確に理解した上で、自らが関心あるテーマに関する情報を適切にまとめ、卒業論文で取り上げるテーマを選び、説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
卒業論文の執筆や調査方法について理解した上で、自らが関心あるテーマに関する情報を集め、卒業論文で取り上げるテーマを選ぶことができる。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
卒業論文の執筆や調査方法について応用方法も含めて理解した上で、自らが関心あるテーマに関する情報を複数の論点から適切にまとめ、卒業論文で取り上げるテーマを選び、分かりやすく説明することができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
卒業論文の執筆や調査方法について正確に理解した上で、自らが関心あるテーマに関する情報を適切にまとめ、卒業論文で取り上げるテーマを選び、説明することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
卒業論文の執筆や調査方法についてある程度理解した上で、自らが関心あるテーマに関する情報をまとめ、卒業論文で取り上げるテーマを選ぶことができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
卒業論文の執筆や調査方法について理解した上で、自らが関心あるテーマに関する情報を集め、卒業論文で取り上げるテーマを選ぶことができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
卒業論文の執筆や調査方法について理解できず、卒業論文で取り上げるテーマを選ぶことができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	50			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)			○	○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○	○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	演習	授業内容の振り返り
2～6	論文の基本／論文の読み方、書き方について学び、基本文献を数点選定し、実際に読んで理解する	演習	事前学習：課題論文の読み込み 事後学習：講義及びディスカッションの内容を整理
7～15	関心あるテーマの絞り込み／各学生による収集文献等のプレゼンテーションおよびグループディスカッションを通じて、卒業論文で取り上げたいテーマを絞り込む	演習	事前学習：文献等資料の収集とプレゼンテーション用レジュメの準備 事後学習：ディスカッションをもとに修正や再整理
16～20	卒業論文の基本／テーマの決定・章立て・調査方法等について学び、研究計画を作成する	演習	事前学習：研究計画の作成と発表準備 事後学習：講義及びディスカッションをもとに修正や再整理

21～ 29	卒業論文執筆準備／各学生による先行研究レビューおよび調査に向けた準備のプレゼンテーションおよびグループディスカッションを行い、卒業論文を執筆する準備を進める	演習	事前学習：卒業論文の準備およびプレゼンテーション用レジユメの準備 事後学習：ディスカッションをもとに修正や再整理
30	卒業論文中間報告会	発表	事前学習：中間報告会の準備およびプレゼンテーション用資料の準備 事後学習：意見交換をもとに修正や再整理
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				ゼミ生が卒業論文で取り上げようとするテーマについて、グループディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	本演習では卒業論文に取り組む際に必要となる基本的な研究方法の習得を目指す。前期は文献輪読やワークショップなどを行いながら、各自の問題意識と採用する研究方法について明確にしていく。後期は各自のテーマについて研究と研究報告を行うことが中心となる。先行研究・文献を収集し、関連するデータを集めて分析し、レポートを書くという一連の流れを体験し、卒業論文作成の基礎を養う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修の前に必ず担当教員と所属学科の教務担当教員に相談してから履修すること。 遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。			
テキスト	テキストは授業内で相談の上決定する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	研究に関する基本的な技法や自らの問題関心に関する基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの問題意識を持ち、自ら調べ、考えることができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に提言することや働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会的事象に関する問題について、社会学の手法を使って調べ、分析することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけ、結果を論理的にまとめ、表現することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業外レポート	演習					合計
総合評価割合		40	60					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)	○	○					
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○	○					
備考	授業では積極的に議論や取り組みに参加・貢献している場合に評価する。							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	ゼミメンバー各自の問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。	演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
3	輪読する文献の決定。報告する分担を決める。	演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
4-12	文献輪読。基本は担当部分についてレジュメを準備・報告し、全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理やレジュメ作成の方法、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。各自の研究テーマについて、研究の準備を始める。	演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
13-14	各自の研究テーマと研究方法について、研究計画や途中経過を報告し合い、アドバイスをを行う。	演習	前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
15	前期のまとめ。夏休み中の研究の進め方や後期の計画について相談する。	演習	前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
16	ガイダンス	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
17-22	各自の研究テーマについて、資料やデータの収集と分析を行い、口頭や文章で研究報告を行う。教員	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。

	の指導に加えて、ゼミメンバー同士でアドバイスをしあう。		
23-29	各自の研究テーマについて、アカデミックな論文の形式に従ったレポートを執筆する。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でコメントをしあい、レポートの完成度を高める。	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
30	まとめ。4年生の卒論演習に向けて相談し計画を立てる。	演習	データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	寺島 正博			
授業概要	本演習は社会福祉を中心に興味を持てる研究テーマを各学生が決め、グループ討議によりその研究テーマの課題を明らかとし卒業論文の作成につなげていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上、新聞等で取り上げられている各自の卒業論文に関する記事を注意深く読むことが望ましい。			
テキスト	各自の研究テーマに応じて紹介する。			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、福祉の実践現場を踏まえて助言する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付ける。しかし、状況に応じてそれ以外の時間帯についても可能な限り対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	研究テーマを設定し、その研究テーマに基づいた背景や目的を明確にすることができる。グループでの討議を通して共に悩み考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	集めたデータを分析・検討することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	研究領域における専門性を身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行い、研究領域における専門性を身に付けることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行うことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行い、研究領域における専門性を身に付け、独自性を持った研究に着目することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行い、研究領域における専門性を身に付けることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行い、研究領域においてある程度の専門性を身に付けることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行うことができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
研究テーマに基づいた背景や目的を明確にし、集めたデータの分析を行うことができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（今後の授業の進め方）	講義	
2～10	【研究テーマと先行研究】 ・各自が興味を持てる研究テーマを発表する。 ・興味を持てる研究テーマに沿った文献の状況と内容を発表する。 ・文献からの課題を発表する。	発表・ディスカッション	・各自が興味を持てる研究テーマを考える。 ・興味を持てる研究テーマに沿って関連する文献を集める。 ・文献から課題を考える。
11～15	【卒業論文の作成方法】 ・調査法の選定（質的調査や量的調査）を発表する。 ・卒業論文の全体像流れを発表する。	発表・ディスカッション	・先行研究から調査法を検討する。

16～ 30	【卒業論文作成】 ・研究テーマを発表する。 ・卒業論文の全体構造の構想を発表する。 ・卒業論文の内容を発表する。	発表・ディスカッション	・論文作成。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	社会現象をモデル化し、小問題に切り分けながら解決することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマを定め、それに関連する論文や資料を自主的に収集、分析することができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ある程度の研究テーマを定め、それに関連する論文や資料を収集、分析することができる。研究テーマに関するICTの基盤知識を理解する。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習	授業態度・参加度	発表	課題・レポート	その他	合計
総合評価割合		20	20	30	30		
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○		○	○	
思考・判断・表現	(DP3)		○		○	○	
	(DP4)		○	○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)				○	○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○	○	○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション	演習	ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものを考えておく。
2,3	輪読用の文献決め。分担	演習	
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジユメの作成、討議を含む。	演習	担当部分について、レジユメを作成、討議できるよう準備しておく。また、討議で出てきた話題について、自分なりの回答を出す。
13,14	後半に向けての研究テーマ決め	演習	研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。
15	中間のまとめ・後期の研究計画	演習	後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。
16	今後の研究方法を検討	演習	
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。	演習	各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集や PC での作業を進めておくこと。
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議	演習	討議の内容について、回答を出す。
28,29	研究レポートの作成	演習	各自テーマについて、研究レポートを

			作成する。
30	後期のまとめ	演習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	住友 雄資			
授業概要	本演習は3段階で展開する。第1段階は基本文献の収集・講読・発表・討論等をおこなう。第2段階は各自が関心のある文献の収集・講読・発表・討論等をおこないながら、研究法や研究倫理等について検討する。第3段階は、各自が研究テーマを定め、そのテーマをより深めるための発表・討論を中心に展開し、最終的には卒業論文執筆に向けての研究計画書を作成する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	特になし			
参考図書・教材等	ゼミを進めながら適宜文献を紹介する。			
実務経験を生かした授業	ソーシャルワーク実践の実務経験を有する教員が、社会福祉関連文献の読解などに関する専門知識・技術の修得を指導する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	ゼミの前後、随時空き時間(オフィスアワー含む)、メール等で対応。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	各種文献を収集・講読し、個別発表・討論等を行うことを通じて、自らの研究テーマを明確にできる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	卒業論文で取り組む研究計画書を作成・発表することで、卒業論文作成のための枠組みを明確にできる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会福祉関係の先行研究レビューから研究テーマを明確化することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えをわかりやすく表現できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
「授業概要」について応用も含めて理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

あり	○	なし																	
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	松岡 佐智			
授業概要	本演習では、各学生が関心のある社会福祉分野のテーマについて、グループでのプレゼンテーション及びディスカッションを行うことにより、各テーマの課題等について明らかにしていく。さらに、それらの結果を踏まえて、卒業論文で取り組むテーマを確定し、執筆を行うための準備（章立て・資料収集・研究方法の確定等）をする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	特になし。適宜紹介をしていく。			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	基本的には授業終了時及びオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	自分の関心があるテーマについて、先行研究のレビューを通して、課題を明らかにすることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	①自分の関心があるテーマについて、意欲的に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。②グループの他のメンバーのプレゼンテーションを踏まえ、ディスカッションに積極的に参加することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	卒業論文テーマに関連する先行研究等の文献の収集及び整理を行い、分析を行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	①自分の関心があるテーマについて、意欲的に先行研究の収集をすることができる。②自分の関心があるテーマについて、先行研究のレビューを通して課題を明らかにし、分かりやすくプレゼンテーションすることができる。③グループの他のメンバーのプレゼンテーションを踏まえ、ディスカッションに積極的に参加し、自ら意見を述べるることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

①自分の関心があるテーマについて、先行研究の収集をすることができる。②自分の関心があるテーマについて、先行研究のレビューを通して課題を明らかにし、プレゼンテーションすることができる。③グループの他のメンバーのプレゼンテーションを踏まえ、ディスカッションに参加することができる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				50		50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（授業方法の説明と確認）、次回に向けての課題の説明	講義	自分の関心がある社会福祉に関するテーマについて、動向・法的根拠を調べる
2	各自が現在関心を持っている社会福祉に関するテーマについての動向・法的根拠等の発表。	プレゼンテーション及びディスカッション	①自分の関心がある社会福祉に関するテーマについて、動向・法的根拠を調べる。②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う
3	文献収集の方法についての講義、文献リストの作成	講義・個人ワーク	自分の関心のあるテーマについて、先行研究等の文献リストの作成を行う
4	先行研究のレビュー内容の発表		①プレゼンテーションができるよう

5	表	プレゼンテーション及びディスカッション	に、先行研究の資料収集を行い、レジюмеを作成する ②ディスカッション結果を基に、作成したレジюмеの修正や再整理を行う			
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13				社会福祉施設の現状と課題の把握	施設見学	見学する施設の概要及びサービスの特徴について調べる
14						
15						
16				卒業論文作成に向けた①論文の執筆方法、②研究方法、③論文の構成について	講義	①論文の執筆方法、②研究方法、③論文の構成に関する資料を読む
17						
18						
19	卒業論文で取り組むテーマを確定し、研究方法の確定、先行研究のレビュー内容等の発表、章立ての作成	プレゼンテーション・ディスカッション・個人ワーク	①プレゼンテーションができるように、資料収集を行い、レジюмеを作成する ②ディスカッション結果を基に、作成したレジюмеの修正や再整理を行う ③卒業論文の章立て（仮）を行う			
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27	中間報告会に向けたポスターの作成と発表練習	講義・個人ワーク・プレゼンテーション	中間報告会用のポスターの作成と発表練習			
28						
29						
30	中間報告会における発表	プレゼンテーション	質疑内容を参考にし、研究方法や章立てに反映させる			
備考						

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第2回、第4～12回、第10回、第19～30においてプレゼンテーション及びディスカッション、第12～15回施設見学														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3	開講時期	通年	
担当教員	森脇敦史			
授業概要	本演習では、卒業論文の執筆に必要となる研究手法の基本的事項を学ぶ。教科書として指定した文献の輪読により法律学の基本的な方法論を学ぶとともに、卒業論文のテーマについて定期的に報告する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	道垣内弘人『リーガルベシス民法入門（第3版）』（日本経済新聞出版社、2019年）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	法律学の基本的な知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会問題を、法的観点から説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの問題関心に基づいて、問いを設定し考えることができる。
		(DP6)	法的知識に基づき、社会問題の解決に向けた提言ができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	法的議論に必要な資料の収集・分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
法律学の方法論の基礎的手法を理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
法律学の方法論の基礎的手法を用いて、自らの問題関心を設定することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合				30	40		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)			◎	◎			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○		◎	
	(DP6)				○		◎	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			◎	◎			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	前期 ・文献の輪読 ・各自のテーマ報告 後期 ・文献の輪読 ・各自のテーマ報告 ・研究計画の作成	演習	教科書の該当部分を読み、報告を準備
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	演習の中での話し合いで決定する。			
参考図書・教材等	演習の中での話し合いで決定する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマに沿って各種の資料を収集し、収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			

A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			50	20		30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		◎	◎			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		◎			◎	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		◎	◎			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション (ゼミの進め方)	演習	次回の資料について予習
2~7	演習に関する図書や参考資料の輪読	演習	各自、輪読する資料について予習・復習
8	各自の (仮) 研究テーマの設定	演習	研究テーマの設定
9,10	各自の (仮) 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集
11,12	各自の (仮) 研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集
15	演習(前期)のまとめと演習(後期)に向けての計画	演習	資料・問題整理

16	各自の研究テーマについて中間報告（後期はじめ）	演習	全員、報告資料を用意
17~25	収集した文献、データ等の整理、各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意、資料収集
26~30	報告書の作成	演習	報告書の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし												
講義回数				1	2~7	8	9,10	11,12	13,14	15	25	17~25	26~30	
発見学習／問題解決学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）														
内容				テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成を行う。グループ・ディスカッションにより研究方法を上達させていく。										

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	村山 浩一郎			
授業概要	本演習では各学生が社会福祉分野のなかでとくに興味を持つテーマを明確にし、そのテーマを深めるための研究を行うとともに卒業論文作成の準備を進める。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にないが、「地域福祉論Ⅰ」「地域福祉論Ⅱ」及び「社会福祉調査法」を履修済みもしくは同時に履修することが望ましい。			
テキスト	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。			
参考図書・教材等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	学習に関する相談は随時受け付ける。メールによる相談も可。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	社会福祉およびそれに関連する問題の中から自分の問題意識に基づいて研究テーマを設定し、そのテーマを探究するための研究計画を立てることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①自分の問題意識に基づく研究テーマを設定し、そのテーマを探究するための適切な研究計画を立てることができる。②主体的に作成した研究計画に基づき、研究テーマの探求に意欲的に取り組むことができる。③研究テーマの探求に必要な先行研究や資料を幅広く収集し、適切に整理・分析できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
①自分の問題意識を明確化し研究テーマを設定することができる。②テーマを探究するための大まかな作業の方向性を確定し、取り組むことができる。③研究テーマの探求に必要な先行研究や資料を見つけ、内容を理解することができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		受講者の発表（プレゼン）	授業態度・授業への参加度	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	○						
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○						
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1～7	【3年前期前半】 教員の専門分野である地域福祉を中心に共同で学習しながら、自分の研究テーマを探す。	文献の輪読、ディスカッション等を行うほか、必要に応じて学外の地域福祉現場への見学やフィールドワークなどを行う。	指定された文献や関連文献を集め、読み込む。また、学外の地域福祉現場への見学やフィールドワークを行う際には、現場に関する情報を収集し、事前学習をしっかりと行う。
8～15	【3年前期後半】 (1)演習を選択したメンバーがそれぞれどのようなテーマに興味を抱いているか、各自発表する。 (2)卒業論文を作成するための方法を講義 ①論文の基本的な作成方法 ②量的調査法（質問紙法など） ③質的調査法（インタビュー法）	講義、及び自分の研究テーマに関する発表とディスカッション	興味のあるテーマを見つけ、それに関する文献を収集し、その内容をまとめる。

	④事例研究法 ⑤文献研究法		
15～ 30	<p>【3年後期】</p> <p>①研究テーマを確定し、その研究テーマを探求するための研究計画を作成する。授業で各自、検討状況を報告し、最終的に2月の中間発表会で研究テーマと研究計画を発表する。</p> <p>②研究テーマの探求に必要な先行研究や関連文献・資料を収集・整理し、その作業状況を授業で各自報告する。</p>	<p>授業で自分の研究テーマと研究計画の検討状況や関連文献の収集・整理作業の状況を報告し、ディスカッションを行う。また、必要に応じて個別指導を行う。</p>	<p>自分の研究テーマを確定する。そして、そのテーマに合う研究方法を検討し、研究計画を作成する。</p> <p>研究テーマの探求に必要な先行研究や関連文献・資料を収集し、読解し、整理する。</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				自分の研究テーマを設定し、主体的に探究を進める。適宜、授業の中で研究の進捗状況を発表し、ディスカッションを行うとともに、学年全体で中間発表会を実施する。また、必要に応じて、福祉現場の見学やフィールドワーク、社会福祉調査などを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習			単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格			
標準履修年次	3	開講時期	通年		
担当教員	本郷 秀和				
授業概要	<p>本演習の前半は、卒業論文につながるような各自の研究テーマの設定に当たり、まずテキストで社会福祉の基本を確認するとともに、社会福祉の基本用語を確認していく。</p> <p>演習後半では、社会福祉に関する企業研究・職場研究、福祉施設見学等に取り組む。具体的には、①様々な福祉職の活動領域と社会福祉士の専門性・業務に関する事柄（例：業務内容の詳細や求人・待遇問題等）、②高齢者福祉に関する現代的諸問題と地域における高齢者関連の社会資源の理解、③福祉活動に取り組む民間非営利組織（NPO 法人中心）の役割と介護事業（小規模通所介護等）等に関する事柄等を学んでいく。また、様々な論文を読むことで文章構造の理解を図ることや、基礎的な研究方法等を理解することで、卒業論文作成の基礎力を習得する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会福祉士の指定科目を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』講談社、2018。				
参考図書・教材等	九州社会福祉研究会編、本郷秀和ら編集代表『21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社。				
実務経験を生かした授業	社会福祉経営者としての実務経験を活かし、定款、財務諸表、運営基準、契約書作成技法の理解に加え、就職先の探し方や留意点などの理解も深めたい。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問等があれば、適宜対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	与えられたレポート課題等について、論理的な文章構成を立案してまとめることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	文献収集等を通じ、各自が卒論のテーマとする福祉課題を発見し、その現状や想定される課題を説明できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法を説明できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	<p>①社会福祉全般に関する基本知識を習得する。</p> <p>②社会福祉の様々な職場や専門職に求められる役割等を他者に説明できる。</p> <p>③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法を説明できる。</p>		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		
	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	<p>①社会福祉全般に関する基本知識を習得する。</p> <p>②社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる役割等を他者に説明できる。</p> <p>③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法を説明できる。</p>		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 以下の3点について、ほぼ完全に理解している。 ①社会福祉全般に関する基本知識。 ②社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる知識・役割等。 ③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法。
A：80～89	履修目標を達成している。 以下の3点について、おおむね理解している。 ①社会福祉全般に関する基本知識。 ②社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる知識・役割等。 ③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 以下の3点について、ある程度理解している。 ①社会福祉全般に関する基本知識。 ②社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる知識・役割等。 ③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法。
C：60～69	到達目標を達成している。 以下の3点について、最低限のポイントを理解している。 ①社会福祉全般に関する基本知識。 ②社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる知識・役割等。 ③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 以下の3点について、あまり・ほとんど理解していない。 ①社会福祉全般に関する基本知識。 ②社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる知識・役割等。 ③福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50		50			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)		10		20			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		10		20			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		30		10			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	・オリエンテーション	* 指定テキストを輪読し、わからない言葉等があれば適宜調べ、お互いに説明していく。	* 指定教科書について、進捗状況や各自の理解状況を把握しながら、予習復習の範囲を別途指示する。
2-4	・社会福祉とは ・日本の社会福祉の歴史 ・社会保障と社会福祉の展開組織		
5-8	・子ども家庭福祉 ・障がい者福祉 ・高齢者福祉		
9-10	・介護保険制度とチームアプローチ		
11-13	・低所得者福祉 ・地域福祉とその推進方法 ・精神保健福祉と医療福祉		
14-15	・社会福祉施設の役割 ・社会福祉を担う人々		
16	・前期のまとめ(小テスト形式)と各自の解説	小テストと解説	
17	・福祉新聞を見てみよう ・先輩の卒論を見てみよう	最新の動向・情報や卒論の概要を調べてみる。	
18-29	・社会福祉の様々な職場や運営形態、専門職に求められる役割等について(施設見学の場合あり)。 ・定款・事業報告書、財務諸表等の基本理解 ・福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法について。	* 進め方は各自のテーマにより異なるが、基本事項は全員に向けて解説する。 * 課題はグループ共通課題と個別課題に分けて進める。 * 施設見学に行く場合、夏休みに行く場合がある。	* 授業終了時に指示する。 レポート報告の場合には、課題に対する資料収集・整理、報告準備等に取り組む(内容は個別に異なるため、別途指示する)。
30	全体まとめと個別相談	まとめ・質疑応答など	春休みの宿題を課す
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数	1-16	17-29	30																
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習		○																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク		○																	
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉学演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	通年	
担当教員	廣田 久美子			
授業概要	本演習では、社会福祉・社会保障の法制度および政策について、グループでのプレゼンテーション、ディスカッション等を行い、基本的な論点やそれぞれ関心のあるテーマの課題について明らかにするとともに、論文の読み方や文献調査の方法、研究手法について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	基本的には時間帯を指定して対応するが、適宜、個別の相談を受ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	①文献や資料を通して、課題整理ができるようになる。②卒業論文に向けた文献調査の方法を習得する。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	文献調査等の準備および実施を通じて、社会福祉およびそれに関連する問題に関心を持ち、それに取り組む意欲を示すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会福祉・社会保障の法制度および政策に関する文献を通読し、設定されたテーマについて自ら調査・分析した結果を基にしたディスカッションや発表を行うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会福祉・社会保障の法制度および政策に関する文献を通読し、設定されたテーマについて、自らの考えをわかりやすくまとめ、ディスカッションや発表を行うことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			10	20	70			
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)		○	○	○			
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)		○	○	○			
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)		○	○	○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション	演習 (基本的事項の確認と具体的な進め方についての話し合い)	社会福祉において関心のあるテーマについて調べる
2~15	社会福祉に関するテーマに関連する文献の輪読	演習	課題文献を読む
16~20	文献調査と分析	演習	関心のあるテーマについて、基本的な文献を収集する

21 ～ 30	論文の執筆準備	演習	卒業論文の執筆に必要な調査を行う (発表者は、レジユメを作成する)

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	前期・後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を修得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない（福岡県立大学学部履修規則第4章第20条）。			
テキスト	テーマに応じて適宜紹介する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自ら設定したテーマに関する内容、分析手法、結論を、他者に論理的に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自ら問いを立て、研究に主体的に取り組む、研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。研究テーマの内容、分析手法、結論を、他者に論理的に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマに沿って各種の資料を収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる			
A：80～89 履修目標を達成している			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない			

C : 60～69	到達目標を達成している
不可 : ～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標		卒業論文	卒業論文 要旨	授業外レポ ート・宿題	卒業論文 発表会	ポートフォ リオ	授業態度・ 授業への参 加度	合計
総合評価割合		75	15		10			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	◎						
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	◎	◎		◎			
関心・意欲・態度	(DP5)	◎	◎		◎			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	◎						
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション	演習	次回の資料について予習
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。	演習	必要な文献やデータを収集する。
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。	演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出	演習	卒業論文全体の草稿を準備する。
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。	演習	草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会	演習	卒業論文を完成させる。
26-27	完成原稿の最終確認、提出。	演習	卒業論文を完成させる。
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。	演習	卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。	演習	発表会の準備をする。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし											
講義回数				1	2~7	8	9,10	11,12	13,14	15	25	17~25	26~30
発見学習／問題解決学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）													
内容				自ら設定した研究テーマに関する文献やデータ収集、分析、卒業論文の作成を行う。グループ・ディスカッションにより研究方法を上達させていく。									

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6単位
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	奥村 賢一			
授業概要	これまでの大学における専門教育の集大成として卒業論文を位置づける。各自の研究関心に基づいて設定したテーマに則して、必要な個別指導を受けながら計画的に調査・研究活動を進めて卒業論文を完成させていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	学部履修規程を各自が必ず確認しておくこと。			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 ・授業時に適宜プリントや資料等を配布する。 			
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究テーマに応じた先行研究（論文・報告書・専門書他） ・詳細については論文指導の際に説明を行う。 			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	卒業論文のテーマについて探求し、その研究成果を論理的に表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	卒業論文のテーマおよび関連する問題に関心を持ち、論文作成に向けた意欲を示すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究手法を身につけて、それらを実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らの研究関心に基づいて設定したテーマに則して、計画的に調査・研究活動を進めて独創的かつ論理的な卒業論文を完成することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
自らの研究関心に基づいて設定したテーマに則して、計画的に調査・研究活動を進めて卒業論文を完成することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				20		80	100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)						
思考・判断・表現	(DP 3)						
	(DP 4)			10		30	40
関心・意欲・態度	(DP 5)					20	20
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)				10	30	40
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の確認。 今後の進め方についての話し合い。 具体的なスケジュールを計画する。 	卒業論文の題目を確定して各自執筆を本格的に開始する。
2 ~ 15	【4年次前期】 ①卒業論文の作成 ②調査に向けた準備および実施 ③調査結果のまとめと分析 ④卒業論文作成スケジュールの確認	<ul style="list-style-type: none"> ①から④の個人及び集団指導助言 グループ討論 	指導内容を踏まえて卒業論文の作成を進めていくこと。
16 ~ 29	【4年次後期】 ①卒業論文の推敲 ②卒業論文の完成 ③卒用論文の提出に向けた準備(要旨等の作成) ④卒業論文発表会に向けた発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ①から④の個人及び集団指導助言 グループ討論 	指導内容を踏まえて卒業論文の完成に向けた最終的な作業を進めていくこと。
30	卒業論文発表会	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の内容に関するプレゼンテーション 出席者からの質疑応答 	プレゼンテーションの事前準備並びに予行演習を行っておくこと。

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（卒論発表・質疑応答）																		○
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	河野 高志			
授業概要	「社会福祉学演習」（3年・通年）の内容をふまえ、卒業論文を完成させるための論文指導を行う。また、卒業論文提出後の報告会の準備と発表の指導も行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	論文執筆と添削・修正を繰り返すため、積極的な姿勢で臨むことを期待する。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	適宜指示する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	必要に応じて適宜相談を受ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	卒業論文の内容について分かりやすく要点をまとめてプレゼンテーションすることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	卒業論文のテーマに関連した文献や論文を収集できる。また、独自の調査を計画できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	先行研究や資料、調査等に基づいて卒業論文を完成させることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>文献や論文等の先行研究や資料、独自に実施する調査の結果に基づいて、卒業論文を完成させることができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p> <p>必要最低限の資料等をもとに、卒業論文を完成させることができる。</p>		
成績評価の基準	<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p> <p>十分な量の先行研究や資料、独自に実施する調査の結果の分析・考察に基づいて、卒業論文を完成させることができる。また、その結果とオリジナリティを詳細かつ分かりやすくプレゼンテーションすることができる。</p> <p>A：80～89 履修目標を達成している。</p> <p>文献や論文等の先行研究や資料、独自に実施する調査の結果に基づいて、卒業論文を完成させることができる。また、その結果を詳細かつ分かりやすくプレゼンテーションすることができる。</p>		

グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	先行研究の渉猟（問題の発見、解決策の検討など）、調査の実施など														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文	単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	4年	開講時期	後期
担当教員	鬼塚 香		
授業概要	「社会福祉学演習」で各自が設定した研究テーマについて、研究計画に基づき調査・研究を実施し、卒業論文を執筆するための個別および集団指導を実施する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	必要に応じて随時紹介する		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーで対応するが、必要に応じてそれ以外でも可能な限り対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	各自で設定した研究テーマについて、卒業論文として論理的に文章をまとめ、プレゼンテーションすることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	先行研究や調査等を通じて、社会福祉の諸課題のなかから自分の関心あるテーマを設定し、主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	各自で設定した研究テーマに対して適切な研究・分析方法を用いて、卒業論文を完成させることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づき主体的に調査・研究を実施し、適切にまとめて卒業論文を完成させることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づき調査・研究を実施し、卒業論文を完成させることができる。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づき主体的に調査・研究を実施し、複数の論点から適切にまとめて卒業論文を完成させることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づき主体的に調査・研究を実施し、適切にまとめて卒業論文を完成させることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づき主体的に調査・研究を実施し、卒業論文を完成させることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づき調査・研究を実施し、卒業論文を完成させることができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
自らが設定した研究テーマについて、研究計画に基づいた調査・研究ができず、卒業論文を完成させることができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	20		60	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			○	○	○	
関心・意欲・態度	(DP5)			○	○	○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○	○	○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1～13	論文作成指導	個別指導およびグループディスカッション	研究計画に基づき、先行研究、調査・分析を実施し、卒業論文を執筆する。
14	卒業論文報告会準備	個別指導およびグループディスカッション	事前学習：文献等資料の収集とプレゼンテーション用レジュメの準備 事後学習：ディスカッションをもとに修正や再整理
15	卒業論文報告会	発表	事前学習：文献等資料の収集とプレゼンテーション用レジュメの準備

備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				ゼミ生が執筆する卒業論文について、必要に応じてグループディスカッションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	坂 無 淳			
授業概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修の前に必ず担当教員と所属学科の教務担当教員に相談してから履修すること。 学部および所属学科の卒業論文に関する規則や細則を事前に必ず確認すること。 遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。			
テキスト	テキストは授業内で相談の上決定する。			
参考図書・教材等	テーマに応じて適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人間と社会に関連する社会科学の専門知識を、社会学を中心として身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的事象やその問題を資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。
		(DP4)	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。
		(DP6)	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	先行研究や各種資料を適切に収集し、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけ、結果を論理的にまとめ、表現することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 自らたてたテーマに関する研究を行うための基本的な研究方法を身につけている。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	卒業論文	卒業論文要旨	卒業論文発表会				合計
総合評価割合	75	15	10				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○			
	(DP6)	○	○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。	演習	必要な文献やデータを収集する。
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。	演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出	演習	卒業論文全体の草稿を準備する。
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。	演習	草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会	演習	卒業論文を完成させる。
26-27	完成原稿の最終確認、提出。	演習	卒業論文を完成させる。
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。	演習	卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。	演習	発表会の準備をする。
	卒業論文発表会	演習	発表会の準備をする。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	寺島 正博			
授業概要	卒業論文とはこれまで大学において研究してきた成果を形にするものである。そのため、丹念に研究手法や分析、さらには論文構成を検討し完成させなければならない。具体的には各自が設定した研究テーマに沿って、グループによる討議と個別指導を繰り返し完成させていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉学演習」の履修			
テキスト	授業時に適宜プリントや資料等を配布する。			
参考図書・教材等	必要に応じて個別に紹介していく。			
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、福祉の実践現場を踏まえて助言する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的には時間帯を設定し対応するが、それ以外の時間帯についても可能な限り対応していく。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	背景や目的を明確にすることができる。適正な論文構成をすることができる。調査結果を理論立てて考察することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	独自性のある研究テーマに着目することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	適正な研究手法・分析を用いることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	適正な研究手法・分析を用いて、調査結果を理論立てて考察し論文構成をすることができる。		
	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	適正な研究手法・分析を用いて、調査結果を理論立てて考察し、適正な論文構成をことができ、且つ、独自性のある研究を行うことができる。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		
	適正な研究手法・分析を用いて、調査結果を理論立てて考察し、適正な論文構成をすることができる。		
	B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
	適正な研究手法・分析を用いて、調査結果を理論立てて考察し、ある程度適正な論文構成をすることができる。		

C : 60～69	到達目標を達成している。
適正な研究手法・分析を用いて、調査結果を理論立てて考察し論文構成をすることができる。	
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。
適正な研究手法・分析を用いて、調査結果を理論立てて考察し論文構成をすることができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	50			100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)			○	○			
関心・意欲・態度	(DP 5)			○	○			
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)			○	○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション (今後の授業の進め方)	講義	
2～3	卒業論文の作成方法の復習 ・調査法の選定 (質的調査や量的調査) を発表する。 ・卒業論文の全体像流れを発表する。	発表・ディスカッション	・先行研究から調査法を検討する。
4～20	卒業論文作成① ・研究テーマを発表する。 ・卒業論文の全体構造の構想を発表する。 ・卒業論文の内容を発表する。	発表・ディスカッション	・論文作成。
21～30	卒業論文作成② ・論文作成個別指導	グループによる討議と個別指導を繰り返す。	研究領域の文献を読み込む。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	住友 雄資			
授業概要	卒業論文は大学での専門教育の集大成である。「社会福祉学演習」で各々が設定した研究テーマを達成するための個別・集団指導を行うことで、卒業論文を完成させる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉学演習」が履修済みであること			
テキスト	特に定めない。			
参考図書・教材等	卒論指導のなかで適宜紹介する。			
実務経験を生かした授業	ソーシャルワーク実践の実務経験を有する教員が、社会福祉関連文献の読解などに関する専門知識・技術の修得を指導する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	ゼミの前後、随時空き時間(オフィスアワー含む)、メール等に対応。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	卒業論文執筆過程を通して、論理的で説得力のある表現法を身につけることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	収集したデータを分析し、社会福祉の諸現象を主体的・意欲的に探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会福祉の諸問題に対する研究法を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えをわかりやすく表現できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「授業概要」について、理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
「授業概要」について応用も含めて理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。			
A：80～89	履修目標を達成している。		
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。			
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
「授業概要」についてある程度理解した上で、自らの考えを他者に表現できる。			
C：60～69	到達目標を達成している。		

「授業概要」についてある程度理解できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

「授業概要」について理解できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		データ収集	データ分析	執筆	発表		合計
総合評価割合		10	20	40	30		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○	○	○	○		
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○	○		
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	◎	◎	◎	◎		
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	演習	授業内容のふりかえり (事後)
2～10	データ収集 (指導)	演習	報告準備 (事前) / 授業内容の振り返り (事後)
10～20	データ分析 (指導)	演習	報告準備 (事前) / 授業内容の振り返り (事後)
21～29	卒論執筆指導	演習	執筆 (事前) / 授業内容の振り返り (事後)
30	卒論発表指導	演習	発表準備 (事前) / 授業内容の振り返り (事後)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他(報告及び指導)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																		

あり	○	なし																	
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他(報告及び指導)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	松岡 佐智			
授業概要	「社会福祉学演習」において、各学生が取り組んできたテーマを基に研究計画を立案し、卒業論文の作成を行う。指導は、個別及び集団で行い、卒業論文完成後は、卒業論文発表会に向けたプレゼンテーションの準備を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会福祉学演習を履修済みであること			
テキスト	別途指示する			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーにて質問や相談を受け付ける。また、出席カードやメール等でも質問を随時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	卒業論文のテーマについて、論理的に論文をまとめ、報告会でわかりやすく発表することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らの関心があるテーマについて、先行研究や調査等を通して、福祉課題の探求に意欲的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	卒業論文のテーマについて、先行研究・資料の収集及び調査の実施、分析を行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
卒業論文のテーマについて、先行研究・資料の収集及び調査の実施を意欲的に行い、研修結果の分析を通して論理的に論文をまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
卒業論文のテーマについて、先行研究・資料の収集及び調査の実施を行い、研修結果の分析を通して論文をまとめることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	卒業論文	授業態度・ 授業への参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション、各自の取組み状況の報告	プレゼンテーション	卒業論文のテーマを焦点化し、先行研究をまとめる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の構成の確認 文献収集及び調査活動の実施 卒業論文の執筆(下書き) (論文構成・書き方、文献・関係資料の収集方法等について、適宜資料を提示し説明を行う。また各自の進捗状況を確認し、研究方法等についてグループでディスカッションを行う。)	プレゼンテーション及びディスカッション 個別指導	各自で仮の章立てを完成させておく。また、関係資料を収集及び分析を行う。それらを基に、卒業論文の執筆(下書き)を進めていく。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

15			
16			
17			
18			
19			
20			
21	卒業論文の確認・修正と完成（下書きの修正指導）と提出	個別指導	論文の作成と修正（要旨含む）に取り組む。
22			
23			
24			
25			
26	卒業論文報告会に向けたパワーポイントの作成及びプレゼンテーション練習	プレゼンテーション及びディスカッション 個別指導	パワーポイントの作成及び報告準備を行う。
27			
28			
29	卒業論文報告会への参加と報告	プレゼンテーション	
30			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				先行研究・資料の収集、調査の実施、研修結果の分析、論文の執筆、プレゼンテーション														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	村山 浩一郎			
授業概要	各学生は「社会福祉学演習」で明確にした研究テーマと研究計画に基づき、卒業論文を作成する。教員は、卒業論文の作成に向けて個別指導及び集団指導を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「社会福祉学演習」を履修していること。			
テキスト	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。			
参考図書・教材等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	卒論に関する相談は随時受け付ける。メールでの学習支援も行う。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	論理的に構成された卒業論文をまとめ、その要点をわかりやすくプレゼンテーションできる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	先行研究や資料、調査等に基づいて卒業論文を完成させることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
問題意識をもって継続的に研究に取り組み、先行研究や資料、調査等を踏まえ、論理的に構成された卒業論文をまとめることができる。また、研究成果の要点をまとめ、卒論発表会等でプレゼンテーションできる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		卒業論文	個別及び 集団指導へ の参加度	卒論発表会 の発表（プ レゼン）	授業外レポ ート・宿題	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		70	15	15				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	○		○				
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○					
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○						
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1~15	①3年後期までに確定した研究計画に基づいて、各自、作業を進めていく。 ②授業では、個別、およびグループによる論文作成指導を行う。授業の際に、学生は各自、研究の進捗状況を報告する。 ③調査を行う学生に対しては、調査対象の紹介、調査方法及び調査結果の分析方法の指導を行う。	個別指導が中心になるが、定期的に集団指導や各自の進捗状況の発表、ディスカッションを行う。	各自、研究計画に基づいて作業を進め、適宜、「研究の進捗状況」をまとめておく。
16~30	①これまでに収集した文献やデータを整理・分析し、論文にまとめ、11月末に提出する。 ②授業では、個別、およびグループによる論文作成指導を行う。必要に応じて添削指導も行う。	個別指導が中心になるが、定期的に集団指導や各自の進捗状況の発表、ディスカッションを行う。	指示したところまで論文を書き進めておく。論文提出後は、卒論発表会に向けた資料作成を行う。

	③卒業論文発表会（2月）で、各自、研究成果を発表する。		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容			自分の研究テーマを設定し主体的に探究を進める。指導教員や受講生とのディスカッションにより研究を深め、必要に応じて、指導を受けながら学内外での調査を実施する。個別・集団指導の場や卒論発表会において自分の研究についてプレゼンテーションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6	
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格			
標準履修年次	4	開講時期	通年		
担当教員	本郷秀和				
授業概要	卒業論文の基本作成技法を理解し、各自が決定したテーマで卒業論文を計画的に作成する。 （成果は卒業論文報告会で報告するため、パワーポイント等で準備を行う）				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会福祉学演習（本郷担当分）を履修しておくこと。				
テキスト	適宜、必要な資料を配布する。				
参考図書・教材等	各自のテーマに沿って、別途指示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	授業中や休み時間、オフィスアワーなど適宜、質問等に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	適切な研究目的・対象・方法、プロセス、表現等を踏まえて卒業論文が作成できる能力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP5)	福祉課題（卒論テーマ）を自ら発見し、仮説を基に課題解明に必要なアプローチを修得する。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	各自が考える研究テーマに対して、客観的データを用いて整理し、論理的な課題抽出やその解決案を指摘できるための基礎的能力を修得する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究テーマに適した研究対象・方法を設定し、先行研究や各種データ、調査結果等を基に論文を作成できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
研究テーマに適した研究対象・方法を設定し、先行研究や各種データ、調査結果等を基に論文を作成できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに適したあらゆる研究対象・方法を想定し、最も適した方法を選択できる。 先行研究や各種データに加え、自らが立てた問いに対して調査を行うことができる。加えて、その結果を統計学的手法または質的分析法を用いて分析し、課題や提案を含めた論文を作成できる。 			
A：80～89 履修目標を達成している。			

<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに適した研究対象・方法を複数想定し、最も適した方法を選択できる。 ・先行研究や各種データに加え、自らが立てた問いに対して調査を行い、その結果を踏まえて課題や提案を含めた論文を作成できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに適した研究対象・方法を複数想定し、その中から最も適切な方法を選択できる。 ・先行研究や各種データを基に課題や提案を含めた論文を作成できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに適した研究対象・方法を1つ設定し、先行研究や各種データを基に課題や提案を含めた論文を作成できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに適した研究対象・方法を設定できない。 ・先行研究や各種データ、調査結果等を基に論文を作成できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				100			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			20			20
関心・意欲・態度	(DP5)			30			30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			50			50
備考							

IV. 授業計画 (全30回)

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文のテーマに関する研究計画作成、 ・文献収集と整理、 ・文献リスト作成 ・基本文献の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文(卒論)のテーマに沿って、各自が卒論を作成する。 ・基本的に調査活動を伴うため、調査計画を作成し、教員の確認の下で遂行していく。特に調査時には倫理的問題等も存在するため、必ず指導教員の確認を受けること。 ・研究成果は卒業論文報告会にて全員が報告する。 	授業時に指示する。(指示内容は各自の課題や進捗により異なる)
6-10	<ul style="list-style-type: none"> ・卒論の基本技法 ・卒論執筆(章立て、1章) 		授業時に指示する。(指示内容は各自の課題や進捗により異なる)
11-15	<ul style="list-style-type: none"> ・卒論の執筆(2章) 		授業時に指示する。(指示内容は各自の課題や進捗により異なる)
16-20	<ul style="list-style-type: none"> ・卒論の執筆(3章) 		授業時に指示する。(指示内容は各自の課題や進捗により異なる)
21-25	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の仕上げ(4章とまとめ) 		授業時に指示する。(指示内容は各自の課題や進捗により異なる)
26-28	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文報告会準備(パワーポイント作成と報告練習) 		卒業論文報告会の準備(パワーポイント作成など)

29-30	・卒業論文報告会での報告	・各自の報告	卒業論文報告会の開催準備と報告
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし								
講義回数				1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-28	29-30
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○		
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク										
その他（ ）										
内容										

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	廣田 久美子			
授業概要	「社会福祉学演習」で学習したテーマを基礎として、論文テーマの決定、論文作成に向けた論点整理・文献や調査についての検討・個別指導を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会福祉学演習を履修していること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	基本的には時間帯を指定して対応するが、適宜、個別の相談を受ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究方法および論文作成のルールを身につけ、論理的な文章を作成することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	先行研究や調査などを通じて社会福祉制度・政策について自ら課題を設定することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	自ら設定した課題に対し、社会福祉学上の知識および方法を用いて考察し、文章化することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自ら設定したテーマに沿って、論文を作成し、作成に向けた論点整理・文献や調査についての検討を行い、自らの考えを論文作成のルールに則って、論文としてまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「社会福祉学演習」で学習したテーマを基礎として、論文テーマを決定し、論文作成に向けた論点整理・文献や調査についての検討を行い、自らの考えを論理的な文章で論文としてまとめることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					20		80	
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)				○		○	
関心・意欲・態度	(DP5)				○		○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○		○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション	演習 (基本的事項の確認と具体的な進め方についての話し合い)	卒業論文のテーマについての絞り込みと調査
2	卒業論文のテーマについての論点整理	演習	卒業論文のテーマに沿った論点整理と執筆 (発表者は、レジюмеを作成する)
3			
4			
5			
6			
6	卒業論文の執筆	演習	卒業論文の執筆 (発表者は、レジюмеを作成する)
7			
8			
9			
10			
11	卒業論文の執筆 (提出の準備と卒業論文発表会の準備)	演習	卒業論文の執筆 (発表者は、レジюмеを作成する)
12			
13			
14			

15	卒業論文発表会	演習	卒業論文についての発表資料の作成
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業論文		単位	6
科目名（英語）	Graduation Thesis		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	4年間の集大成として卒業研究の結果を卒業論文にまとめる。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト				
参考図書 ・教材等				
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	先行研究や各種資料を適切に収集し、他人の知見を活かしながらか、的確に調査分析できる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉およびICTに関する専門知識をふまえ、各自で設定した研究課題について、問いを見出し、実態を把握し、検証・考察をへて導き出された結論を他者に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉に関する問題について文献やデータを収集・分析し、結論を見出すことができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	卒業論文	卒業論文要旨	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			75	15	10			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○	○			
	(DP4)		○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○	○			
	(DP6)		○	○	○			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○	○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション	演習	
2~5	各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討	演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。
6~9	関連文献・データの整理。先行研究の検討	演習	必要な文献やデータを収集し、自分の研究との関連性を検討する
10~15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論	演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出	演習	卒業論文全体の草稿を準備する。
17~25	草稿の内容の改善、データや文献の補充	演習	草稿の修正、補充を進める。
26~30	卒業論文の執筆と完成。卒業論文発表会で研究発表を行う。	演習	卒業論文を完成させる。 卒業論文発表会のための資料作成、その他準備を行う
8			
9			
10			
11			

12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	高齢者福祉論（老人福祉論）			単位	2
科目名（英語）	Welfare Theory for the Aged			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2	開講時期	前期		
担当教員	本郷秀和				
授業概要	本授業では、高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織。高齢者保健福祉サービスの提供体制と概要を学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修または履修済みであることが望ましい。				
テキスト	・社会福祉士養成講座編集委員会編、『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。（※最新版を使用する）				
参考図書 ・教材等	・九州社会福祉研究会編、『第2版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社、2019. ・本郷秀和『高齢者虐待と介護支援専門員』中央法規、2020.				
実務経験を生かした授業	デイサービスやホームヘルプでの業務経験を活かし、具体的な事例を取り入れた授業を行う。	授業中の撮影	無		
学習相談 ・助言体制	週1回オフィスアワーを設けるので、遠慮なく研究室に来て下さい。 （*それ以外でも可能であれば対応します）。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	高齢者に関する法制度（介護保険制度等）や各種の支援組織・サービス等について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	高齢者が抱える生活問題や権利擁護の必要性について、理由を挙げて説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、高齢者保健福祉サービスの提供体制と概要を理解し、説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、高齢者保健福祉サービスの提供体制と概要を理解し、説明できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	以下の3点について、ほぼ完全に理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、 ・介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、 ・高齢者保健福祉サービスの提供体制と各種サービスの概要
A：80～89	履修目標を達成している。
	以下の3点について、おおむね理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、 ・介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、 ・高齢者保健福祉サービスの提供体制と各種サービスの概要
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	以下の3点について、ある程度理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、 ・介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、 ・高齢者保健福祉サービスの提供体制と各種サービスの概要
C：60～69	到達目標を達成している。
	以下の3点について、最低限のポイントを理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、 ・介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、 ・高齢者保健福祉サービスの提供体制と各種サービスの概要
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	以下の3点について、あまり・ほとんど理解していない。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、 ・介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、 ・高齢者保健福祉サービスの提供体制と各種サービスの概要

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		80				80
思考・判断・表現	(DP3)		20				20
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	* 15回目予定の小テストにおいて、60%以上の得点率を単位認定要件とします。						

I. 科目情報

科目名（日本語）	介護福祉論		単位	2
科目名（英語）	Care and Social Work		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	木村和宣			
授業概要	本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の業務に関連しやすいと思われる介護福祉について広く学習する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	社会福祉学双書 2020『介護福祉論』全国社会福祉協議会			
参考図書・教材等	介護福祉政策概論（日本医療企画）			
実務経験を生かした授業	介護現場経験のある教員が介護福祉における理論と現場での実際と介護方法の展開と認知症介護について指導する。	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。（講義終了後にも随時質問に対応します。）			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	介護福祉を取り巻く情勢、生活支援技術等の基礎的な知識について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	介護過程展開、ケアマネジメントの課題分析、介護計画の立案を理解し説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
介護福祉をとりまく社会の情勢を学ぶとともに介護福祉に関連する基礎的な知識、課題分析及び介護計画の立案方法についてまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会の情勢を理解するとともに介護福祉の基礎的な知識、アセスメント及び介護計画に基づいた介護に実践について理解をができる			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 社会の情勢を理解し、介護福祉に関連する基礎的な知識を理解できる。アセスメント及び介護計画の立案の基本的な流れを的確に説明できる		
A：80～89	履修目標を達成している。		

	社会の情勢を理解し、介護福祉に関連する基礎的な知識を理解できる。アセスメント及び介護計画の立案の基本的な流れを説明できる
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	60	15				25	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション 高齢者介護を取り巻く情勢	講義	
2	介護の概念や目的・対象、介護予防	講義	テキストを読んでおくこと
3	介護と社会福祉、家政、看護、介護・医療との関係	講義	テキストを読んでおくこと
4	障害の特性の理解・社会参加の意義と支援方法	講義	テキストを読んでおくこと
5	援助関係の基本・介護関係維持のための技法	講義	テキストを読んでおくこと
6	介護過程①（介護過程の意義・目的、介護過程の実際）	講義	テキストを読んでおくこと
7	介護過程②（ケアマネジメント、チームアプローチ）	講義	テキストを読んでおくこと
8	生活支援技術の基本①（介護と自立支援、住環境）	講義	テキストを読んでおくこと
9	生活支援技術の基本②（食事・衣服の着脱・排泄・清潔の介護）	講義	テキストを読んでおくこと
10	生活支援技術の基本③（体位	講義	テキストを読んでおくこと

	変換・移動の介護)		
11	生活支援技術の基本④(医療的対応が必要な利用者への介護)	講義	テキストを読んでおくこと
12	生活支援技術の基本⑤(介護家族への支援、福祉用具の活用、終末期ケア)	講義	テキストを読んでおくこと
13	障害の理解と対応①(視覚・聴覚・精神に障害のある人への理解と対応)	講義	テキストを読んでおくこと
14	障害の理解と対応②(認知症ケア)	講義	テキストを読んでおくこと
15	まとめ	講義	講義終了時に指示する
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	障害者福祉論			単位	2
科目名（英語）	Welfare for Persons with Disabilities			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	寺島 正博				
授業概要	激しく移り変わる障害者福祉の制度や政策、さらには障害者の置かれている実情について講義を行う。また、本講義は国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目であるため、それに対応した過去問題の分析と検討を行う。 実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて障害者福祉問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上、新聞等で取り上げられている障害者に関する記事を注意深く読むことが望ましい。				
テキスト	『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版』中央法規、2019年。				
参考図書 ・教材等	適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて障害福祉の現状等について説明する。			授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	障害者の生活実態、障害者福祉制度の発展過程、障害者自立支援制度の概要、障害者福祉に関連する法令の概要、相談支援事業所の役割と実際、障害者福祉の組織、機関の役割、障害者福祉の専門職の役割と実際等を理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を正確に理解し、各自が持つ障害観を深めることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を正確に理解し、各自が持つ障害観を深めることができ、共生社会に向けて考えることができる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を正確に理解し、各自が持つ障害観を深めることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を理解し、ある程度各自が持つ障害観を深めることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容が理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80			20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○			○		
思考・判断・表現	(DP3)	○			○		
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義	
2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態①	講義	教科書 P.2-13 を熟読。
3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態②	講義	教科書 P.14-28 を熟読。
4	障害者に関わる法体系①	講義	教科書 P.30-43 を熟読。
5	障害者に関わる法体系②	講義	教科書 P.44-56 を熟読。
6	障害者に関わる法体系③	講義	教科書 P.57-68 を熟読。
7	障害者に関わる法体系④	講義	教科書 P.69-89 を熟読。
8	障害者自立支援制度①	講義	教科書 P.92-106 を熟読。
9	障害者自立支援制度②	講義	教科書 P.107-119 を熟読。
10	障害者自立支援制度③	講義	教科書 P.120-125 を熟読。

11	障害者自立支援制度④	講義	教科書 P.126－130 を熟読。
12	組織・機関の役割	講義	教科書 P.131－139 を熟読。
13	組織・機関の役割	講義	教科書 P.140－145 を熟読。
14	まとめ	講義	教科書を熟読。
15	まとめ	講義	教科書を熟読。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	児童福祉論			単位	2
科目名（英語）	Child Welfare			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	奥村 賢一				
授業概要	現代社会における児童を取り巻く諸問題とその背景について理解を深めたうえで、児童福祉の観点から児童・家庭福祉に関する法制度やサービス等の専門的知識を活用した児童や家庭に対する具体的な支援方法を考察していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第7版』、中央法規、2019年（2,420円税込）※購入方法等については初回の授業で説明を行う				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーや児童指導員としての実務経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内において、随時質問を受け付ける。 ・その他、オフィスアワーの時間帯を利用して相談や質問を受け付ける。 				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	児童や家庭を対象とした児童・家庭福祉法制度の内容を専門的知識に基づいて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	児童や家庭を取り巻く生活課題について理解をしたうえで、支援の目的や意義に基づいた具体的な支援方法を述べることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代社会における児童を取り巻く諸問題とその背景について理解を深め、児童福祉の観点から児童・家庭福祉に関する法制度やサービス等の専門的知識を活用した児童や家庭に対する実践的な支援方法を具体的に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
現代社会における児童を取り巻く諸問題とその背景について理解を深め、児童福祉の観点から児童・家庭福祉に関する法制度やサービス等の専門的知識を活用した児童や家庭に対する支援方法を説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		60				40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30			20	50
思考・判断・表現	(DP3)		30			20	50
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	①授業中のメール・中途退室等は原則禁止。 ②まとめの小テストの得点率が60%以上を単位認定とする。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	①授業進行方法の説明 ②授業概要の説明と質疑応答	講義終了時に指示
2	子ども家庭福祉とは何か①	①テキストを中心に講義を行う。 ②講義では、パワーポイントを中心に解説や説明を行う。その他必要に応じて板書や資料等を配布していく。 ③単元によりロールプレイやグループ討議などを取り入れていく。 ④学生の理解状況に合わせて、授業の進度	講義内容の復習と第3回講義内容の予習
3	子ども家庭福祉とは何か②		講義内容の復習と第4回講義内容の予習
4	現代社会と子ども・家庭		講義内容の復習と第5回講義内容の予習
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度①		講義内容の復習と第6回講義内容の予習
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度②		講義内容の復習と第7回講義内容の予習
7	子ども家庭福祉にかかわる法制度③		講義内容の復習と第8回講義内容の予習
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健①		講義内容の復習と第9回講義内容の予習
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健②		講義内容の復習と第10回講義内容の予習
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健③		講義内容の復習と第11回講義内容の予習
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健④		講義内容の復習と第12回講義内容の予習

12	子ども家庭福祉援助活動①	を調整していく。	講義内容の復習と第 13 回講義内容の予習
13	子ども家庭福祉援助活動②		講義内容の復習と第 14 回講義内容の予習
14	子ども家庭福祉援助活動③	⑤事前・事後学習の課題内容については、 毎回授業の最後に指示をする。	・第 1 回から第 14 回までの総復習
15	まとめ		講義の最後に小テストを実施。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族福祉論		単位	2
科目名（英語）	Family Welfare		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	奥村 賢一			
授業概要	現代社会における家族または家庭の役割や機能は複雑多様化しており、そのことに起因した社会問題が数多く存在する。本講義では、子どもを中心とした家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした家族支援の重要性について理解を深めていく。さらに、家族支援の意義や目的を踏まえ、より実践的な方法論を学ぶとともに、支援体制作りに向けた効果的な専門機関との連携及び社会資源の活用方法などについても学んでいく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	授業時に配布するプリント。テキストは使用しない。			
参考図書・教材等	授業やeラーニングにて適宜紹介する			
実務経験を生かした授業	児童福祉及び障害福祉領域でソーシャルワーカーとしての実務経験のある教員が、子どもや家庭を取り巻く生活諸課題を家族福祉の観点から具体的な事例を用いて授業を行う。	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	家族福祉の概念や現代社会において家族を取り巻く諸課題について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした具体的な支援方法について考えを述べることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした①家族支援の意義や目的、②支援体制作りに向けた専門機関との連携、③社会資源の活用方法などについて自らの考えを踏まえ具体的に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした①家族支援の意義や目的、②支援体制作りに向けた専門機関との連携、③社会資源の活用方法などについて説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70				30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30			10	40
思考・判断・表現	(DP3)		40			20	60
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	・授業進行方法の説明 ・授業概要の説明と質疑応答	講義終了時に指示する
2	家族福祉の概念と歴史	・講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。 ・テキストは、プリントを中心に講義を進める。 ・単元により、グループ討議などを取り入れていく。 ・単元により、ミニレポートの提出を求める。 ・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。	授業内容(第2回)の復習
3	家族福祉の現状と課題①(少子化と子育て環境)		授業内容(第3回)の復習
4	家族福祉の現状と課題②(子どもの貧困)		授業内容(第4回)の復習
5	家族福祉の現状と課題③(身体的虐待・性的虐待)		授業内容(第5回)の復習
6	家族福祉の現状と課題④(ネグレクト・心理的虐待)		授業内容(第6回)の復習
7	家族福祉の現状と課題⑤(親子の愛着形成)		授業内容(第7回)の復習
8	家族福祉の現状と課題⑥(新型出生前診断)		授業内容(第8回)の復習
9	家族福祉の現状と課題⑤(障害児サービス)		授業内容(第9回)の復習
10	家族福祉の現状と課題⑥(終末期医療)		授業内容(第10回)の復習
11	家族福祉の現状と課題⑦(終末期医療)		授業内容(第11回)の復習

12	家族福祉の現状と課題⑧(超高齢社会における家族支援)		授業内容(第12回)の復習
13	家族福祉の現状と課題⑨(家族システムズ・アプローチI)		授業内容(第13回)の復習
14	家族福祉の現状と課題⑩(家族システムズ・アプローチII)		授業内容(第14回)の復習
15	まとめ	講義の最後に小テストを実施。	講義終了時に指示
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	公的扶助論	単位	2
科目名（英語）	Public Assistance and Related Assistance for the Poor	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	廣田 久美子		
授業概要	現代社会が生み出す貧困・低所得問題を理解するとともに、生活保護制度を中心とした公的扶助の基本的な枠組みとその方法、歴史について、近年の政策動向や基本判例を踏まえて学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし		
テキスト	増田雅暢・脇野幸太郎編『よくわかる公的扶助論—低所得者に対する支援と生活保護制度』法律文化社、2020年、2,400円＋税		
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	出席カードへの記入により受け付ける他、適宜、個別の質問・相談にも応じる。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	①援助を行うために不可欠な生活保護制度を理解し、他の人に説明できるようになる。②背景を異にする低所得者への援助の方法と課題を説明できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会福祉を必要とする人びとと貧困問題がどのように結びついているのか説明できるようになる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度を理解し、現在起こっている低所得者施策に関する課題やその背景を社会保障制度と関連付けて理解することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度を理解し、低所得者施策に関する知識を活用することができる。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度の基礎的な仕組みを正確に理解し、現			

	在起こっている低所得者施策に関する課題やその背景をわかりやすく説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度の基礎的な仕組みを正確に理解し、低所得者施策に関する知識を活用することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度の基礎的な仕組みを概ね理解し、その知識を活用することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度の仕組み、基礎的な用語をある程度理解することができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 生活保護制度の基本構造のほか、低所得者に対する支援制度の基本的な用語について理解できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		95	5					
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○					
思考・判断・表現	(DP3)	○	○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回）45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回）45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	公的扶助制度の体系	講義	テキスト第1章を読む
2	貧困・低所得者問題と社会的排除	講義	テキスト第2章を読む
3	公的扶助制度の歴史	講義	テキスト第11章を読む
4	生活保護の基本原則（1）	講義	テキスト第3章を読む
5	生活保護の基本原則（2）	講義	テキスト第3章を読む
6	生活保護の基本原則	講義	テキスト第4章を読む
7	生活保護制度（1）生活扶助	講義	テキスト第4章を読む
8	生活保護制度（2）生活保護基準	講義	テキスト第4章を読む
9	生活保護制度（3）医療扶助	講義	テキスト第5章を読む

10	生活保護制度（４）その他の扶助	講義	テキスト第５章を読む
11	生活困窮者自立支援法と就労支援	講義	テキスト第７章を読む
12	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	講義	テキスト第８章を読む
13	生活保護と財政	講義	テキスト第９章を読む
14	生活保護の動向	講義	テキスト第６章を読む
15	その他の低所得者施策	講義	テキスト第１０章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会福祉調査法			単位	2
科目名（英語）	Research Methods for Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	吉武 由彩				
授業概要	本講義では、社会調査について学ぶ。具体的には、社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法などを学ぶ。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」に該当する内容を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	テキスト持参を前提に講義を行う。				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編，2013，『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』第3版。				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業の前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会調査に関する基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	先行研究を批判的に読み解き、社会調査を企画、実施、分析、考察することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法、について正確に理解し、説明できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法、について用語の意味が理解できる。		
成績評価の基準			
	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○				○	
思考・判断・表現	(DP3)	○				○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業概要説明	講義	テキスト1章を読む
2	社会福祉と社会調査：社会調査の概要と歴史	講義 テキスト1章	テキスト1章を読む
3	社会調査の意義、目的、種類	講義 テキスト2章	テキスト2章を読む
4	量的調査：企画と設計	講義 補足の資料より	補足資料を読む
5	量的調査：全数調査と標本調査(1)	講義 テキスト3章1節	テキスト3章1節を読む
6	量的調査：全数調査と標本調査(2)	講義 テキスト3章1節	テキスト3章1節を読む
7	量的調査：質問文・調査票の作成	講義 テキスト3章2節	テキスト3章2節を読む
8	量的調査：調査票の配布と回収	講義 テキスト3章3節	テキスト3章3節を読む
9	量的調査：分析(1)	講義 テキスト3章4節	テキスト3章4節を読む
10	量的調査：分析(2)	講義 テキスト3章4節	テキスト3章4節を読む
11	質的調査：特徴と種類	講義 テキスト4章1節～4節	テキスト4章1節～4節を読む
12	質的調査：実施と分析	講義 テキスト4章5節～7節	テキスト4章5節～7節を読む

13	質的調査：実際のプロセス	講義 補足の資料より	補足資料を読む
14	社会調査における倫理、個人情報保護、IT 活用方法	講義 テキスト 5 章、6 章	テキスト 5 章、6 章を読む
15	まとめ	講義	テキスト全体を読み返す
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助演習 A			単位	2
科目名（英語）	Foundations of Social Work Practice A			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	通年		
担当教員	本郷秀和・河野高志・松岡佐智・岡田和敏(非常勤)				
授業概要	本演習では、社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的技能（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）について、4グループ（1グループ20名以下）での演習により体験的に学習していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会福祉士関連の指定科目を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	各グループの担当教員が別途指示する。				
参考図書・教材等	教材がある場合には、各グループの担当教員が別途指示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	各グループの担当教員が別途指示する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	相談援助の基本スキルを体験的に修得し、福祉利用者に貢献できる基礎能力を行動で示すことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	面接、コミュニケーション、観察・記録、グループワークと自己覚知に関する基礎的技能を行動で示すことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的技能（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）を行動で示すことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的技能（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）に取り組むことができる。			

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

下記の4項目の方法について、ほぼ完全に実践・説明できる。

- ①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）
- ②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）
- ③自己覚知、
- ④コミュニケーションとグループワーク

A：80～89 履修目標を達成している。

下記の4項目の方法について、おおむね実践・説明できる。

- ①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）
- ②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）
- ③自己覚知、
- ④コミュニケーションとグループワーク

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

下記の4項目の方法について、ある程度は実践・説明できる。

- ①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）
- ②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）
- ③自己覚知、
- ④コミュニケーションとグループワーク

C：60～69 到達目標を達成している。

下記の4項目の方法について、最低限のポイントを実践・説明できる。

- ①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）
- ②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）
- ③自己覚知、
- ④コミュニケーションとグループワーク

不可：～59 到達目標を達成できていない。

下記の4項目の方法について、全く・殆ど実践・説明できない。

- ①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）
- ②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）
- ③自己覚知、
- ④コミュニケーションとグループワーク

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		20	30			50
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		30	20			50
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	全体オリエンテーション	演習の進め方、内容、留意点等について、4名の教員が交代で説明していく。	各教員が担当グループごとに別途指示する。
2	基礎的な面接技法Ⅰ・1	*配布プリント、事例教材、DVD等を用いて基礎知識を説明したのち、各自が演習に取り組む。演習形態は、個人ワーク、小グループでのワーク、面接練習等がある。	*各教員が進捗状況をみながら予習復習の内容と範囲を個別に判断するため、別途指示する。
3	基礎的な面接技法Ⅰ・2		
4	基礎的な面接技法Ⅰ・3		
5	基礎的な面接技法Ⅰ・4		
6	基礎的な面接技法Ⅰ・5		
7	基礎的な面接技法Ⅰ・6		
8	基礎的な面接技法Ⅰ・7		
9	基本的な面接技法Ⅱ（模擬面接を通じた表情・態度の観察等）	*配布プリント、事例教材、DVD等を用いて基礎知識を説明したのち、各自が演習に取り組む。演習形態は、個人ワークと小グループでのワークがある。面接記録、観察記録、アセスメント記録、支援計画書作成、カンファレンス練習、プレゼン練習ほか。	*各教員が進捗状況をみながら予習復習の内容と範囲を個別に判断するため、別途指示する。
10	基本的な面接技法Ⅱ（ADLの観察と記録等）		
11	基本的な面接技法Ⅱ（環境的側面の観察と記録等）		
12	基本的な面接技法Ⅱ（面接時の記録①ーインタビュー記録ー）		
13	基本的な面接技法Ⅱ（面接時の記録②ージェノグラムとエコマップー）		
14	基本的な面接技法Ⅱ（観察記録とアセスメント）		
15	基本的な面接技法Ⅱ（アセスメントからケアマネジメントへ、プレゼン）		
16	自己覚知1	演習用プリントを適宜配布し、	
17	自己覚知2		

18	自己覚知3	各自・各グループが作業を行う。 自分と他人との価値観の違い等について、他者との交流を通じて体験的に理解・学習する。	*各教員が進捗状況をみながら予習復習の内容と範囲を個別に判断するため、別途指示する。
19	自己覚知4		
20	自己覚知5		
21	自己覚知6		
22	自己覚知に関する演習のまとめ・補足等		
23	コミュニケーション技法・1	演習用プリントなどを適宜配布し、各自・各グループが作業を行う。コミュニケーションの方法や留意点、グループワークの基本技法等について体験的に理解していく。	*各教員が進捗状況をみながら予習復習の内容と範囲を個別に判断するため、別途指示する。
24	コミュニケーション技法・2		
25	コミュニケーション技法・3		
26	グループワークとコミュニケーション1		
27	グループワークとコミュニケーション2		
28	グループワークとコミュニケーション3		
29	コミュニケーション・グループワーク演習のまとめ・補足等		
30	演習全体のまとめ	4 演習の意味や技法について。総合的にまとめる。	4つの演習の全てについて、配布プリント等を用いて予習と復習を行う。
備考	・4グループに分かれ、4名の演習担当教員から各7回の演習を交代で受けていく。また、演習のまとめとして、30回目に小レポートでの演習全体の学習の振り返りと質疑応答を行う。 *最終レポートを提出しなかった者と各7回の演習で1/3以上欠席した者には原則単位を与えない。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容			面接技法、自己覚知、コミュニケーションとグループワークを実際に体験しながら学習する。また、相談援助の基礎的技能について小グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助演習 B			単位	2
科目名（英語）	Foundations of Social Work Practice B			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	通年		
担当教員	村山浩一郎・奥村賢一・寺島正博・今村浩司				
授業概要	相談援助演習 A の学びをふまえて、相談援助事例（虐待・家庭内暴力、低所得者・ホームレス、社会的排除・危機状態）や地域福祉の基盤整備と開発に関する事例を活用しながら包括的な援助技術について学ぶ。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、4 グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から 7 回ずつ授業を受ける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	相談援助演習 A を履修していることが望ましい。				
テキスト	必要な資料・レジュメは各授業で配布する。				
参考図書・教材等	必要な資料・レジュメは各授業で配布する。				
実務経験を生かした授業	学校、病院、福祉施設等でソーシャルワーカーとしての実務経験がある教員（3名）が、その経験を活かして、相談援助の実技指導を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	4名の担当教員のうち、本学教員に関してはオフィスアワーや当該授業前後の時間、非常勤教員に関しては当該授業の前後の時間に相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助に関する知識と技術を実践的に習得している。 ・専門的援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>①ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく積極的な意欲と態度を示すことができる。②具体的な実践事例の検討などを通して相談援助に関する知識と技術を習得し、実践できる。③具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化し体系立てていくことができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

①ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。②具体的な実践事例の検討などを通して相談援助に関する知識と技術を理解していることを示すことができる。③具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	実技演習（提出物やプレゼンを含む）	授業態度・授業への参加度	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)	○	○				
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○				
備考	各教員の評価の総計を成績評価とする。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	本授業のオリエンテーション（全体授業）	講義（全教員）、質疑応答	各教員より、事前・事後学習の課題を提示する。
2～8	虐待・家庭内暴力の相談援助事例を取り上げ、インタビュー（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。	配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（奥村賢一：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②児童福祉法、児童虐待防止法、DV防止法の学習

9～15	低所得者・ホームレスの相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。	配布資料・レジюмеにもとづく説明と演習 （今村浩司：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法の学習。
16～22	社会的排除・危機状態にある相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。	配布資料・レジюмеにもとづく説明と演習 （寺島正博：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②「相談援助の理論と方法」で学んだ実践アプローチの学習
23～29	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価などについて実技指導を行う。	配布資料・レジюмеにもとづく説明と演習 （村山浩一郎：7回×4グループ）	①オリエンテーションで示された課題の学習 ②「地域福祉論」で学んだコミュニティワークの方法の学習
30	全体のふりかえりとまとめ（全体授業）	講義（全教員）、質疑応答	各自、これまでの学びのふりかえりを行う
備考	受講生は4グループに分かれ、各グループは4名の担当教員から各7回の授業を受ける。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				第1回、30回の全体授業以外は、すべての授業で、小グループでの事例検討、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、受講生による発表、ロールプレイなどが行われる。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助演習 C			単位	1
科目名（英語）	Foundations of Social Work Practice C			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	本郷・村山・奥村・寺島・河野・松岡・廣田				
授業概要	本演習では、各自の相談援助実習体験の振り返りを通じ、実習体験の学びを深めると同時に、社会福祉士が取り組むべき支援ケースの作成及び検討能力、各福祉分野で期待される知識や技能等を習得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。 ・相談援助実習の振り返りを含むため、相談援助実習の未履修者には単位を与えられない。 				
テキスト	担当教員により別途指示する。				
参考図書 ・教材等	担当教員により別途指示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	担当教員により別途指示する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	実習体験の振り返りや事例検討等を通じて、福祉サービス利用者に対する支援方法を考えることができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	福祉利用者に対する適切な状況把握の方法と支援計画・方法等について説明・提案できる。実習先の社会福祉士の業務内容を説明できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①相談援助実習体験の振り返りを通じて実習体験の学びを言語化できる。②社会福祉士が取り組むべきケースの支援計画の作成及び検討ができる。③各福祉分野で期待される知識や技能等を説明・実行できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
①相談援助実習体験の振り返りを通じて実習体験の学びを部分的に言語化できる。②社会福祉士が取り組むべきケースの支援計画の作成及び検討に取り組むことができる。③各福祉分野で期待される知識や技能等を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
以下の3点について、ほぼ完全に説明・実行できる。			

<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む支援ケースの事例の作成と検討力 ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む各種の活動計画等の作成と検討力 ・各実習分野でのソーシャルワーク実践に必要な倫理・知識や技能、業務の説明力
A：80～89 履修目標を達成している。
以下の3点について、おおむね説明・実行できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む支援ケースの事例の作成と検討力。 ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む各種の活動計画等の作成と検討力。 ・各実習分野でのソーシャルワーク実践に必要な倫理・知識や技能、業務の説明力。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
以下の3点について、ある程度説明・実行できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む支援ケースの事例の作成と検討力 ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む各種の活動計画等の作成と検討力 ・各実習分野でのソーシャルワーク実践に必要な倫理・知識や技能、業務の説明力
C：60～69 到達目標を達成している。
以下の3点について、最低限のポイントを説明・実行できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む支援ケースの事例の作成と検討力 ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む各種の活動計画等の作成と検討力 ・各実習分野でのソーシャルワーク実践に必要な倫理・知識や技能、業務の説明力
不可：～59 到達目標を達成できていない。
以下の3点について、あまり・ほとんど説明・実行できない。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む支援ケースの事例の作成と検討力 ・相談援助実習の体験を基にした社会福祉士が取り組む各種の活動計画等の作成と検討力 ・各実習分野でのソーシャルワーク実践に必要な倫理・知識や技能、業務の説明力

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		50			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		30	30			60
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	20			40
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】	【2単位授業 1回平均】
			160分(8回) 45分(15回)	180分(15回) 45分(30回：通年)
			90分(30回：半期2コマ連続)	

1	全体オリエンテーションと実習領域別オリエンテーション		
2	<p>本演習は、基本的に各担当教員が「相談援助実習指導」時に別途指示した課題を基に進める。各自の実習体験を踏まえたグループ又は個人単位での振り返り、個別・集団スーパービジョン、実習体験を基にした相談援助に関する支援事例の作成と検討等を行う。具体的には[1]実習先の管理運営体制と関連法制度の理解・実習施設の役割、[2]関係職種の役割と機能・連携の必要性(連携機関と連携する専門職の役割)、[3]実習領域・施設における社会福祉士の役割と機能、[4]実習領域・施設のサービス利用者の特性、[5]実習体験に基づいたケース報告・検討、[6]事例作成と報告・グループ検討等、[7]その他(地域アセスメント方法、ケースカンファレンス・援助計画作成・契約技法等)などが考えられるが、詳細は領域別の担当教員が指示する。</p>	<p>相談援助実習の各領域(高齢者・障害者児・児童・社会福祉協議会・医療機関・行政機関)に分かれ、1グループ 20名以下での演習を行う(グループまたは個別スーパービジョンを取り入れる)。</p>	<p>※担当教員は障害者児領域：寺島・廣田、児童領域：奥村・、医療機関：河野、社会福祉協議会：村山、高齢者領域：本郷・松岡で行う。そのため、事前・事後学習の詳細は各担当教員が別途指示する。</p>
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
体験学習／調査学習		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他()																		
内容	実習領域毎の小グループにより内容が異なる部分があるため、方法も異なる場合がある。																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助実習指導 I			単位	2
科目名（英語）	Guidance for Fieldwork in Social Work I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	通年		
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡				
授業概要	相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①学生各自の各種保健医療福祉施設等における経験型実習（見学及び体験実習）、②外部講師の講話による福祉現場の実情と現場で求められる知識・実習姿勢の修得・理解、③相談援助実習の意義・方法の理解に取り組む。なお、本授業は、原則として小グループ単位（1グループ20名以下）で行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。 社会福祉士関連の指定科目を履修しておくことが望ましい。 遅刻、欠席をしないこと（4回以上欠席した場合は、原則単位取得はできない）。				
テキスト					
参考図書・教材等	「福岡県立大学社会福祉学科 経験型実習の手引き」 必要に応じてプリントを配布する。				
実務経験を生かした授業	高齢者施設職員、障害者支援施設等職員、スクールソーシャルワーカーの経験がある教員が、分野別指導において高齢者分野、障害分野、児童分野を担当し、スーパービジョンを行う。また、各種社会福祉機関・施設から職員を講師として招き、講話および演習（グループワーク）を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	相談援助実習の意義について説明できる。 相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示し、相談援助実習の意義及び相談援助の方法、種別に応じたソーシャルワーカーの役割について理解し、説明することができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				30			70	
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)			○			○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			○			○	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーションと指定実習施設の概要、福祉ボランティアと実習の相違について	講義	指定実習施設の概要についての理解 福祉ボランティアと実習の相違についての理解
2	各種医療福祉施設の種類、現場見学及び体験学習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用経験を含めた経験型実習）先の探し方、施設でのマナー・姿勢と守秘義務、事前学習の方法等について	講義	経験型実習の実習希望先を探し、実習希望調査書を作成する
3	経験型実習（見学及び体験）の実習先決定までの流れと実習依頼の方法について	講義	経験型実習の実習希望先に各自で依頼を行う
4	経験型実習の個人票及び実習日誌、誓約書の書き方について	講義・個人ワーク（個人票の下書きの作成）	個人票の下書きを完成させる

5	社会福祉協議会職員の講話と小グループでの事例検討	講話と小グループでの事例検討 (グループワーク)	講話についての質疑・感想レポートの作成・提出
6	医療機関の職員の講話と小グループでの事例検討		
7	障害者支援施設職員の講話と小グループでの事例検討		
8	地域包括支援センター職員の講話と小グループでの事例検討		
9	経験型実習の個人票の添削指導	実習種別におけるグループ別指導	個人票の清書作成・提出
10	介護老人保健施設職員の講話と小グループでの事例検討	講話と小グループでの事例検討 (グループワーク)	講話についての質疑・感想レポートの作成・提出
11	児童養護施設職員の講話と小グループでの事例検討		
12	療育センター職員の講話と小グループでの事例検討		
13	児童相談所職員の講話と小グループでの事例検討		
14	経験型実習に向けた実習種別グループ事前学習内容発表	グループ別の学生発表（実習先の法制度的な規定や一般的な動向、施設・機関の概要【組織、サービス・事業、職員体制、利用者等】について）	経験型実習先の事前学習に関するレポートの作成・提出
15	経験型実習に向けた実習前オリエンテーション（実習中の注意事項・緊急時の対応等）	講義	
16	各種の保健医療福祉施設等における各自の経験型学習[1日6時間の5日間(30時間)以上] 目的：①福祉サービス利用者や福祉従事者等との基本的なコミュニケーション力やマナーの修得、②体験・経験による理解を通じて自己覚知を図り、3年夏季の相談援助実習の目的意識の醸成、的確な実習計画書の作成（各自の実習目的や方法、達成課題等）につなげることなど。	実習（相談援助実習に向けた現場体験学習及び見学実習、実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等）	実習日誌の作成・提出
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23	オリエンテーション（今後の授業計画及び履修基準等の説明など）	講義	
24	経験型実習の報告会(1グループ8名程度のグループ)	グループ別の学生発表（経験型実習の報告会）	経験型実習報告レポートの作成・提出
25	3年次の相談援助実習の実習先選定に向けたオリエンテーション	講義・実習先選択に向けた個別指導	実習先希望調査書（1次）の作成・提出
26	3年生の実習報告会への参加	実習経験者の報告聴講と質疑応答	実習報告書を読み、自分の希望する実習先を再度検討する
27			
28	相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明	実習先種別のグループ別指導	実習先希望調査書（2次）の作成・提出
29			
30			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし	
----	---	----	--

講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習															
体験学習／調査学習															
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	講話を基にした小グループでの事例検討（グループワーク）、事前学習及び経験型実習に関する小グループでのレポート発表、5日間の経験型実習、経験型実習報告会														

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助実習指導Ⅱ			単位	1単位
科目名（英語）	Guidance for Fieldwork in Social Work Ⅱ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	通年		
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡・戸丸・非常勤講師				
授業概要	相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①相談援助実習の意義・方法の理解、②相談援助実習に必要な事前学習(実習計画書作成方法、実習日誌の作成法、実習先概要の個別的理解の方法と資料整理、心構えやマナー、倫理等)の理解、③相談援助実習期間中における教員による個別巡回指導及び帰校日指導、④相談援助実習後の振り返り（個別スーパービジョン）と報告書作成及び実習報告会での報告（パワーポイントによるプレゼンテーション）に取り組む。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	相談援助実習指導Ⅰの単位を取得済みのもの。 社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。 社会福祉士関連の指定科目を履修しておくことが望ましい。 遅刻、欠席をしないこと（3回以上欠席した場合は、原則単位取得はできない）。				
テキスト					
参考図書・教材等	「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」 必要に応じてプリントなどを配布する。				
実務経験を生かした授業	高齢者施設職員、障害者支援施設等職員、スクールソーシャルワーカー、生活保護ケースワーカー等の経験がある教員が、分野別指導において高齢者分野、障害分野、児童分野を担当し、スーパービジョンを行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる。

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。
①ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく積極的な意欲と態度を示すことができる。②ソーシャルワーカーに求められる総合的な対応能力を習得し、実践できる。③具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる。	

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
①ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。②ソーシャルワーカーに求められる総合的に対応できる能力を示すことができる。③具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	事前学習のレポート等の提出・発表	実習後のレポートの提出・実習報告会での発表	ポートフォリオ	レポート等の提出物	合計
総合評価割合			50	50			
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（相談援助実習・実習指導における個別・集団指導の意義、授業計画及び履修基準等の説明）	講義	

2	①実習計画書・個人票の書き方、②実習種別グループに分かれ、実習種別グループ指導にむけたオリエンテーション	講義	実習に向けた各分野別の事前学習の課題レポートの作成、個人票・実習計画書の作成
3	実習種別グループ別指導(①実際に実習を行う実習分野[利用者理解を含む]と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解、②各実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する理解、③実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する知識と技術に関する理解、④実習施設の概要理解(経緯・設置根拠・サービス内容・配置専門職と役割・財源等を整理し各自報告、⑤実習計画書等の記入方法等。)、⑥実習日誌の目的と書き方(「実習記録ノート」の目的・意義と記録内容・方法に関する理解)	実習分野別指導(グループ指導) ・事前学習内容の発表 ・実習計画書の作成 ・実習日誌の記載方法に関する演習	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10	各担当教員による実習巡回指導(1週間に1回の巡回指導及び帰校日指導)	個別指導及び実習分野別指導(グループ指導)	
11			
12	実習体験や実習記録を踏まえた実習総括会に向けた報告作成についてのオリエンテーション<3年後期～>	講義	実習報告書の作成及び実習報告会におけるプレゼンテーションの準備
13	実習体験を踏まえた個別スーパービジョン(実習体験の振り返り)と実習報告会の準備	個別指導及び実習分野別指導 実習報告会の発表練習	
14			
15	実習の評価全体の総括会(実習報告会)	パワーポイントを使用した個人プレゼンテーション	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				事前学習内容の発表、個人票・実習計画書の作成、個別指導及び実習分野別指導(グループ指導)、実習報告会でのプレゼンテーション														

I. 科目情報

科目名（日本語）	相談援助実習			単位	4
科目名（英語）	Fieldwork in Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	通年		
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡・戸丸・非常勤				
授業概要	<p>実際の社会福祉機関・施設等における4～5週間の現場体験を通じて、</p> <p>①社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己の課題把握など総合的な対応能力を学ぶ。</p> <p>②相談援助で必要とされる知識・援助技術を実践的に理解し、かつ関連分野の専門職との連携の在り方とその具体的内容を学ぶ。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>相談援助実習指導Ⅰの単位を取得済みのもの</p> <p>相談援助実習指導Ⅱにおいて、出席やレポートの提出期限を守ったもの</p>				
テキスト					
参考図書・教材等	<p>「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」</p> <p>必要に応じてプリントなどを配布する。</p>				
実務経験を生かした授業	各種社会福祉機関・施設に勤務する相談援助実習指導者の資格をもつ職員が、実践を踏まえたスーパービジョンを行う			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践できる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>①ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく積極的な意欲と態度を示すことができる。</p> <p>②ソーシャルワーカーに求められる総合的な対応能力を習得し、実践できる。</p> <p>③相談援助に係る知識と技術、関連分野の専門職との連携のあり方について具体的かつ実践的に理解し実践できる。</p>			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
①ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。②ソーシャルワーカーに求められる総合的な対応能力を示すことができる。③相談援助に係る知識と技術、関連分野の専門職との連携のあり方について具体的かつ实际的に理解し説明できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		「実習評価票」に基づく実習先の評価内容	実習態度及び実習への参加度	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	50					
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は福祉サービス利用者等に対する具体的な支援	実習 (原則として3年次の夏季休業期間中に180時間かつ23日以上の実習を、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機	・実習日誌の作成（その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う） ・各実習指導者から課された課題（実習指導者の指示の下で行う）
2			
3			

4	方法を体験的・実践的に修得する。	関等において行う。この場合、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行う)	・実習種別ごとに課された実習中に取り組む課題（各種別の担当教員の指示の下で行う）	
5	相談援助実習における主な内容は、以下のとおりである。			
6	(1) 利用者やその関係者、施設・事業所等の職員、地域住民やボランティア等との円滑な人間関係の形成			
7	(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成			
8	(3) 利用者やその関係者（家族・友人等）との援助関係の形成、権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価			
9	(4) 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際			
10	(5) 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業所等の職員の就業規則などの理解及び組織の一員としての役割と責任の理解			
11	(6) 施設・事業所等の経営やサービスの管理運営の実際			
12	(7) （当該実習先の）地域社会の中の施設・事業所等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解			
13				
14				
15				
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				実習指導者の下で社会福祉士の実践及び業務の体験														

I. 科目情報

科目名（日本語）	福祉経営論		単位	2
科目名（英語）	Social Service Management		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期集中	
担当教員	鬼崎 信好			
授業概要	本講義では、社会福祉士国家試験科目である「福祉サービスの組織と経営」について学習する。21世紀における本格的な少子高齢社会の到来を背景に、福祉サービスの提供組織は多様化するようになった。すなわち、かつてのサービス提供組織は行政(市町村等の地方公共団体)と民間では社会福祉法人が主流であったが、今日においては、社会福祉法人を含む、営利法人(株式会社等)及びNPO法人等の多様な民間組織に変化してきている。そのために、相談援助活動に専門的に従事する社会福祉士は福祉サービス提供施設・事業所やサービス提供に関する経営管理の基礎知識も身に付けることが求められるようになってきている。(特に社会福祉法人やNPO法人等の組織構造や効率的なサービス供給と運営の実際等について理解する必要がある)。			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	中央法規『新社会福祉士養成講座 福祉サービスの組織と経営 第5版』2020.			
参考図書・教材等	全国社会福祉協議会『社会福祉施設経営管理論』2020.			
実務経験を生かした授業	特になし		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を設ける。視聴覚教材を活用し、社会福祉施設の広報活動、運営管理の実際についても理解を深める。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	様々な福祉サービス提供組織(経営・提供主体)と運営の視点・方法(サービス管理・人事労務関係、リスクマネジメント、会計管理等)・組織構造等について理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会福祉事業の経営主体について理解し、これらのプラスとマイナスについて判断できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

様々な福祉サービス提供組織(経営・提供主体)と運営の視点・方法(サービス管理・人事労務関係、リスクマネジメント、会計管理等)・組織構造及び社会福祉事業の経営主体について理解し、これらのプラスとマイナスについて説明できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		授業での 課題提出	最終回のレ ポート	授業態度	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		20	60	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	◎	◎					
思考・判断・表現	(DP3)		◎	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容(担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	・オリエンテーション・福祉組織の事例紹介 ・社会福祉施設の使命と役割(プリント)	プリント・パワーポイントを用いる。教科書も使用する。	講義終了時に指示する。
2	社会福祉施設・事業の種類と社会福祉法		上に同じ
3	社会福祉施設の特性と権利擁護の必要性(老人福祉施設等での虐待問題・苦情対応を例に)		教科書第1章の予習
4	・施設=地域コンフリクト(プリント・ビデオ) ・福祉サービスに係る組織と		教科書の内容に沿ってポイントを絞り講義を進めていく。必要に応
			教科書第1章の復習

	経営	じて補足資料を配布する。教科書の内容によっては、適宜インターネットで公開されている実際の福祉事業等（定款・運営規定、財務諸表等）を概観し具体的な内容を説明する。	
5	福祉サービス組織や団体①（社会福祉法人）		教科書第2章の復習
6	福祉サービス組織や団体②（NPO・医療法人等）		教科書第2章の復習
7	福祉NPOの現状-介護系NPOを例として-		NPO法人に関する予習
8	福祉サービス組織と経営の基礎理論①		教科書第3章の復習
9	・福祉サービス組織と経営の基礎理論② ・福祉サービス管理運営①（サービス管理①）		教科書第4章の復習
10	・福祉サービス管理運営②（サービス管理と人事・労務管理）		教科書第5章の復習
11	・福祉サービス管理運営③（会計・財務管理）		教科書第6章の復習
12	・福祉サービス管理運営④（情報管理とリスクマネジメント）		教科書第7章の復習
13	・法人運営に関する書類の意味と見方（定款・事業計画書、組織図・財務諸表等の具体的理解） ・福祉施設・事業の設備・人員等に関する基準の理解と必要性（調べる事業種別は指定する）		実際の福祉事業の運営基準、宣伝方法、財務諸表、サービス評価や情報公表制度等を調べ、組織構造、運営上の義務、情報公開・発信の必要性・方法等について、教科書で内容確認しながら具体的に理解する。 ※情報処理室を活用するが、各種ホームページを参考に具体的に教科書の内容を説明しながら講義を進めるため、教科書とノートは必ず持参すること。
14	・福祉サービス事業所・施設の情報発信の実際（アピール方法・情報公開の必要性・工夫等） ・介護サービス情報公表・福祉サービス第三者評価の現状と意義 ※課題を提出する。		
15	・全体まとめ（国家試験を見据えた教科書のポイント解説（※資料配布） ・レポートの提出		まとめと解説
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	発見学習／問題解決学習																	
	体験学習／調査学習																	
	グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
	その他（ ）																	
	内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健医療論			単位	2
科目名（英語）	Health Care Service			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	岡田和敏				
授業概要	傷病により起きる生活課題をどのように理解し支援して行くかを理解する。また、実務家（医療ソーシャルワーカー）教員として、社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）と保健医療サービスに係る他職種（医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員など）との連携や協働について経験をもとに講義する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保健医療に関する問題について新聞等で関心を持つこと。				
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 保健医療サービス 第5版』中央法規出版 2,200円				
参考図書・教材等	資料等は講義時に情報提供する。				
実務経験を生かした授業	医療機関で医療ソーシャルワーカーとしての経験をもとに講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義時に質問を受ける				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	健康な状態から傷病を患うことで生活上に起きる問題との関連から保健医療サービスの必要性が理解することができる。
		(DP2)	保健医療サービスを支える制度・施設、専門職の資格・役割などについて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	専門職としての価値や倫理を基盤として、論理的思考と的確な判断力を持つことができる。
		(DP4)	傷病者にとって最大かつ漏れの無い利益に向け解決・調整に取り組むことができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

1. 人びとのいのちや生活について、さらには対象者の抱える福祉的課題について理解する。 2. 保健医療サービスの相対的な理解とその活用方法を図れる知識・技術を身につけることができる。 3. 保健医療領域における専門職の意義と役割を理解できる。 4. 専門職としての倫理的基盤に基づき援助を行うことができる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
傷病をもとに起きる生活上の諸問題について理解することができる。社会資源について説明することができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70					30	100
知識・理解	(DP1)	○					○	
	(DP2)	○					○	
思考・判断・表現	(DP3)	○					○	
	(DP4)	○					○	
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）

1	オリエンテーション 保健医療領域における国家資格(社会福祉士)を持つ意味	講義	指示した箇所の予習・復習
2	保険医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充	講義	指示した箇所の予習・復習
3	医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題	講義	指示した箇所の予習・復習
4	医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士	講義	指示した箇所の予習・復習
5	医療法による医療施設の機能・類型	講義	指示した箇所の予習・復習
6	保健医療政策による医療施設の機能・類型	講義	指示した箇所の予習・復習
7	診療報酬における医療施設の機能・類型	講義	指示した箇所の予習・復習
8	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み ミクロレベル	講義	指示した箇所の予習・復習
9	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み メゾ・レベル	講義	指示した箇所の予習・復習
10	保険医療サービスの専門職の役割	講義	指示した箇所の予習・復習
11	保健医療サービスの提供と経済的保障	講義	指示した箇所の予習・復習
12	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識	講義	指示した箇所の予習・復習
13	保健医療の専門職との連携と協働の実際	講義	指示した箇所の予習・復習
14	保険医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践	講義	指示した箇所の予習・復習
15	保健医療サービスの課題	講義	指示した箇所の予習・復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	就労支援			単位	1
科目名（英語）	Employment Support in Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	寺島 正博				
授業概要	本講義は国家試験の「就労支援サービス」に位置する科目であるため、過去問題に対応した授業を行う。実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて就労支援問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上、新聞等で取り上げられている就労支援に関する記事を注意深く読むことが望ましい。				
テキスト	『新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス 第4版』中央法規，2016年。				
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて障害福祉の現状等について説明する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、具体的施策について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	就労支援における専門的知識を習得し、実践現場で必要な能力を理解することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識を正確に理解することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識を理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識を正確に理解し、実践現場で必要な能力を判断することができる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識を正確に理解することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識をある程度正確に理解することができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識を理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
障害者、生活保護受給者、母子家庭、ホームレス等の低所得者の職業的自立における現状と課題、また、就労支援における具体的施策や専門的知識を理解できない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50		50			
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○		○			
思考・判断・表現	(DP3)		○		○			
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回）	【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義		
2	雇用・就労の動向と施策①	講義	テキスト第1章を熟読する。	
3	雇用・就労の動向と施策②	講義		
4	障害者と就労支援	講義	テキスト第2章を熟読する。	
5	低所得者と就労支援 小テスト	講義	テキスト第3章を熟読する。	
6	専門職の役割と実際	講義	テキスト第4章を熟読する。	
7	就労支援の連携と実際	講義	テキスト第5章を熟読する。	
8	さまざまな働き方の支援 小テスト	講義	テキスト第7章を熟読する。	
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	権利擁護と成年後見制度		単位	2
科目名（英語）	Advocacy and Guardianship		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	廣田 久美子			
授業概要	相談援助活動と法とのかかわりを理解し、福祉サービス利用者のもつ基本的人権をはじめとした諸権利を擁護する仕組みについて、制度と実践の両面から学ぶ。主に、前半では、相談援助活動を行う上で必要となる法制度への理解を深める。後半では、福祉現場での具体的な適用について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会編『権利擁護と成年後見制度 [第4版] 一権利擁護と成年後見 民法総論【社会福祉士シリーズ19】』弘文堂、2018年、2,500円＋税			
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	出席カードへの記入により受け付ける他、適宜、個別の質問・相談にも応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組みと、それらが典型的な場面でどのように用いられるか説明できるようになる。②日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護制度・成年後見制度を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症を有する人への支援について、具体的事例で争点を見つけ、法的な解決方法を説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実践について理解し、自らの考えをわかりやすくまとめることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動におい		

て必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実際について理解し、その知識を活用することができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実際について正確に理解し、わかりやすく説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実際について理解し、その知識を活用することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実際について概ね理解し、その知識を活用することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実際に関わる基本的な用語を理解することができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組み、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）及び成年後見制度の実際に関わる基本的な用語を理解について理解できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	95	5					
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）

1	権利擁護と成年後見制度の意義	講義	テキスト第1章を読む
2	相談援助の活動と法(1)憲法	講義	テキスト第2章を読む
3	相談援助の活動と法(2)民法	講義	テキスト第3章を読む
4	相談援助の活動と法(3)民法	講義	テキスト第3章を読む
5	相談援助の活動と法(4)民法	講義	テキスト第3章を読む
6	相談援助の活動と法(5)行政法	講義	テキスト第4章を読む
7	相談援助の活動と法(6)行政法	講義	テキスト第4章を読む
8	成年後見制度(1)	講義	テキスト第6章を読む
9	成年後見制度(2)	講義	テキスト第6章を読む
10	成年後見制度(3)	講義	テキスト第6章、第7章を読む
11	日常生活自立支援事業、権利擁護にかかわる組織と専門職	講義	テキスト第8章、第10章、第12章を読む
12	成年後見活動の実際(1)障害者支援・市町村申し立て等	講義	テキスト第9章、第11章を読む
13	成年後見活動の実際(2)被虐待児・高齢者虐待支援	講義	テキスト第5章を読む
14	権利擁護活動の実際(被虐待児・高齢者・障害者虐待支援)	講義	テキスト第14章を読む
15	成年後見、権利擁護活動の課題	講義	テキスト第15章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	更生保護		単位	2
科目名（英語）	Rehabilitation of Offenders		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	今村 浩司			
授業概要	更生保護制度の歴史的背景や現状を正しく理解し、その概念と構成を学ぶ。また、更生保護制度の概要や基本的用語も理解をしていく。その中での現状、課題、対策などを検討していくとともに、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割について考えていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む。			
テキスト	『更生保護制度』社会福祉士シリーズ 20、弘文堂（最新版）			
参考図書・教材等	随時講義内で紹介していく。資料を配布して説明を行う場合がある。			
実務経験を生かした授業	刑事施設において触法障害者や高齢者支援を行った経験のある社会福祉士・精神保健福祉士の有資格の教員が、更生保護領域の実践場面での役割や、他機関他職種等との連携の在り方等を解説する	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	講義の前後の時間随時可。またEメールも可。（imamura_k@seinan-jo.ac.jp）			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1、更生保護制度を説明することができる。 2、医療観察法を説明することができる。 3、更生保護におけるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割の説明ができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	1、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護制度における関係機関、団体及びその専門職との連携について説明する事ができる。 2、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護の実践と今後の課題、展望について自らの意見を述べる事ができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

①更生保護制度の歴史的背景、概念、構成について。

②更生保護制度の概要や基本的用語について。

③更生保護の現状、課題、対策等を理解し、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割について。

以上の3点について、正確に理解をした上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
履修目標に掲げた目標に関して、基本的用語の理解ができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標に掲げた3点に関して、実践での応用方法も含めて理解をした上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 履修目標に掲げた3点に関して、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標に掲げた3点に関して、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	演習	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70		10	10		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○		○	○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	更生保護と社会福祉 刑事司法の現況、更生保護法制	講義。	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
2	更生保護制度の概要（1） 仮釈放と生活環境の調整、保護観察、	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
3	更生保護制度の概要（2） 更生緊急保護、恩赦	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認

4	更生保護制度の概要（3） 犯罪予防、被害者支援	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
5	更生保護の担い手 地方更生保護委員会、保護観察所、民間協力者、更生保護施設	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
6	関係機関・団体との連携（1） 裁判所、検察庁、矯正施設	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
7	関係機関・団体との連携（2） 福祉事務所や公共職業安定所	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
8	矯正施設と処遇（1） 矯正施設と更生保護制度	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
9	矯正施設と処遇（2） 刑事収容施設	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
10	矯正施設と処遇（3） 社会復帰援助の現状と展望	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
11	医療観察制度の概要（1） 医療観察法について	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
12	医療観察制度の概要（2） 指定入院医療機関、指定通院医療機関	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
13	医療観察制度の概要（3） 社会復帰調整官、地域処遇	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
14	更生保護における動向と課題（1） 少年司法について	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
15	更生保護における動向と課題（2） 更生保護の総まとめ	講義	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○					○						
その他（ ）																		
内容				少人数グループに分かれて、提供した事例について検討を行い、結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	医療ソーシャルワーク論			単位	2
科目名（英語）	Medical Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	畑 香理				
授業概要	本講義では、医療現場で起こり得る様々な問題について、事例を通して理解を深めていく。さらに、医療ソーシャルワーカーの役割や機能、多職種連携等について考察し、必要な知識・専門性を習得するとともに、社会資源の活用方法等についても学んでいく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、「保健医療論」を履修していることが望ましい。				
テキスト	なし。				
参考図書・教材等	参考図書：①NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編『医療福祉総合ガイドブック 2020年度版』医学書院。②日本医療ソーシャルワーク学会編『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト』日総研。教材等はeラーニングまたは授業時に配付する。				
実務経験を生かした授業	医療福祉領域において実務経験のある教員が、医療機関で必要とされる相談援助の知識・方法を講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業終了時に相談に応じる。また、メールで質問を随時受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	医療現場におけるソーシャルワーク実践について理解し、具体的な医療ソーシャルワーカーの活動内容について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象者が抱える諸問題を把握し、援助の視点や多職種とのチームワークについて自分なりの意見を述べるができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
医療現場におけるソーシャルワークの機能を理解した上で、医療ソーシャルワーカーの活動内容及び対象者の抱える諸問題について説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
医療現場におけるソーシャルワークの機能、医療ソーシャルワーカーの活動内容及び対象者の抱える諸問題が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

医療現場におけるソーシャルワークの機能を正確に理解した上で、医療ソーシャルワーカーの活動及び実践内容が説明できる。さらに、対象者の抱える諸問題について多角的な検討ができ、自分なりの意見を述べるができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

医療現場におけるソーシャルワークの機能を正確に理解した上で、医療ソーシャルワーカーの活動内容及び対象者の抱える諸問題が説明できる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

医療現場におけるソーシャルワークの機能をある程度理解した上で、医療ソーシャルワーカーの活動内容及び対象者の抱える諸問題をまとめることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

医療現場におけるソーシャルワークの機能、医療ソーシャルワーカーの活動内容及び対象者の抱える諸問題が理解できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

医療現場におけるソーシャルワークの機能、医療ソーシャルワーカーの活動内容及び対象者の抱える諸問題が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	60	20	10			10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○		○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション 保健医療を取り巻く情勢と医療ソーシャルワーカー	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
2	日本の医療ソーシャルワークの歴史	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
3	医療ソーシャルワーカーの主な業務と業務指針	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
4	医療ソーシャルワーカーの主な業務と業務指針	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。

5	医療ソーシャルワーカーの役割と機能①	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
6	医療ソーシャルワーカーの役割と機能②	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
7	医療ソーシャルワークの実際例①（患者への個別支援）	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
8	医療ソーシャルワークの実際例②（患者への個別支援）	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
9	医療ソーシャルワークの実際例③（患者への個別支援）	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
10	医療福祉分野における多職種連携①	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
11	医療福祉分野における多職種連携②	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
12	医療ソーシャルワークの実際例④（社会資源の活用）	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
13	医療ソーシャルワークの実際例⑤（社会資源の活用）	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
14	医療ソーシャルワーカーへのスーパービジョン	講義、事例検討	指示された文献及びプリントを熟読すること。
15	まとめ	講義	指示された文献及びプリントを熟読すること。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク									○		○	○		○	○	○	○	
その他（ ）																		
内容				少人数のグループに分かれて事例検討を行い、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	福祉住環境論		単位	2
科目名（英語）	Housing Environment		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士 福祉住環境コーディネーター	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	木村和宣			
授業概要	本講義では、今日のわが国における社会構造の変化に伴い高齢者や障害者の日常生活をとりまく家族構造や住環境は変化してきている。障害を持ったり、高齢になっても自分らしい快適な生活が維持する住環境の整備について学ぶ機会とする。本科目では、福祉住環境に必要な高齢者や障害者の身体的な特性や医療・保険・福祉用具などの福祉と建築に関する幅広い知識を習得できる事を目的とする。また福祉住環境コーディネーターの受験や福祉用具専門相談員の資格取得に効果が上がるよう講義を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	テキストは使用せず、毎回レジメを用意したものを使用します。			
参考図書・教材等	「OT・PTのための住環境整備論」野村 歡（著）、橋本 美芽（著） 三輪書店 第2版			
実務経験を生かした授業	介護現場の経験のある教員が高齢者施設等や公共施設などの見学を取り入れ実際の建造物等から住環境について指導を行う。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	各講義の終了間に質問の時間を取りたいと思います。（講義終了後にも随時質問に対応します。）			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	障害者や高齢者など社会的弱者の特性等及び福祉機器の基礎的な知識を習得できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	ライフスタイルを考慮した住環境の提案に必要な基礎的判断思考力を習得出来る。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
高齢者や障がい者の特性を理解し、自立した生活を送るための居住環境整備方法や福祉機器の活用法を理解できる			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
高齢者や障がい者の特性が理解できる。障害の特性に応じた居住環境の整備方法について理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
高齢者や障害者の日常生活が的確に理解できる。福祉機器の使用や住環境整備の関連法などが理解できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
高齢者や障がい者の日常生活が十分に理解できる。福祉機器の使用や住環境整備の関連法が理解できる。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
高齢者や障がい者の日常生活を理解できる。福祉機器の使用や住環境整備の関連法が理解できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
高齢者や障がい者の日常生活を概ね理解できる。福祉機器や住環境整備について理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
高齢者や障がい者の日常生活を理解する姿勢がみられない。福祉機器や住環境整備に関する学習が不足している。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		20	20	40			20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション 福祉住環境の意義	講義	テキスト予習・事後学習
2	福祉住環境の基本的視点 ICFとノーマライゼーション	講義	テキスト予習・事後学習
3	高齢者・障がい者の特性	講義	テキスト予習・事後学習
4	高齢者に多い症状別特性別と住環境整備①	講義	テキスト予習・事後学習
5	高齢者に多い症状別特性別と住環境整備②	講義	テキスト予習・事後学習
6	障がい者に多い症状別特性と住環境整備①	講義	テキスト予習・事後学習
7	障がい者に多い症状別特性と住環境整備②	講義	テキスト予習・事後学習
8	福祉制度とサービス、福祉住環境に関連する法規と知識	講義	テキスト予習・事後学習
9	高齢者・障がい者の住環境と福祉住環境整備の基礎知識	講義	テキスト予習・事後学習
10	理解すべき建築知識と住環境整備の基本的配慮	講義	テキスト予習・事後学習
11	住宅改修と住環境整備の手法①	演習	テキスト予習・事後学習

12	住宅改修と住環境整備の手法②	演習	テキスト予習・事後学習
13	住宅改修と住環境整備の手法③	演習	課題提出
14	福祉用具と住環境整備	講義	テキスト予習・事後学習
15	福祉のまちづくりと地域包括ケアシステム	講義	テキスト予習・事後学習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習										○								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	介護技術演習		単位	1
科目名（英語）	Practicum in Caring Skills		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	木村和宣			
授業概要	①演習中心で様々な介護技法を通じて個々の個性や能力に応じた基本的な介護技術や介護方法の選択、福祉用具の使用用途について体験する学習機会にする。②対象者が自らが持っている能力を引き出す介護方法について考え、選択し、自立に向けた援助方法を提案できる。③今日提唱されている抱えない介護等の基本的な技術が習得できる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	演習の服装・靴は動きやすいものにしてください。（ジャージなど動き易い服装が好ましい）			
テキスト	テキストは使用せずレジメを配布し、DVDの教材を使用する			
参考図書・教材等	介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』、中央法規			
実務経験を生かした授業	介護現場の経験のある教員が福祉機器農使用方法や抱えない介護方法などの基本的な知識及び介護技術が身につけられるようにおこないます。	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。（講義終了後にも随時質問に対応します。）			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	障害等の特性に応じた介護の技法に挑戦、対応方法を学ぶことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉用具を安全に使用できる。対象者の特性を理解しながら的確な介護方法を実践することができる			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉用具を安全に使用できる。対象者の特性を理解しながら安全な介護方法で実践できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
福祉用具を安全に使用できる。対象者に配慮し安全な介護方法で実践できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
福祉用具を安全に使用できる。対象者に安全な介護方法で実践できる。			

C：60～69 到達目標を達成している。

福祉用具を安全に使用できる。対象者に応じた介護方法を実践できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

福祉用具を安全に使用ができない。対象者に配慮した介護を行う姿勢が確認できない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		5	5	10	50		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	○	○	○	◎		○	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（援助者の態度・介護の原則について、評価方法提示）	講義、演習	テキスト予習
2	コミュニケーション技法、ボディメカニクス	講義、演習	テキスト予習
3	生活環境の整備（ベッドメイキング）・抱えない介護技術①	講義、演習	テキスト予習
4	基本的な姿勢と体位・移動・抱えない介護技術②	講義、演習	テキスト予習
5	車イスの操作（屋内外での移動介助）	講義、演習	テキスト予習
6	用途に応じた衣類の選択、寝衣・衣服交換の援助	講義、演習	テキスト予習
7	清潔の意義・目的、清潔の援助（清拭）	講義、演習	テキスト予習
8	清潔の意義・目的、清潔の援助（部分洗浄）	講義、演習	テキスト予習
9	排泄の意義、排泄のメカニズム、自立へむけた援助法	講義、演習	テキスト予習
10	トイレ誘導、ポータブルトイレ、オムツ交換	講義、演習	テキスト予習
11	食事の意義・嚥下障害、栄養マネジメント	講義、演習	テキスト予習
12	介護技術総合演習	講義、演習	テキスト予習

13	介護技術総合演習	講義、演習	テキスト予習
14	介護計画立案作成	講義、演習	レポート提出
15	介護マネジメントと評価	講義、演習	レポート提出
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	手話	単位	1
科目名（英語）	Sign language	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年	開講時期	前期集中
担当教員	門田 和美		
授業概要	手話に関する基礎的な技術（挨拶・自己紹介・指文字等）の習得に加え、多様な話題（趣味・職業・旅行・時間等）に関する表現方法についても学習していく。さらに、当事者のゲストを迎え、聴覚障がい者への理解と手話、生活支援に関する理解を深めていく。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修上の注意事項として、手話はコミュニケーションであるため、演習時は積極的にコミュニケーションを図る学習態度が望ましい。		
テキスト	適時、資料を配布する。		
参考図書・教材等	武居みさ『手話のワークブックー響き合う心と心のコミュニケーション』（signheart,2018年）		
実務経験を生かした授業	手話通訳業務を行っており、その業務を生かした授業を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	毎回、授業終了後、随時相談を受ける。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	聴覚障がいの人とコミュニケーションを図ることができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	基礎的な手話技能を習得する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
手話に関する基本的な技術及び表現方法を習得し、聴覚障がいの人とのコミュニケーションにおいて手話を活用していく態度を身につけていく。			
手話による挨拶・自己紹介・指文字を最低限身につけ、コミュニケーションが図れる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
手話による挨拶と自己紹介、指文字の習得に加え、多様な表現方法も多少身につけている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
手話による挨拶と自己紹介、指文字の習得に加え、多様な表現方法の習得意欲をもっている。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
手話による挨拶と自己紹介、指文字を身につけている。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
手話による挨拶と自己紹介を身につけている。	
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。
手話による挨拶と自己紹介、指文字について学習できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					100%			100%
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	あいさつの手話と自己紹介	講義、演習	手話に関する書籍を読んでおくこと。
2	数を使った手話表現	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
3	指文字を覚える	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
4	自己紹介②-友達紹介	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
5	趣味とスポーツの手話表現	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
6	職業に関する手話表現	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
7	当事者の語り	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
8	当事者への自己紹介	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
9	当事者との会話	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
10	旅行に関する手話表現	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
11	時間に関する手話表現	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
12	1週間の出来事の手話表現	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
13	絵本の物語を手話で表現してみる	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
14	童話『桃太郎』を手話で表現してみる	講義、演習	配布資料の事前・事後学習
15	授業の振り返り	講義、演習	配布資料の事前・事後学習

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	医学概論			単位	2
科目名（英語）	Medicine			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	渡邊 智子				
授業概要	<p>医学の入門として、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防およびその背景に関する理解を深め、ヒトの健康とは何かを、各人の生活の中で考える。</p> <p>人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常生活との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し身につける。</p> <p>疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、および連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割を習得する。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	「人体の構造と機能及び疾病」新・社会福祉士養成講座1 中央法規（2200円）				
参考図書・教材等	「医学一般」コンパクト福祉系講義金芳堂（2200円） 「病気がみえる Vol. 1～11」 メディックメディア				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	1. コメントカードで受け付け、毎時間主な質問について解説します。 2. メールにて個別に受け付けます。メールアドレスは、第1回講義時にお知らせします。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1. 心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する。
		(DP3)	1. 医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割を適切に理解できる。
	思考・判断・表現	(DP4)	
		(DP5)	
	関心・意欲・態度	(DP6)	
		(DP7)	
	技能	(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えをわかりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえた理解ができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えを分かりやすくまとめることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解した上で、疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割について自らの考えをまとめることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえた理解ができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえた理解ができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50	15	15	10		10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○	○	○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○	○	○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	人の成長・発達と老化	講義	テキスト 2-24 ページを読む。
2	健康のとらえ方	小テスト 質疑応答・講義・事例検討・発表	テキスト 206-238 ページを読む。
3	国際生活機能分類（ICF）の基本的考えと概要	質疑応答・講義	テキスト 174-203 ページを読む。

4	身体構造と心身の機能	第1回～第3回までの小テスト 質疑応答・講義	テキスト 26-50 ページを読む。
5	疾病の概要：生活習慣病と未病、悪性新生物、脳血管障害、心疾患、高血圧	質疑応答・講義	テキスト 54-71 ページを読む。
6	疾病の概要：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患	質疑応答・講義	テキスト 72-83 ページを読む。
7	疾病の概要：血液疾患と膠原病、腎臓疾患と泌尿器系疾患	質疑応答・講義	テキスト 84-94 ページを読む。
8	疾病の概要：骨・関節疾患と目・耳の疾患と感染症	質疑応答・講義	テキスト 95-106 ページを読む。
9	疾病の概要：神経疾患と難病と先天性疾患	質疑応答・講義	テキスト 107-116 ページを読む。
10	障害の概要：視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由	第4回～第9回までの小テスト 質疑応答・講義	テキスト 130-145 ページを読む。
11	障害の概要：内部障害、知的障害	質疑応答・講義	テキスト 146-150 ページを読む。
12	障害の概要：発達障害、認知症	質疑応答・講義	テキスト 152-160 ページを読む。
13	障害の概要：高次脳機能障害、精神障害	質疑応答・講義	テキスト 162-172 ページを読む。
14	老年症候群と終末期医療 リハビリテーションの概要	質疑応答・講義	【テキスト 117-128 ページを読む。
15	ICF の視点を用いた疾病や障害とともに生きる人の理解（事例検討）	講義・事例検討・発表	【事後課題】レポート提出 レポートテーマ：医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割（1400 字程度：レイアウトの詳細設定は講義中に提示）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○													○
その他（ ）																		
内容				少人数のグループに分かれてテーマに応じて検討し、検討結果を発表する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉論 I			単位	2
科目名（英語）	Mental Health and the Welfare of People with Mental Disorders I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	寺島 正博				
授業概要	目まぐるしく変わる精神障害者福祉の制度や政策、さらには精神障害者の置かれている実情について講義を行う。また本講義は国家試験の「精神保健福祉に関する制度とサービス」に位置する科目であるため、それに対応した内容も行う。 実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされることから、毎回「福祉新聞」を用いて精神障害者福祉の問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上、新聞等で取り上げられている精神障害者に関する記事を注意深く読むことが望ましい。				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス<第6版>』中央法規、2018年。				
参考図書・教材等	適宜、資料を配布する。				
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて精神保健福祉の現状等について説明する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を主に説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を正確に理解し、各自が持つ精神障害観を深めることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を正確に理解し、各自が持つ精神障害観を深めることができ、共生社会に向けて考えることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を正確に理解し、各自が持つ精神障害観を深めることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を理解し、ある程度各自が持つ精神障害観を深めることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80			20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	
2	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス①	講義	テキスト第1章を熟読。
3	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス②	講義	
4	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化①	講義	テキスト第2章を熟読。
5	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化②	講義	
6	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化③	講義	
7	精神保健福祉法の概要①	講義	

8	精神保健福祉法の概要②	講義	テキスト第3章を熟読。
9	精神保健福祉法の概要③	講義	
10	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①	講義	テキスト第4章を熟読。
11	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②	講義	
12	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③	講義	
13	精神障害者に関連する社会保障制度の概要①	講義	テキスト第5章熟読。
14	精神障害者に関連する社会保障制度の概要②	講義	
15	まとめ	講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉論 II			単位	2
科目名（英語）	Mental Health and the Welfare of People with Mental Disorders II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	今村浩司				
授業概要	本講では、「精神保健福祉論 I」での学びを踏まえた上で、相談援助に関わる組織や団体、関係機関および専門職や地域の支援者について学びを深める。そして、更生保護制度と医療観察法についての理解をするために、法制度および関係機関との連携、精神保健福祉士の役割について学ぶ。さらには社会資源の調整・開発に関わる社会調査の概要及び活用の方法についても理解を図る				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「精神保健福祉論 I」を既習していること。				
テキスト	『精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規 最新版				
参考図書・教材等	わが国の精神保健福祉 最新年度版、その他講義中に紹介する				
実務経験を生かした授業	臨床実践の経験のある精神保健福祉士が、相談援助の実践場面での他機関他職種等との連携の在り方を解説する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	随時受付。Eメールも可 (imamura_k@seinan-jo.ac.jp)				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1.精神障害者の支援において関わる施設や団体、関連機関等について説明することができる。 2.更生保護制度のシステムと医療観察法について説明することができる。 3. 社会資源の調整・開発に関わる社会調査の概要とその活用について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	1.精神保健福祉士として、更生保護制度、医療観察法、社会調査法等を、根拠に基づいて考察することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①相談援助に関わる組織や団体、関係機関および専門職や地域の支援者について。			
②更生保護制度と医療観察法についての理解をするために、法制度および関係機関との連携、精神保健福祉士の役割について。			
③社会資源の調整・開発に関わる社会調査の概要及び活用の方法について。			

以上の3点について、正確に理解をした上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
履修目標に掲げた3点に関して、用語の理解ができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標に掲げた3点に関して、実践での応用方法も含めて理解をした上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 履修目標に掲げた3点に関して、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標に掲げた3点に関して、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 履修目標に掲げた3点に関して、用語の理解ができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 履修目標に掲げた3点に関して、用語の理解ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	演習	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70		10	10		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○		○	○		○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーションおよび「精神保健福祉論Ⅰ」の振り返り	講義。	「精神保健福祉論Ⅰ」の想起を行う。
2	相談援助に関わる行政組織と民間組織	講義	テキスト第6章の通読
3	フォーマル・インフォーマルな社会資源の役割	講義	テキスト第6章の通読

4	専門職や地域住民の役割と 実際	講義	テキスト第6章の通読
5	刑事司法と更生保護	講義	テキスト第7章通読
6	保護観察所と更生保護の担 い手	講義	テキスト第7章の通読
7	司法・医療・福祉の連携の必 要性と実際	講義	テキスト第7章の通読
8	医療観察法の意義と内容	講義	テキスト第7章の通読
9	医療観察法の審判と精神保 健参与員	講義	テキスト第8章の通読
10	医療観察法における入院医 療と地域処遇	講義	テキスト第8章の通読
11	社会復帰調整官の役割と実 際	講義	テキスト第8章の通読
12	社会調査の意義・目的・対 象・倫理	講義	テキスト第9章の通読
13	量的調査法と質的調査法	講義	テキスト第9章の通読
14	情報通信技術 (ICT) の活用 方法および事例研究	講義	テキスト第9章の通読
15	まとめ及び最重要点の確認	講義	テキスト第6章から第9章までを通 読
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○			○									
その他 ()																			
内容				少人数グループに分かれて、提供した事例について検討を行い、結果を発表する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉論Ⅲ			単位	2
科目名（英語）	Mental Health and the Welfare of People with Mental DisordersⅢ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	鬼塚 香				
授業概要	精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、社会福祉士および精神保健福祉士指定科目を同時履修また履修済みであることが望ましい。				
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第7巻 精神障害者の生活支援システム第3版』中央法規出版、2018年、2916円（税込）				
参考図書・教材等	必要に応じて随時紹介する				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、精神障害者の地域生活支援について実体験を紹介しつつ、制度・サービスについて講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	毎授業終了時に課すリアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	精神障害者の生活実態と生活支援システムについて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	精神障害者の居住支援、就労支援、行政における相談援助活動を理解し、生活支援システムのあり方をさまざまな観点から思考・判断することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について、理解することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について、実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について、理解することができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について、理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	授業内容の振り返り
2	精神障害者の概念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第1章の該当箇所の通読・再読
3	精神障害者の生活の実際① 精神障害者の現状	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第2章の該当箇所の通読・再読

4	精神障害者の生活の実際② 海外における地域生活支援モデルの動向	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第7章の該当箇所の通読・再読
5	精神障害者の生活と人権	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第3章の該当箇所の通読・再読
6	精神障害者の居住支援① 居住支援制度の歴史的展開	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第4章の該当箇所の通読・再読
7	精神障害者の居住支援② 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第4章の該当箇所の通読・再読
8	精神障害者の就労支援① 雇用・就業支援制度の歴史的展開	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
9	精神障害者の就労支援② 雇用・就業支援の実際	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
10	精神障害者の就労支援③ 福祉的就労における支援の実際	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
11	精神障害者の生活支援システム① 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第7章の該当箇所の通読・再読
12	精神障害者の生活支援システム② 余暇活動・ソーシャルサポートネットワーク・クライシスケアシステム等	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第7章の該当箇所の通読・再読
13	行政における相談援助① 市町村における相談援助システム	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第6章の該当箇所の通読・再読
14	行政における相談援助② 都道府県における相談援助システム	講義（適宜、視聴覚教材）演習	テキスト第6章の該当箇所の通読・再読
15	まとめ	講義（適宜、視聴覚教材）	全授業内容の振り返り
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				精神障害者の生活支援のための制度・サービスの活用方法を体験する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）			単位	2
科目名（英語）	Foundations in the Social Work Profession in Mental Health (Advanced)			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	住友 雄資				
授業概要	わが国の精神保健福祉の現状を踏まえ、精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、相談援助に係る専門職の概念と範囲、相談援助における権利擁護の意義と範囲、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、1年次までの社会福祉士指定科目が履修済みであることが望ましい。				
テキスト	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』中央法規出版、2015、2,700円(税別) ※ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する。				
参考図書・教材等	必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神科領域のソーシャルワークを解説することにより、ソーシャルワークの専門知識・技術の習得を指導する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メール等で受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)		
		(DP2)	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、相談援助に係る専門職の概念と範囲、相談援助における権利擁護の意義と範囲、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解することができる。	
	思考・判断・表現	(DP3)	精神保健福祉分野における相談援助の基盤を学ぶことによって、相談援助についてさまざまな観点から思考・判断することができる。	
		(DP4)		
	関心・意欲・態度	(DP5)		
		(DP6)		
		技能	(DP7)	
			(DP8)	
	(DP9)			
	(DP10)			
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えをわかりやすく説明できる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
「授業概要」について、理解できる。				
成績評価の基準				
S: 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。				
「授業概要」について応用も含めて理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。				

A：80～89	履修目標を達成している。
	「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	「授業概要」についてある程度理解した上で、自らの考えを他者に表現できる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	「授業概要」についてある程度理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	「授業概要」について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			100				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	授業内容のふりかえり（事後）
2	精神保健福祉士の役割と意義	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
3	現代社会と精神保健福祉士の職域	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
4	精神保健福祉分野における相談援助の定義と構成要素	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
5	精神保健福祉分野における相談援助の価値・理念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
6	欧米における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
7	日本における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史①	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
8	日本における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史②	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
9	精神保健福祉分野における相談援助の体系	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
10	精神保健福祉分野における専門職の概念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）

11	精神保健福祉分野における専門職の業務範囲	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
12	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
13	専門職倫理と倫理的ジレンマ	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
14	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携①	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携②とまとめ	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ			単位	2
科目名（英語）	Social Work in the Fields of Mental Health and WelfareⅠ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	鬼塚 香				
授業概要	わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、社会福祉士および精神保健福祉士指定科目を同時履修また履修済みであることが望ましい。				
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ第2版』中央法規出版、2014年、2916円（税込）				
参考図書・教材等	必要に応じて随時紹介する				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、精神保健医療福祉関連法令や精神保健医療福祉援助活動について講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	毎授業終了時に課すりアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	精神保健医療福祉の歴史と動向、精神障害者に対する支援の基本的な考え方について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	精神障害者に対する相談援助の過程および相談援助活動に必要な面接技術を理解し、相談援助のあり方をさまざまな観点から思考・判断することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について、理解することができる。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について、実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について、理解することができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について、理解できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○				
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	授業内容の振り返り
2	精神保健医療福祉の歴史と動向① わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第1章の該当箇所の通読・再読
3	精神保健医療福祉の歴史と動向② わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第1章の該当箇所の通読・再読

4	精神保健医療福祉の歴史と動向③ わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第1章の該当箇所の通読・再読
5	精神保健医療福祉の歴史と動向④ 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第1章の該当箇所の通読・再読
6	精神保健医療福祉の歴史と動向⑤ 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第1章の該当箇所の通読・再読
7	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と知識① 精神保健福祉士における活動の歴史	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第2章の該当箇所の通読・再読
8	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と知識② 精神障害者支援の理念と精神保健医療福祉における支援対象 精神障害者の人権	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第2章の該当箇所の通読・再読
9	精神障害者支援の実践モデル 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容 代表的な精神障害者支援の実践モデル	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第6章の該当箇所の通読・再読
10	相談援助の過程および対象者との援助関係① ケース発見・受理面接と契約、課題分析と支援計画	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第7章の該当箇所の通読・再読
11	相談所の過程および対象者との援助関係② 支援の実施と経過の観察、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第7章の該当箇所の通読・再読
12	相談援助活動のための面接技術① 面接を効果的に行う方法	講義（適宜、視聴覚教材） 演習	テキスト第8章の該当箇所の通読・再読
13	相談援助活動のための面接技術② 面接技法	講義（適宜、視聴覚教材） 演習	テキスト第8章の該当箇所の通読・再読
14	スーパービジョンとコンサルテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト第9章の該当箇所の通読・再読
15	まとめ	講義（適宜、視聴覚教材）	全授業内容の振り返り
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				相談援助活動の展開過程およびその際必要となる面接技術について実際に体験する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Social Work in the Fields of Mental Health and Welfare II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	住友 雄資				
授業概要	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際、精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的支援の意義と展開などについて学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、3年次前期までの精神保健福祉士指定科目が履修済みであること				
テキスト	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版、2014、2,700円(税別) ※ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する。				
参考図書・教材等	必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神科領域のソーシャルワークを解説することにより、ソーシャルワークの専門知識・技術の習得を指導する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メール等で受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地域移行・地域定着支援場面におけるソーシャルワーク等について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	家族相談、地域移行支援や地域定着支援等におけるソーシャルワークの展開過程、地域生活支援における保健・医療・福祉等の包括的支援等について、さまざまな観点から思考・判断することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えをわかりやすく表現できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	「授業概要」について、理解できる。		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	「授業概要」について応用も含めて理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。		
	A：80～89 履修目標を達成している。		
	「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。		
	B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

「授業概要」についてある程度理解した上で、自らの考えを他者に表現できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
「授業概要」についてある程度理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
「授業概要」について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				100				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○				
思考・判断・表現	(DP3)			○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	授業内容のふりかえり（事後）
2	精神保健福祉士の役割と意義	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
3	現代社会と精神保健福祉士の職域	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
4	精神保健福祉分野における相談援助の定義と構成要素	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
5	精神保健福祉分野における相談援助の価値・理念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
6	欧米における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
7	日本における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史①	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
8	日本における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史②	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
9	精神保健福祉分野における相談援助の体系	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
10	精神保健福祉分野における専門職の概念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
11	精神保健福祉分野における専門職の業務範囲	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
12	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
13	専門職倫理と倫理的ジレンマ	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業

			内容のふりかえり（事後）
14	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携①	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携②とまとめ	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神科リハビリテーション学Ⅰ			単位	2
科目名（英語）	Psychiatric RehabilitationⅠ			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	鬼塚 香				
授業概要	精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、社会福祉士および精神保健福祉士指定科目を同時履修また履修済みであることが望ましい。				
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ第2版』中央法規出版、2014年、2916円（税込）				
参考図書・教材等	必要に応じて随時紹介する				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、医療機関における精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士に必要な知識と技術について、経験談を交えながら講義する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	毎授業終了時に課すリアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセスについて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割、他職種連携・協働の方法について、さまざまな観点から思考・判断することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、理解することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、実践での応用方法も含めて理解した上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、理解することができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について、理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	授業内容の振り返り

2	精神科リハビリテーションの概念と構成① 精神科リハビリテーションの概念	講義 (適宜、視聴覚教材)	テキスト第3章の該当箇所の通読・再読
3	精神科リハビリテーションの概念と構成② 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則	講義 (適宜、視聴覚教材)	テキスト第3章の該当箇所の通読・再読
4	精神科リハビリテーションの概念と構成③ 精神科リハビリテーションの構成と展開	講義 (適宜、視聴覚教材)	テキスト第3章の該当箇所の通読・再読
5	精神科リハビリテーションのプロセス① リハビリテーション計画・評価	講義 (適宜、視聴覚教材)	テキスト第4章の該当箇所の通読・再読
6	精神科リハビリテーションのプロセス② アプローチの方法	講義 (適宜、視聴覚教材)	テキスト第4章の該当箇所の通読・再読
7	精神科リハビリテーションのプロセス③ 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション	講義 (適宜、視聴覚教材)	テキスト第4章の該当箇所の通読・再読
8	医療機関における精神科リハビリテーションの展開① 精神専門療法	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
9	医療機関における精神科リハビリテーションの展開② 精神専門療法	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
10	医療機関における精神科リハビリテーションの展開③ 家族教育プログラム	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
11	医療機関における精神科リハビリテーションの展開④ 家族教育プログラム	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
12	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑤ 精神科デイケア・医療機関のアウトリーチ	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
13	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑥ 精神科デイケア・医療機関のアウトリーチ	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
14	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑦ チーム医療 医療機関における他職種との協働・連携	講義 (適宜、視聴覚教材) 演習	テキスト第5章の該当箇所の通読・再読
15	まとめ	講義 (適宜、視聴覚教材)	全授業内容の振り返り
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容				精神科リハビリテーションプログラムを実際に作成、実施し体験する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神科リハビリテーション学Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Psychiatric Rehabilitation II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	住友 雄資				
授業概要	精神保健福祉士がおこなう地域を基盤にしたリハビリテーションなどについて理解し、それを他者に説明できるようになる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、3年次前期までの精神保健福祉士指定科目が履修済みであること				
テキスト	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版、2014、2,700円(税別) ※ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する。				
参考図書・教材等	必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神科リハビリテーションワークを解説することにより、その専門知識・技術の修得を指導する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メール等で受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地域を基盤とした精神科リハビリテーションについて説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	地域におけるリハビリテーションの展開と精神保健福祉士の役割、多職種連携・協働の方法について、さまざまな観点から思考・判断し、他者に説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えをわかりやすく表現できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
「授業概要」について、理解できる。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
「授業概要」について応用も含めて理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく、かつ説得的に表現できる。			
A: 80~89	履修目標を達成している。		
「授業概要」について正確に理解した上で、自らの考えを他者にわかりやすく表現できる。			
B: 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
「授業概要」についてある程度理解した上で、自らの考えを他者に表現できる。			
C: 60~69	到達目標を達成している。		

「授業概要」についてある程度理解できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

「授業概要」について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				100				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○				
思考・判断・表現	(DP3)			○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション／地域ネットワーク① 必要性和目的と定義	講義（適宜、視聴覚教材）	授業内容のふりかえり（事後）
2	地域ネットワーク② 種類と構造、形成のプロセスと精神保健福祉士の役割	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
3	地域ネットワーク③ インフォーマルネットワークとフォーマルネットワークの有機的活用	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
4	地域ネットワーク④ 地域ネットワークの課題と留意点	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
5	アウトリーチ① ニーズ把握・介入・モニタリング／訪問型サービス	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
6	アウトリーチ② 海外のアウトリーチとわが国の課題	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
7	ケアマネジメント① モデル（仲介モデル・ACT・ストレングスモデルなど）	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
8	ケアマネジメント② 原則と方法	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
9	ケアマネジメント③ 展開過程とチーム活動	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
10	ケアマネジメント④ 事例から学ぶ（ACTモデル）	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
11	ケアマネジメント⑤ 事例から学ぶ（ストレングスモデル）	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
12	地域生活支援事業（地域活動支援センターと相談支援事業を中心に）	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）
13	セルフヘルプグループとその支援	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前）／授業内容のふりかえり（事後）

14	精神保健福祉ボランティアの育成	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
15	まとめ	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前)／授業内容のふりかえり(事後)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉演習			単位	1
科目名（英語）	Foundation Seminar in Mental Health Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	住友雄資・鬼塚香				
授業概要	精神保健福祉士に求められる基礎的な知識と技術について、実践的に修得し、活用できる。主に、相談援助に係る基礎的な技術と地域福祉の基盤整備と開発に係る技術について、個別指導ならびに集団指導・グループ学習などによる演習形式で学び、修得することとする。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、2年次後期までの社会福祉士・精神保健福祉士指定科目が履修済みであること				
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版].				
参考図書・教材等	必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロード・通読し、必要な事前学習をおこなって授業に出席すること				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術の基礎を解説することにより、基礎的な専門知識・技術の修得を指導する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後またはオフィスアワー等で対応。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	精神保健福祉の問題解決に関わる基礎的な知識と技術を修得することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	精神保健福祉の諸問題に対応するための基礎的なスキルを身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 「授業概要」の内容について、演習形式で学び、修得する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 「授業内容」の内容について、一定水準で修得し、その技術をある程度活用できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を応用的に活用できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を適切に活用できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 「授業内容」の内容を修得し、その技術をある程度活用できる。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

「授業内容」の内容をある程度修得した上で、その技術をある程度活用できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

「授業内容」の内容を修得できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業内演習内容	合計
総合評価割合							100	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)						○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						○	
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーションおよび自己覚知に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
2	基本的なコミュニケーション技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
3	基本的な面接技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
4	集団力動（グループダイナミクス）活用技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
5	情報の収集・整理・伝達の技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
6	課題の発見・分析・解決の技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
7	記録の技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
8	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握に関する実技指導	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
9	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域アセスメントに関する実技指導	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
10	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域福祉計画に関する実技指導	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
11	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、ネットワーキングに関する実技指導	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
12	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、社会資源の活用・調整に関する	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）

	る実技指導		
13	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、社会資源の開発に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
14	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、サービス評価に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
15	1～14までの内容のまとめ	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他(ローププレイ)				○	○	○	○	○	○	○								
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉援助演習			単位	2
科目名（英語）	Seminar in Mental Health Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3～4年	開講時期	3年後期		
担当教員	住友雄資・鬼塚香				
授業概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、援助・支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で修得する。全30回のうち、3年生は前半の15回を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、「精神保健福祉演習」履修済みであること				
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版]。				
参考図書・教材等	必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロード・通読し、必要な事前学習をおこなって授業に出席すること				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術を解説することにより、基礎的な専門知識・技術の習得を指導する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後またはオフィスアワー等で対応。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	精神保健福祉の問題解決に関わる専門的スキルを修得することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	精神保健福祉の諸問題に対応するための専門的を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 「授業概要」の内容について、演習形式で学び、修得する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 「授業内容」の内容について、一定水準で修得し、その技術をある程度活用できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を応用的に活用できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を適切に活用できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 「授業内容」の内容を修得し、その技術をある程度活用できる。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

「授業内容」の内容をある程度修得した上で、その技術をある程度活用できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

「授業内容」の内容を修得できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業内演習内容	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)					○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
2	支援課題に関する事例演習（社会的排除）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
3	支援課題に関する事例演習（地域移行支援）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
4	支援課題に関する事例演習（地域定着支援）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
5	支援課題に関する事例演習（ピアサポート）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
6	支援課題に関する事例演習（自殺（予防））	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
7	支援課題に関する事例演習（ひきこもり）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
8	支援課題に関する事例演習（虐待）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
9	支援課題に関する事例演習（薬物・アルコール依存・ギャンブル依存）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
10	支援課題に関する事例演習（就労（雇用））	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
11	支援課題に関する事例演習（貧困（低所得））	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
12	支援課題に関する事例演習（ホームレス）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
13	支援課題に関する事例演習（SST）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）

14	支援課題に関する事例演習 (権利擁護)	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
15	支援課題に関する事例演習 (施設コンフリクト)	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																		
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																				
体験学習/調査学習																				
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他(ローププレイ)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉援助演習			単位	2
科目名（英語）	Seminar in Mental Health Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	3～4年	開講時期	4年通年		
担当教員	住友雄資・鬼塚香				
授業概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、援助・支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で修得する。全30回のうち、4年生は後半の15回を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業内容を理解する上で、3年次後期までの精神保健福祉士指定科目を履修済みであること				
テキスト	日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版].				
参考図書・教材等	必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロード・通読し、必要な事前学習をおこなって授業に出席すること				
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術を解説することにより、専門的スキルの修得を指導する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後またはオフィスアワー等で対応。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	精神保健福祉の問題解決に関わる専門的スキルを修得することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	精神保健福祉の諸問題に対応するための専門的を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 「授業概要」の内容について、演習形式で学び、修得する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 「授業内容」の内容について、一定水準で修得し、その技術をある程度活用できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を応用的に活用できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。 「授業内容」の内容を修得した上で、その技術を適切に活用できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 「授業内容」の内容を修得し、その技術をある程度活用できる。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

「授業内容」の内容をある程度修得した上で、その技術をある程度活用できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

「授業内容」の内容を修得できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業内演習内容	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)					○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	支援モデルに関する事例演習（危機介入）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
2	支援モデルに関する事例演習（ストレングスモデル）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
3	支援モデルに関する事例演習（セルフヘルプグループ）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
4	支援モデルに関する事例演習（アウトリーチ）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
5	支援モデルに関する事例演習（チームアプローチ）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
6	支援モデルに関する事例演習（ケアマネジメント）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
7	支援モデルに関する事例演習（ネットワーキング）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
8	支援モデルに関する事例演習（社会資源活用・開発法）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
9	ソーシャルワーク過程にする事例演習（インテーク）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
10	ソーシャルワーク過程にする事例演習（アセスメント）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
11	ソーシャルワーク過程にする事例演習（プランニング）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
12	ソーシャルワーク過程にする事例演習（実施・モニタリング・評価）	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）
13	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の支援課題に関する事例演習①	演習	事例等の通読等（事前／演習事例のふりかえり学習（事後）

14	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の支援課題に関する事例演習②	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
15	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の支援課題に関する事例演習③	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他(ロープレイ)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉援助実習指導		単位	3
科目名（英語）	Guidance for Field Work in Mental Health Social Work		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士	
標準履修年次	3～4年	開講時期	3年通年、4年通年	
担当教員	住友 雄資・鬼塚 香・畑 香理・戸丸 純一			
授業概要	精神保健福祉援助実習指導は精神保健福祉士資格取得をめざす学生を対象としたものであり、4年次に開講する「精神保健福祉援助実習」に必要な事前学習（1～37回）・巡回指導・事後学習（38～48回）をおこなう。事前学習は、見学実習・プレ実習、講義（外部講師を含む）やグループ学習などをおこなう。巡回指導は、「精神保健福祉援助実習」において担当教員による指導をおこなう。事後学習は、「精神保健福祉援助実習」後に実習報告会やスーパービジョンなどを通じて、実習全体をふりかえり、実習で体験した学びを深める。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<ul style="list-style-type: none"> ・1～15回の課題を全て達成していることが16回以降の履修条件である（3年次分）。 ・16～36回の課題を全て達成していることが「精神保健福祉援助実習」履修の条件である。 			
テキスト	なし。			
参考図書・教材等	「精神保健福祉援助実習の手引き」、必要資料はeラーニングまたは授業時に配布する。			
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員と現役の精神保健福祉士（ゲストスピーカー）とが共同して、精神保健福祉領域の現状や課題、援助技術を解説することにより、実践的な専門知識・技術の習得を指導する。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	実習指導は学生と教員との密接な協力体制が必要になるため、柔軟な相談体制をとる。具体的にはオリエンテーション時に説明する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を継続的に高めていく意欲がある。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉に関する問題について、各種の資料を適切に収集し、分析できる。 ・具体的な体験を言語化・概念化し、それを基にして専門知識及び技術を体系立てていくことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を高めることができる。また、精神保健福祉に関する問題を収集・分析できることに加え、自らの実習体験等を言語化できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理、精神保健福祉に関する問題等を理解することができる。また、自らの実習体験等を言語化できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を継続して高めることができる。また、精神保健福祉に関する問題を適切に収集・分析できることに加え、自らの実習体験等を言語化・概念化できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を高めることができる。また、精神保健福祉に関する問題を収集・分析できることに加え、自らの実習体験等を言語化できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術をある程度高めることができる。また、精神保健福祉に関する問題を収集できることに加え、自らの実習体験等を言語化できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理、精神保健福祉に関する問題等を理解することができる。また、自らの実習体験等を言語化できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理、精神保健福祉に関する問題等を理解できていない。また、自らの実習体験等を言語化できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		15	15	30		40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		◎	◎	◎	◎	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○	○	○	
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	見学実習学内オリエンテーション	授業の全体像および見学実習の概要の提示	精神科病院に関する予習
2	見学実習（精神科病院）	グループによる見学実習	精神科病院に関する予習
3	見学実習報告会	グループ別発表	プレゼンテーション資料の作成
4	実習事前面接（受講動機、心構え、選択理由等の確認）	個別指導	受講動機の明確化
5	実習報告会への参加	4年生の実習報告会参加	発表内容の予習・復習
6	プレ実習学内オリエンテーション	プレ実習の概要の提示	プレ実習先に関する予習

7	プレ実習 実習計画書作成指導①	個別指導	プレ実習計画書案の作成と指導後の修正
8	プレ実習 実習計画書作成指導②	個別指導	プレ実習計画書案の作成と指導後の修正
9	プレ実習 実習計画書作成指導③	個別指導	プレ実習計画書案の作成と指導後の修正
10	プレ実習(障害福祉サービス事業所など)①	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加
11	プレ実習(障害福祉サービス事業所など)②	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加
12	プレ実習(障害福祉サービス事業所など)③	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加
13	プレ実習(障害福祉サービス事業所など)④	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加
14	プレ実習報告会	グループ発表	プレゼンテーション資料の準備
15	外部講師による講義(P S W)	講義	講義内容の予習・復習
16	オリエンテーション+実習計画書作成指導	実習概要の提示及び個別指導	実習計画書案の作成と指導後の修正
17	実習計画書作成指導	個別指導	実習計画書案の作成と指導後の修正
18	事前訪問、実習記録等書類提出、実習での留意点	個別及びグループ指導	授業後に学んだ内容を確実に復習する
19	実習記録の書き方①	個別及びグループ指導	授業後に学んだ内容を確実に復習する
20	実習記録の書き方②	個別及びグループ指導	授業後に学んだ内容を確実に復習する
21	事前学習① グループ発表(障害者基本法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法、障害者優先調達推進法+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
22	事前学習② グループ発表(精神保健福祉士法+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
23	事前学習③ グループ発表(精神保健福祉法+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
24	事前学習④ グループ発表(障害者総合支援法:障害福祉サービス・地域生活支援事業+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
25	事前学習⑤ グループ発表(生活保護法/生活困窮者自立支援法+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
26	事前学習⑥ グループ発表(医療保険・年金保険)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
27	外部講師による講義① 当事者	講義	講義内容の予習・復習
28	外部講師による講義② P S W	講義	講義内容の予習・復習
29	実習記録の書き方③	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
30	実習記録の書き方④	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
31	事前学習⑦ 日誌・事前準備	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
32	事前学習⑧ 面接以外の場所における実習	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
33	事前学習⑨ 帰校日、巡回指導	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
34	事前学習⑩ 実習指導者との振り返り	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
35	事前学習⑪ 病院実習	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
36	事前学習⑫ 実習中の困りごと、夏季休暇に向けての留意点	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
37	事後学習① 感想発表	個別及びグループ討論	実習施設ごとに現状を整理して参加する

38	事後学習② 個別指導①	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
39	事後学習③ 個別指導②	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
40	事後学習④ 個別指導③	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
41	事後学習⑤ 個別指導④	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
42	事後学習⑥ プレゼン作成・発表指導①	個別及びグループ指導	実習報告会の発表準備
43	事後学習⑦ プレゼン作成・発表指導②	個別及びグループ指導	実習報告会の発表準備
44	事後学習⑧ プレゼン作成・発表指導③	個別及びグループ指導	実習報告会の発表準備
45	事後学習⑨ 実習報告会①	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
46	事後学習⑩ 実習報告会②	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
47	事後学習⑪ 実習報告会③	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
48	事後学習⑫ 実習評価全体総括会	個別及びグループ発表	実習全体の振り返り
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習					○							○	○	○	○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（発表）						○											○	
内容																		

あり	○	なし																	
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（発表）									○	○	○	○	○	○					
内容																			

あり	○	なし																		
講義回数				31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45		
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○										
その他（発表）				○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	○		
内容																				

あり	○	なし															
講義回数				46	47	48											
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（発表）				○	○	○											
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健福祉援助実習			単位	5
科目名（英語）	Field Work in Mental Health Social Work			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	4年	開講時期	通年		
担当教員	住友 雄資・鬼塚 香・畑 香理・戸丸 純一				
授業概要	精神保健福祉援助実習は、精神保健福祉士資格取得をめざす学生を対象としたものであり、実習では、精神保健福祉士の実務・援助方法を学習する。4年次の6月～9月の間に、医療機関で15日間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で12日間以上の配属実習を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	3年次実施の次の課題を全て達成していること：①見学実習、②見学実習報告会、③4年生の実習報告会への出席、④個別面談、⑤プレ実習、⑥プレ実習報告会、⑦外部講師講話への出席。				
テキスト	なし。				
参考図書・教材等	「精神保健福祉援助実習の手引き」、必要資料はeラーニングまたは授業時に配布する。				
実務経験を生かした授業	精神科病院・地域の障害福祉サービス事業所等において、精神保健福祉領域での実務経験を有する実習指導教員及び現任の精神保健福祉士（実習指導者）の指導の下、精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術を習得する実習を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	本実習は、学生と教員との密接な協力体制が必要になるため、柔軟な相談体制をとる。具体的には、「精神保健福祉援助実習指導」において説明する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理及び、自己に求められる課題把握等について、総合的に対応できる意欲と態度を身につけることができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	精神保健福祉士として求められる退院支援および地域生活支援等と、関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容について理解し、実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
本学指定の実習施設において、精神保健福祉士として求められる専門知識・技術を学び、その技術等を体得する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
配属実習において学んだ精神保健福祉援助に係る専門知識・技術、精神障害者の置かれている現状及び生活上の課題が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
本学指定の実習施設において、精神保健福祉士として求められる専門知識・技術を学び、その技術等を応用的に活用できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

本学指定の実習施設において、精神保健福祉士として求められる専門知識・技術を学び、その技術等を適切に活用できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
本学指定の実習施設において、精神保健福祉士として求められる専門知識・技術を学び、その技術等がある程度活用できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
本学指定の実習施設において、精神保健福祉士として求められる専門知識・技術を学び、その技術等の意味が理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
本学指定の実習施設において、精神保健福祉士として求められる専門知識・技術を学んだが、その技術等の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	実習態度・実習への参加度	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)					○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					◎	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回）45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回）45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	本学では、6月～9月の間に精神科病院等の医療機関で15日間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で12日間以上の配属実習（210時間）を、4年次に実施する。		
2	本学の実習指定施設である医療機関及び地域の障害福祉サービス事業を行う施設等において、実習指導者の指導の下、精神保健福祉援助並びに、障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実践的に理解しその技術等を体得する。また、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。		
3	具体的な内容については、以下に示す。		
4	1.精神科病院等の病院における実習では、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。		
5	(1) 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助		
6	(2) 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助		
7	(3) 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助		
8	2. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。		
9	(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成		
10	(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 (3) 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 (4) 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価		

11	(5) 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
12	(6) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
13	(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
14	(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
15	(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
備考	なお配属実習では、精神保健福祉援助実習指導担当教員が、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導にあたる。

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健学 I			単位	2
科目名（英語）	Mental Health I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	小嶋秀幹				
授業概要	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。				
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3200円）				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が講義する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解し、内容を説明できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
到達目標	ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解し、最低限の内容を説明できる。		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
到達目標	ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、内容を的確に説明できる。		
到達目標	A：80～89 履修目標を達成している。		
到達目標	ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、内容を概ね説明できる。		
到達目標	B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、基本的な内容は説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、最低限の内容は説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解できておらず、内容の説明ができない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	精神保健とは(1)	講義	テキスト第1章を読む
2	精神保健とは(2)	質疑応答、講義	テキスト第1章を読む
3	ライフサイクルにおける精神保健（乳児期-1）	質疑応答、講義	テキスト第2章Iを読む
4	ライフサイクルにおける精神保健（乳児期-2）	質疑応答、講義	テキスト第2章Iを読む
5	ライフサイクルにおける精神保健（学童期-1）	質疑応答、講義	テキスト第2章IIを読む
6	ライフサイクルにおける精神保健（学童期-2）	質疑応答、講義	テキスト第2章IIを読む
7	精神保健活動の実際（家庭）	質疑応答、講義	テキスト第4章Iを読む
8	ライフサイクルにおける精神保健（思春期）	質疑応答、講義	テキスト第2章IIIを読む
9	ライフサイクルにおける精神保健（青年期）	質疑応答、講義	テキスト第2章IVを読む
10	精神保健活動の実際（学校）	質疑応答、講義	テキスト第4章IIを読む
11	ライフサイクルにおける精神保健（成人期-1）	質疑応答、講義	テキスト第2章Vを読む
12	ライフサイクルにおける精神保健（成人期-2）	質疑応答、講義	テキスト第2章Vを読む
13	精神保健活動の実際（職場）	質疑応答、講義	テキスト第4章IIIを読む

14	ライフサイクルにおける精神保健（老年期）	質疑応答、講義	テキスト第2章VIを読む
15	精神保健活動の実際（地域）	質疑応答、講義	テキスト第4章IVを読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健学Ⅱ	単位	2
科目名（英語）	Mental Health II	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	精神保健福祉士
標準履修年次	2年	開講時期	後期
担当教員	小嶋秀幹		
授業概要	精神保健学Ⅰに引き続き、精神保健における個別課題への取り組みについて講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。		
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3200円）		
参考図書・教材等			
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が講義する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	精神保健における個別課題への取り組みについて理解し、内容を説明できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
到達目標	精神保健における個別課題への取り組みについて理解し、最低限の内容を説明できる。		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
到達目標	精神保健における個別課題への取り組みについて理解した上で、内容を的確に説明できる。		
到達目標	A：80～89 履修目標を達成している。		
到達目標	精神保健における個別課題への取り組みについて理解した上で、内容を概ね説明できる。		
到達目標	B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

精神保健における個別課題への取り組みについて理解した上で、基本的な内容は説明できる。

C：60～69 到達目標を達成している。

精神保健における個別課題への取り組みについて理解した上で、最低限の内容は説明できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

精神保健における個別課題への取り組みについて理解できておらず、内容の説明ができない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	精神障害対策	講義	テキスト第3章Iを読む
2	認知症対策	質疑応答、講義	テキスト第3章IIを読む
3	アルコール関連問題対策①	質疑応答、講義	テキスト第3章IIIを読む
4	アルコール関連問題対策②	質疑応答、講義	テキスト第3章IIIを読む
5	薬物乱用防止対策①	質疑応答、講義	テキスト第3章IV読む
6	薬物乱用防止対策②	質疑応答、講義	テキスト第3章IVを読む
7	思春期精神保健対策	質疑応答、講義	テキスト第3章Vを読む
8	地域精神保健対策	質疑応答、講義	テキスト第3章VIを読む
9	司法精神保健対策	質疑応答、講義	テキスト第3章VIIを読む
10	緩和ケアと精神保健	質疑応答、講義	テキスト第3章VIIIを読む
11	地域精神保健施策	質疑応答、講義	テキスト第5章I・IIを読む
12	精神保健福祉に関する調査研究	質疑応答、講義	テキスト第5章IIIを読む
13	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	質疑応答、講義	テキスト第6章を読む
14	精神保健に関わる専門職種との役割と連携	質疑応答、講義	テキスト第7章を読む

15	世界の精神保健	質疑応答、講義	テキスト第8章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神医学 I			単位	2
科目名（英語）	Psychiatry I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、精神保健福祉士		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	小嶋秀幹				
授業概要	公認心理師、精神保健福祉士等、将来、精神医療に従事する学生に必要な精神医学の基礎知識を講義する。進歩の著しい精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。				
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学－精神疾患とその治療」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3,200円）				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業	精神科医の教員が精神医学の基本的知識を講義する。			授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)		
		(DP 2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。	
	思考・判断・表現	(DP 3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。	
		(DP 4)		
	関心・意欲・態度	(DP 5)		
		(DP 6)		
		技能	(DP 7)	
			(DP 8)	
	(DP 9)			
	(DP10)			
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
精神医学の総論について理解し、代表的な精神疾患の診断と治療を説明できる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
精神医学の総論と講義で取り上げる精神疾患について理解し、内容を正しく説明できる。				
成績評価の基準				
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。				
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療をについて理解した上で、内容を的確に説明できる。				
A：80～89 履修目標を達成している。				
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療をについて理解した上で、内容を概ね説明できる。				

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療について理解した上で、基本的な内容は説明できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療について理解した上で、最低限の内容は説明できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
精神医学の総論、代表的な精神疾患の診断と治療について理解できておらず、内容の説明ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	精神医療の歴史	講義	テキスト第1章を読む
2	脳および神経の解剖生理	質疑応答、講義	テキスト第2章を読む
3	精神医学の概念	質疑応答、講義	テキスト第3章を読む
4	精神疾患の診断	質疑応答、講義	テキスト第4章を読む
5	精神症状と状態像	質疑応答、講義	テキスト第4章を読む
6	身体的検査と心理検査	質疑応答、講義	テキスト第4章を読む
7	症状性・器質性精神障害	質疑応答、講義	テキスト第5章Iを読む
8	物質使用による精神障害①	質疑応答、講義	テキスト第5章IIを読む
9	物質使用による精神障害②	質疑応答、講義	テキスト第5章IIを読む
10	統合失調症①	質疑応答、講義	テキスト第5章IIIを読む
11	統合失調症②	質疑応答、講義	テキスト第5章IIIを読む
12	気分障害①	質疑応答、講義	テキスト第5章IVを読む
13	気分障害②	質疑応答、講義	テキスト第5章IVを読む
14	神経症性障害①	質疑応答、講義	テキスト第5章Vを読む

15	神経症性障害②	質疑応答、講義	テキスト第5章Vを読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神医学 II		単位	2
科目名（英語）	Psychiatry II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、精神保健福祉士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	小嶋秀幹			
授業概要	精神医学 I に引き続き、精神障害の各論と治療法等について講義する。 精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。			
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第 1 巻「精神医学－精神疾患とその治療」〈第 6 版〉（へるす出版、2017 年、3,200 円）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業	精神科医の教員が精神医学の基本的知識を講義する。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	精神障害の各論と治療法について理解し、精神疾患の診断と治療を説明できる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	精神障害の各論と治療法等について理解し、内容を正しく説明できる。		
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	精神障害の各論と治療法について理解した上で、内容を的確に説明できる。 履修目標を達成している。		
B : 70~79	精神障害の各論と治療法について理解した上で、内容を概ね説明できる。 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

精神障害の各論と治療法について理解した上で、基本的な内容は説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
精神障害の各論と治療法について理解した上で、最低限の内容は説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
精神障害の各論と治療法について理解できておらず、内容の説明ができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	摂食障害・睡眠障害	講義	テキスト第5章VIを読む
2	パーソナリティ障害	質疑応答、講義	テキスト第5章VIIを読む
3	知的障害	質疑応答、講義	テキスト第5章VIIIを読む
4	心理的発達障害	質疑応答、講義	テキスト第5章IXを読む
5	小児期・青年期の精神障害	質疑応答、講義	テキスト第5章Xを読む
6	神経系の疾患 (てんかん含む)	質疑応答、講義	テキスト第5章XIを読む
7	精神科的治療法(向精神薬による心身の変化)	質疑応答、講義	テキスト第6章Iを読む
8	精神科的治療法 (精神療法①)	質疑応答、講義	テキスト第6章IIを読む
9	精神科的治療法 (精神療法②)	質疑応答、講義	テキスト第6章IIを読む
10	精神科的治療法(精神科リハビリテーション)	質疑応答、講義	テキスト第6章IIIを読む
11	病院精神科医療(医療機関との連携)	質疑応答、講義	テキスト第7章I・IIを読む
12	精神科救急医療	質疑応答、講義	テキスト第7章IIIを読む
13	地域精神医療	質疑応答、講義	テキスト第7章IV・Vを読む

14	精神科医療における人権擁護	質疑応答、講義	テキスト第8章を読む
15	司法精神医学	質疑応答、講義	テキスト第9章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	学校ソーシャルワーク論		単位	2
科目名（英語）	School Social Work Theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定修了資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	奥村 賢一			
授業概要	本講義では、①今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、②学校ソーシャルワークの発展過程、③海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、④学校ソーシャルワークの実践モデル、⑤スクールソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性、以上5点について重点的に理解を深めていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者 ・「相談援助実習」を履修済みであること ・「家族福祉論」を履修することが望ましい 			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008年（3,240円）※購入方法等については初回の授業で説明を行う 			
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』、中央法規、2009年（2,592円） ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円） ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻紀恵編『新版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版、2019年（2,750円） 			
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーや児童指導員としての実務経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	学校ソーシャルワークを実践するうえで求められる学校教育および社会福祉等の専門的知識を体系的に理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	学校教育現場における学校ソーシャルワーク実践の必要性ならびにスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割・機能を具体的な活動内容に照らし合わせて説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>①今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、②学校ソーシャルワークの発展過程、③海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、④学校ソーシャルワークの実践モデル、⑤スクールソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性について、自らの考えを踏まえ具体的に説明することができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

①今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、②学校ソーシャルワークの発展過程、③海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、④学校ソーシャルワークの実践モデル、⑤スクールソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性について説明することができる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		60		20		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		40	10		10	60
思考・判断・表現	(DP3)		20	10		10	40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢	①講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。 ②テキストとプリントを中心に講義を進める。 ③単元により、グループ討議などを取り入れていく。	講義終了時に指示する
2	学校ソーシャルワークの価値・倫理		授業内容（第2回）の復習と次回の予習
3	アメリカでのスクール（学校）ソーシャルワーカーの発展史		授業内容（第3回）の復習と次回の予習
4	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動		授業内容（第4回）の復習と次回の予習
5	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動		授業内容（第5回）の復習と次回の予習
6	わが国での学校ソーシャルワークの発展史		授業内容（第6回）の復習と次回の予習

7	わが国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動	④単元により、ミニレポートの提出を求める。 ⑤学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。 ⑥事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。	授業内容（第7回）の復習と次回の子習	
8	学校ソーシャルワークの実践モデルの概要		授業内容（第8回）の復習と次回の子習	
9	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実際例		授業内容（第9回）の復習と次回の子習	
10	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実際例		授業内容（第10回）の復習と次回の子習	
11	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例その1		授業内容（第11回）の復習と次回の子習	
12	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例その2		授業内容（第12回）の復習と次回の子習	
13	学校ソーシャルワークの教育行政への支援		授業内容（第13回）の復習と次回の子習	
14	スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン		授業内容（第14回）の復習と次回の子習	
15	まとめ		講義の最後に小テストを実施。	第14回の授業終了時に指示する
備考				

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	学校ソーシャルワーク演習		単位	2
科目名（英語）	Seminar in School Social Work		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定修了資格	
標準履修年次	3～4年次	開講時期	3年後期～4年前期	
担当教員	寺田 千栄子			
授業概要	本演習では、スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで身につけておくべき①価値・倫理、②子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、③ケースマネジメント、④面接技法、⑤アウトリーチ、⑥チームアプローチ、⑦ネットワーキング、⑧コンサルテーション、⑨記録、⑩スーパービジョンに関する体験的学びから理解を深めていく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者を履修条件とする。 授業内容を理解するために、相談援助に関する基礎的な知識・技能を有していること必要である。			
テキスト	なし			
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規 2009年（2,592円） ・門田光司・鈴木庸裕編『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房 2010年（3,024円） ・その他、授業時に適宜プリントや資料等を配布する。 			
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実践力向上に向けて身に付けておくべき学校ソーシャルワークの専門的知識、技術、価値・倫理をワークショップ形式などの演習を用いて実践的な指導を行う。		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業の中で随時、対応していく			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで求められる①価値・倫理、②子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、③ケースマネジメント、④面接技法、⑤アウトリーチ、⑥チームアプローチ、⑦ネットワーキング、⑧コンサルテーション、⑨記録、⑩スーパービジョンの知識を実際的に活用することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで身につけておくべき①価値・倫理、②子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、③ケースマネジメント、④面接技法、⑤アウトリーチ、⑥チームアプローチ、⑦ネットワーキング、⑧コンサルテーション、⑨記録、⑩スーパービジョンについて説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	演習	
2	スクールソーシャルワーカーに求められる価値・倫理	質疑応答、演習	
3	子ども取り巻く学校・地域の状況理解①(教育アセスメント)	質疑応答、演習	
4	子ども取り巻く学校・地域の状況理解②(教育アセスメント)	質疑応答、演習	
5	子ども取り巻く学校・地域の状況理解③(地域アセスメント)	質疑応答、演習	
6	子ども取り巻く学校・地域の状況理解④(地域アセスメント)	質疑応答、演習	
7	ケースマネジメント①(アセスメント)	質疑応答、演習	
8	ケースマネジメント②(アセスメント)	質疑応答、演習	
9	ケースマネジメント③(プランニング)	質疑応答、演習	
10	ケースマネジメント④(プランニング)	質疑応答、演習	

11	ケースマネジメント⑤ (モニタリング)	質疑応答、演習	
12	ケースマネジメント⑥ (モニタリング)	質疑応答、演習	
13	面接技法①	質疑応答、演習	
14	面接技法②	質疑応答、演習	
15	面接技法③	質疑応答、演習	
16	アウトリーチ①	質疑応答、演習	
17	アウトリーチ②	質疑応答、演習	
18	ケース会議を中心としたチームアプローチ①	質疑応答、演習	
19	ケース会議を中心としたチームアプローチ②	質疑応答、演習	
20	学校(教職員)と連携したチームアプローチ	質疑応答、演習	
21	他機関(専門職種)・地域(住民等)と連携したチームアプローチ	質疑応答、演習	
22	ネットワーキング①	質疑応答、演習	
23	ネットワーキング②	質疑応答、演習	
24	コンサルテーション①	質疑応答、演習	
25	コンサルテーション①	質疑応答、演習	
26	記録法①	質疑応答、演習	
27	記録法②	質疑応答、演習	
28	スーパービジョン① (機能と方法)	質疑応答、演習	
29	スーパービジョン② (体制づくり)	質疑応答、演習	
30	まとめ	質疑応答、演習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	学校ソーシャルワーク実習指導		単位	2
科目名（英語）	Guidance for Fieldwork in School Social Work		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定修了資格	
標準履修年次	3～4年	開講時期	3年後期～4年前期	
担当教員	奥村 賢一			
授業概要	実習指導では、①学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する。②実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する。③学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者 ・「相談援助実習」「学校ソーシャルワーク論」「学校ソーシャルワーク演習」「学校ソーシャルワーク実習指導」を履修済みであること 			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き」※授業時に履修者へ配布する。 ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻紀恵編『新版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版、2019年（2,750円）※購入方法等については初回の授業で説明を行う 			
参考図書・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円） 			
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーや児童指導員としての実務経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を理解したうえで、学校ソーシャルワーク実習に臨む意欲と態度を示すことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	学校ソーシャルワークの専門的知識や技術、さらには価値・倫理を基盤にして、子どもの人権と教育および発達を保障していくための実践に取り組むことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①学校教育現場におけるスクールソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理、②実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況及び教職員の児童生徒支援体制、③学校と地域の社会資源である関係機関の連携に関する知識を有機的に活用することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
①学校教育現場におけるスクールソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理、②実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況及び教職員の児童生徒支援体制、③学校と地域の社会資源である関係機関の連携について説明をすることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			30	30		40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		20	20		20	60
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		10	10		20	40
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（学校ソーシャルワーク実習の意義）	・毎回テーマに即したグループワークを中心に演習を行う。 ・各回授業内容の詳細については前回の授業終了時に伝える。	・テキストおよび参考文献を熟読しておくこと。 ・授業終了時に事前・事後学習の課題内容については指示を行う。
2～4	学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ		
5～7	実習先の学校状況やスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動状況について知る		
8～10	実習先における子ども家庭支援体制を理解する		
11～16	現場体験実習（児童福祉施設、要保護児童対策地域協議会他）	・専門機関を訪問して現地での見学及び体験実習を行う。	・実習の手引きを熟読しておくこと。 ・授業終了時に事前・事後学習の課題内容については指示を行う。
17～19	実習計画書作成	・計画書や記録（日誌）の作成方法に関するグループワークを行った後、個人指導を実施する。	
20～22	実習記録の作成方法	・グループワークを中心とした演習を行う。	
23	プライバシー保護と守秘義務		

24	実習に向けた三者（実習生、担当教員、実習指導者）協議	・実習計画書に基づいた打ち合わせ等を行う。	・授業時に学習課題の説明を行う。 ・実習のふりかえり①②に向けた実習のまとめ
25	配属先校区の下見と地域の社会資源等に関する事前学習	・フィールドワークを実施する	
26	実習巡回指導	・実習先において実習内容に関するスーパービジョンを行う。	
27	実習のふりかえり①	・実習計画に基づいて個人スーパービジョンを実施する。	
28	実習のふりかえり②	・実習評価に基づいてグループスーパービジョンを実施する。	
29	実習報告会	・実習内容及び成果・課題に関するプレゼンテーション	
30	まとめ	・実習全体のふりかえり	・授業時に指示を行う。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																			
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																					
体験学習／調査学習														○	○	○	○	○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																					
内容																					
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
発見学習／問題解決学習																					
体験学習／調査学習				○									○								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○			
その他（実習報告）																		○			
内容																					

I. 科目情報

科目名（日本語）	学校ソーシャルワーク実習		単位	2
科目名（英語）	Fieldwork in School Social Work		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定修了資格	
標準履修年次	4年	開講時期	通年	
担当教員	奥村 賢一			
授業概要	学校教育現場で児童生徒が抱える諸問題（課題）を理解し、その支援方法としての学校・家庭・関係機関の協働を展開する学校ソーシャルワークについて学ぶため、スクールソーシャルワーカーが配置されている小・中学校及び教育委員会での実習を行う。また、実習時には児童生徒に対して直接的・間接的支援に関わる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談援助実習」「学校ソーシャルワーク論」を履修済みであること。 ・「学校ソーシャルワーク実習指導」「学校ソーシャルワーク演習」を履修していること。 			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き」※授業時に履修者へ配布する。 ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻紀恵編『新版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版、2019年（2,750円）※購入方法等については初回の授業で説明を行う 			
参考図書・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円） 			
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーや児童指導員としての実務経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・実習巡回時及び実習休日に質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	スクールソーシャルワーカーとしての価値・倫理に従い、学校ソーシャルワーク実践を展開していくための意欲と態度を能動的に示すことができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	学校ソーシャルワーク実習を通してスクールソーシャルワーカーの専門的役割や支援活動について学び、基礎的な実践力を習得している。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学校教育現場で児童生徒が抱える諸問題（課題）を理解したうえで、学校・家庭・関係機関の協働を展開するうえで求められる学校ソーシャルワークについて具体的な検討をすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学校教育現場で児童生徒が抱える諸問題（課題）を理解したうえで、学校・家庭・関係機関の協働を展開するうえで求められる学校ソーシャルワークについて自らの考えを説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80～89	履修目標を達成している。
B : 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			15	15		70	
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		10	10		40	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		5	5		30	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	実習生は、主に以下に掲げる事項について実習指導者からの指導のもと実習を行う。 ①児童生徒、教職員、その他関係者との基本的コミュニケーションを用いた円滑な人間関係の形成 ②児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、適応指導教室等の基本的理解、ニーズ把握と支援計画の作成 ③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成 ④児童生徒・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めての支援とその評価 ⑤校内におけるケース会議等でのケース検討における進め方の実際 ⑥校内や関係機関含めた多職種による	学校ソーシャルワーク実習では「スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程」の規定に則り、学校現場を中心に合計80時間以上の実習を行う。その授業方法及び進め方については以下の通りである。 ①スクールソーシャルワーカーが配置されている学校および教育委員会での実習を80時間以上行う。実習指導については、実習指導者の要件を満たすスクールソーシャルワーカーが行う。 ②本学「不登校・ひきこもりサポートセンター」にて「県子どもサポーター」の登録を行い、支援対象となる子どもたちへの個別または集団による直接支援(学習及び余暇支援活動等)を中心とした実習を行う。	①実習日誌の作成 ※実習日誌の提出方法については、実習指導者に確認をすること。 ②翌日の実習課題の設定 ※事前に翌日のスケジュールを実習指導者に確認を行うこと。 ③実習指導者より課せられた課題への取り組み ④その他
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			

20	るチームアプローチの実際	
21	⑦社会福祉士としての職業倫理、学校関係者の就業等に関する規定への理解 ⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際 ⑨市町村の子ども相談体制の理解と学校との連携の実際に基づく具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	③スクールソーシャルワーカーが連携を行う専門機関での現場体験実習を行う。 ④その他、実習生の学習状況やスクールソーシャルワーカー事業の動向等を鑑みて、必要に応じ追加で実習を行う。
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（実習報告）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	発達心理学Ⅰ - A			単位	2
科目名（英語）	Developmental PsychologyⅠ -A			授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	保育士・幼稚園教諭一種・養護教諭一種・中高教諭一種		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	池 志保				
授業概要	人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、発達段階に沿って学んでいく。発達上の心身の障がいや問題についても取り上げ、将来、教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	後期『発達心理学Ⅱ』へと続く科目です。『発達心理学Ⅱ』を履修予定の学生は、前期で『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。				
テキスト	『発達心理学』武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店。				
参考図書・教材等	『教職ベーシック 発達・学習の心理学【改訂版】』柏崎秀子編著、北樹出版社。 『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房。				
実務経験を生かした授業	発達臨床で実務経験のある教員が担当しています。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについて、概略が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。
		(DP4)	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについて、概略が理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略が大変よく理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことが大変よくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することが大変よくできている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略がよく理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがよくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがよくできている。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略がおおむね理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがおおむねできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがおおむねできている。	
C：60～69	到達目標を達成している。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略がやや理解できている。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがややできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがややできている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略が理解できていない。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができていない。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎	◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎	◎			
	(DP4)	◎	◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	発達心理学の誕生と歴史	テキストに沿って講義していく。テキストの他にも適宜資料等を配布する。 テキストで得た知識を具体的に理解するため、視聴覚学習を行う。	<p>事前学習</p> <p>次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習</p> <p>興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>
2	乳児の知的世界：選好注視、共同注視、社会的参照		
3	言葉の認識による世界の構築と代表的学習理論①：命名の爆発、学習と記憶、動機づけ理論①(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)		
4	言葉の認識による世界の構築と代表的学習理論②：ピアジェの発達理論、素朴理論と科学理論、心の理論、観察学習、学習の認知説など		
5	人の中への誕生と成長：インプリンティング、愛着理論		
6	情動の発生と自己の成長、主体的学習活動を支える集団作り		
7	学校への移行 — 主体的学習活動を支える学習理論と学習評価の在り方 —：学習理論②(外発的動機づけと内発的動機づけ)、学習と知能、学習指導法		

8	科学性の成長と世界の拡大		
9	発達の障がいと学習支援総論		
10	発達の障がい各論（自閉スペクトラム①） ～視聴覚教材～		
11	発達の障がい各論（自閉スペクトラム②） ～視聴覚教材～		
12	フロイトの発達理論		
13	性的成熟とアイデンティティの模索（エリクソンの発達理論）		
14	思春期・青年期のこころの発達・学習と親子関係		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ミニッツコメントによる双方向授業）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育相談	単位	2
科目名（英語）	Educational Counseling	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中学・高校教諭 養護教諭
標準履修年次	人社4年・看護3年	開講時期	前期
担当教員	岩橋宗哉		
授業概要	<p>この講義は、公認心理師、中学教諭、高校教諭、養護教諭を目指す学生を対象とした教育相談の講義である。</p> <p>1. 問題や課題の理解と支援(カウンセリングの基礎的知識を含む)の方法を学ぶ： 小学校から高校までの教育現場において、児童、生徒によくみられる問題やその背景について、発達課題も踏まえた理解やそれへの支援について事例を通して学ぶ。またそれにより、教育現場におけるカウンセリングの基礎的な知識とかわり方について理解する。</p> <p>2. 連携について学ぶ： 子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。授業内容や順序については、若干変更することもある。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	【参考文献】「チーム援助入門」（石隈利紀・村田節子著、図書文化）、「子どものこころの不思議」（村田豊久、慶応義塾大学出版社）、「現実に介入しつつ心に関わる」（田嶋誠一、金剛出版）など		
実務経験を生かした授業	臨床心理士、公認心理師でスクールカウンセラー経験がある者が担当し、学生とともに事例の検討等を行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く用紙に記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	1. 教育現場において児童や生徒に生じる問題やその背景、及びその支援について説明できる。 2. 子どもや保護者に対して関わっていくときに必要なカウンセリング的な視点について説明できる。 3. 子どもを中心にして、保護者や他の教員等さらに学校外の機関との連携について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	発表者は担当したテーマについて主体的に調べ発表し、参加者は自らの疑問や意見をまとめ、ディスカッションできる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
DP2の内容について主体的に調べ、自分の意見を持ち、それも含めて説明することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
DP 2 の内容について説明することができる。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)		○					60
思考・判断・表現	(DP 3)							
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)		○		○			40
	(DP 6)							
技能	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス（授業の説明とカウンセリングの意義と理論について）	講義	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
2	小学校における事例(1) 発達障害	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
3	小学校における事例(2) 虐待、心身症	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
4	中学校における事例(1) 非行、いじめ	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。

5	中学校における事例(2) いじめ、不登校	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
6	高校における事例(1) 対人関係が不安定な生徒など	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
7	高校における事例(2) 摂食障害	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
8	高校における事例(3) かかわりを拒否する生徒	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
9	不登校をめぐって(1) 家庭訪問のしかた	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
10	不登校をめぐって(2) 別室登校・適応指導教室の利用	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
11	不登校をめぐって(3) ボランティア学生などの活用	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
12	教員と保護者及び校内における連携	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
13	外部機関との連携	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
14	学校の緊急支援・危機支援	発表とグループ・ディスカッション	配布資料の指定した部分を読む。発表者は資料を作成する。
15	まとめと小テスト		提示した課題をあらかじめまとめてくること
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				発表されたテーマについてグループ・ディスカッションする。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	生徒指導論（人間社会学部）		単位	2
科目名（英語）	Student Guidance		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	後期	
担当教員	農中 茂徳			
授業概要	校務分掌の一つとして位置づけられている生徒指導の意義や原理を理解し、組織的で持続的な取り組みの具体的な事例を認識する。また、自尊感情を高めるべき当事者としての自覚を醸成し、他者に相談することの大切さや関係機関と連携していくことの必要性和柔軟性が求められることについて学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	『生徒指導提要』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。拙稿『だけどだいじょうぶ』（石風社）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	随時、相談に応じる。小レポート等の内容を参考に助言、応答を行う。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	校務分掌や生徒指導の概略について説明できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	組織的で主体的な生徒指導というものの見通しが立てられるようになる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「組織的な生徒指導」「連携した取り組み」といった表現の具体像が描けるようになる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会規範、協働、個別の支援などといった生徒指導に関する用語を列記し説明できるようになる。			
成績評価の基準			
S：90～100		履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。	
A：80～89		履修目標を達成している。	
B：70～79		到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。	

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	30	30			10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○	○		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	生徒指導の意義と原理	オリエンテーション	参考図書、資料について
2	いじめ、「しない」と「なくす」の違い	「提要」について、ワークショップ	言語と関係性、小レポート
3	教育課程、校務分掌と生徒指導	「提要」と講義	組織的であること
4	過去の常識と出来事	16 ミリ映画の視聴、質疑	映画の解説、小レポート
5	「勤」の世界	「提要」と講義	社会的規範
6	「勤」の現在と未来	「提要」と講義	「勤」の具体的事例、小レポート
7	生徒指導・教育相談の体制、言動からの気づき	講義、ワークショップ	生徒の問題行動
8	基礎的な生活習慣の確立と規範意識の醸成、非行と少年院	「提要」と講義	連携と協働
9	集団指導・個別指導、生徒と保護者の地域所属	「提要」と講義、好きな本	地域所属、小レポート
10	学びの再構成	「提要」と講義、体験談	予断と偏見、ハラスメント
11	存在感を育む生徒指導 「市民」であることへの敬意	講義、命の歌	旧産地の問題
12	校則、懲戒、体罰 (停学と退学)、進路と生徒指導	「提要」と講義	ワークショップ
13	生徒指導の今日的な課題 過去との向き合い	「提要」と講義	けんか、ヘイトスピーチ
14	生徒指導と人生のナラティブ	講義、「私」を物語る	小レポート

15	生徒指導と土地の歴史	フィールドワーク	旧産炭地の様相
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育学概論B			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Research B			授業コード	
必修・選択	必修・選択	関連資格	高等学校教諭（公民）、中学校教諭（社会）、養護教諭		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項を修得する。教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的、経験的に考察する。教育学の課題は、学校教育にとどまらず多様な側面をもつ。本講義では、教育学の基礎的概念を修得し、受講者による事前の調査、討論を通じて、知識の実践的な活用を体験する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	ポウルヴィ『母と子のアタッチメント』医歯薬出版、1993、勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015、学習指導要領（2017年度改訂）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	教育学における基礎的概念を理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	教育にかかわる事象を教育的に分析できるようになる。
		(DP4)	自己の意見を明晰に表現し、他者と協議できるようになる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通じ自らの思考を論理的に伝達できるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項について正確に理解したうえで、自らの考えを論理的に伝達することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項にかかわる用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)			○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(教育の概念・本質・目標)	講義	シラバスの精読
2	教育政策の歴史と現代的な課題	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
3	教育の理念・思想(家庭教育と近代教育)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
4	「教育」の理念とは何か—これまでの体験から	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
5	教育の本質と目標(陶冶論、科学としての教育学)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
6	教育の本質と目標(家庭教育、人間形成の概念)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
7	教育の本質と目標(学校教育、現代の学校)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
8	近代の教育制度(義務制・無償制・中立性)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
9	現代日本の家庭教育と学校教育の歴史的展開	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
10	教育課題の歴史と現状	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
11	子どもと家庭教育(発達段階)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
12	子どもと家庭教育(経験主義と体験学習)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
13	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備

14	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
15	講義全体の振り返り	講義とグループワーク	指定資料の精読
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育社会学			単位	2
科目名（英語）	Educational Sociology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	3年	開講時期	前期集中		
担当教員	白坂正太				
授業概要	現代社会が抱える教育課題を捉えるために、学校教育の社会的・制度的事項を社会学的視点から検討していく。各学校段階の文化的背景を読み解きながら、学校をめぐる諸課題を構造的に明らかにしていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	グループワークやディスカッションを行うので、積極的に議論ができること。 ノートPCを持参すること。				
テキスト	初回に適宜紹介し、資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業	なし			授業中の 撮影	×
学習相談 ・助言体制	授業後もしくは、電子メールにて受け付けます。shouta.shirasaka@gmail.com まで また、授業後のレポートの中での質問も受け付けます。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)		
		(DP2)		
	思考・判断・表現	(DP3)	多角的に教育に関する事象を捉えることができる。	
		(DP4)	自身の考えの根拠を社会学的視点から説明できる。	
	関心・意欲・態度	(DP5)		
		(DP6)		
	技能	(DP7)		
		(DP8)		
		(DP9)		
		(DP10)	現代教育の構造的課題を社会学的視点から見いだすことができる。	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
学校教育の社会的・制度的事項において、社会学的視点を活用し、構造的な課題を見つけることができる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
学校教育の社会的・制度的事項において、社会学的視点を活用し、教育の課題を見つけることができる。				
成績評価の基準				
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。				
A：80～89 履修目標を達成している。				
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。				

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		30	50			20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○				
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義・WS (ワークショップ)	シラバスの熟読
2	社会の中で生きるとは—学校制度と社会化—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
3	家族と社会化—家庭教育の構造と役割—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
4	学校の成立背景と社会的意義—公教育の理念と法規を中心に—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
5	子どもの遊び環境の変容—遊び場の安全と学校・地域の連携—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
6	社会的存在としての子ども—幼保一元化の政策動向をふまえて—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
7	学級構造の課題—学級における教師の役割—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
8	学校のリスクマネジメント—学校の社会的な位置づけと責任—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
9	中等教育の二面性—制度的側面からみる統合と分化—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
10	高等教育の機能分化—職業教育の多様化に着目して—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習

11	学校教育とジェンダー—教育制度からみる社会的性差—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
12	教育行政と学校の機能—地域振興に着目して—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
13	情報化社会と教育—学校の危機管理—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
14	学修成果における質保証—諸外国の取り組み—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
15	【総論】教育の社会学的検討—学校の社会的役割の再考—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	教育制度論		単位	2
科目名（英語）	The Japanese Education System		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員				
授業概要	日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の教育関係法令に基づき、教育に関する制度的事項についての理解を図る。特に学校教育、教育行政、教員免許、社会教育等に関連した事項を取り上げて講義を行う。なお公立学校教諭の実務経験を活かし、具体的例を挙げつつ解説を行う。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	図解・表解 教育法規			
参考図書 ・教材等	授業で適宜紹介します。			
実務経験を 生かした授業				授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	レポートの作成方法、定期試験等について授業時間内に指導・助言を行うほか、授業終了後の質問・相談にも、メールにて応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	基本的な学校教育制度に関して理解できる。
		(DP2)	教育制度に関する基本的な概念（専門用語）を説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	教育制度に関する専門知識をもとにして、現代の教育の政策的な課題について検討できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
①教育関係の法令の趣旨及び重要事項について理解する。			
②体罰やいじめなど学校を取り巻く諸問題を法制度的視点から分析できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育の制度的事項に関する用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 教育の制度的事項に関する用語の意味を正確に理解した上で、学校教育を取り巻く諸問題について自らの考えを交えつつ法制度的視点から論じることができる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

教育の制度的事項に関する用語の意味を正確に理解した上で、学校教育を取り巻く諸問題について法制度的視点からまとめることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

教育の制度的事項に関する用語の意味をある程度理解した上で、学校教育を取り巻く諸問題について自らの考えをまとめることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

教育の制度的事項に関する用語の意味はある程度理解できている。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

教育の制度的事項に関する用語の意味が理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		40	30	20			10	100
知識・理解	(DP1)	○	○	○			○	
	(DP2)	○	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	オリエンテーション（本授業の目標・評価方法等の確認）	講義	シラバスを確認する
2	日本国憲法における教育理念と権利保障	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
3	教育基本法の理念と構造	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
4	公教育制度に関する法規定と学校教育法の基本的事項	質疑応答、講義、小テスト	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
5	教育委員会制度の理念と役割、地方自治体と公教育制度との関係性	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
6	校長・副校長・教頭、主幹教諭・指導教諭、教諭等の職務権限と機能	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
7	職員会議の機能と校務分掌、学校図書館の機能と司書教諭の職務	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと
8	習指導要領の法的意義、教科書検定と教科書の採択制	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと

	度		
9	学校評議員、学校運営協議会、 学校評価、学校施設の管理	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
10	教員の服務	質疑応答、講義、小テスト	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
11	教員の採用システムと初任者 研修制度、 現職研修の意義、教員免許更 新講習	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
12	教育職員免許法と開放制教員 養成制度	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
13	生涯学習の理念と社会教育、 人権同和教育の推進、 家庭・地域との連携	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
14	学校事故と教員の責任、 子どもの安全・施設の安全	質疑応答、講義	授業前後に、各自で関連箇所に関して 学習して臨むこと
15	学習のふりかえりとまとめ	質疑応答、講義	これまでの授業を復習すること
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	倫理学		単位	2
科目名（英語）	Ethics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	公共3年 福祉2年	開講時期	前期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではいられない。また、生命倫理の問題に対処することは、福祉社会において活躍する専門的職業人にとっては必要不可欠の能力である。内容としては、インフォームド・コンセント、パーソン論、安楽死と尊厳死などを中心に授業を展開する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	なし。			
参考図書 ・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を生かした授業	医療機関で研究倫理及び臨床倫理審査と医療職の研修を行っている教員が、現場での知見を踏まえて授業を行う。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生命倫理学の基礎を習得する。
	思考・判断・表現	(DP3)	具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を身につけることにより、実際に仕事や日常生活の中で生命倫理の問題に直面した際に、自分自身で判断し、対処できるようになる。
		(DP4)	根拠を明示して、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえて、考えるとともに、自分の考えをわかりやすく表現できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえて、考えることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)		○	○				
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス：多死社会へ向けて	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「倫理学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「倫理学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）
2	生命倫理の歴史	「倫理学講義資料」による講義	
3	生命倫理の4原則	「倫理学講義資料」による講義	
4	インフォームド・コンセントと患者の権利(1)定義と法理	「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第1回）	
5	インフォームド・コンセントと患者の権利(2)代諾者	「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
6	インフォームド・コンセントと患者の権利(3)小児、未成年	「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第2回）	
7	インフォームド・コンセントと患者の権利(4)日本独自の工夫	「倫理学講義資料」による講義	

8	パーソン論と生命の線引き(1) 人工妊娠中絶と出生前診断	「倫理学講義資料」による講義	
9	パーソン論と生命の線引き(2) トゥーリーの理論	「倫理学講義資料」による講義 小レポート (第3回)	
10	パーソン論と生命の線引き(3) エンゲルハートの理論	「倫理学講義資料」による講義	
11	安楽死と尊厳死(1)定義と事例研究	「倫理学講義資料」による講義 小レポート (第4回)	
12	安楽死と尊厳死(2)死の自己決定	「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究	
13	終末期医療の現状と将来(1) 緩和ケアとナラティブアプローチ	「倫理学講義資料」による講義	
14	終末期医療の現状と将来(2) セデーションの是非	「倫理学講義資料」による講義 小レポート (第5回)	
15	復習とまとめ	学期全体の学習内容を復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容				グループ・ディスカッションを随時行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地方自治論		単位	2
科目名（英語）	Local Autonomy		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中学校教諭一種免許状（社会），高等学校教諭一種免許状（公民）	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	美谷 薫			
授業概要	<p>地方自治の理念や歴史，しくみ，担い手など，地方自治に関わる基本的な概念や考え方について，身近な地域の事例なども取り上げながら解説していきます。ベーシックな講義形式ですが，講義中に課す小課題や作業レポートを通じて，受講生とともにあるべき地方自治や地域の姿について考えていきます。（なお，地方自治体における具体的な政策論については，別途開講の「地域計画論」のなかで取り上げます。）</p> <p>教職との関連では，中学校社会の公民的分野の「C 私たちと政治」における「民主政治と政治参加」，高等学校公民の現代社会の「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」における「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」，同政治・経済の「(1) 現代の政治」における「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」及び「(3) 現代社会の諸課題」における「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」を教授するのに必要な知識や技能を得るという位置づけになります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件は特にありません。また，予備知識も必要としませんが，講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。			
テキスト	以下の文献をテキストに指定します。テキストを購入している前提で講義を進めます。 柴田直子・松井 望編『地方自治論入門』，ミネルヴァ書房，2012年。			
参考図書 ・教材等	講義中に適宜紹介しますが，主なものとして以下の2点を挙げておきます。 阿部 齊ほか『地方自治の現代用語<第二次改訂版>』，学陽書房，2005年。 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』，北樹出版，2007年。			
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の経験のある教員が，現場での実態を踏まえながら，地方自治に係る制度や自治の担い手について解説します。		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は，講義後を中心に，随時受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	地方自治を取り巻くさまざまな動向に関心を持ち，情報を収集することができる。
		(DP4)	地方自治を取り巻く諸問題について自らの考えを説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解するとともに，地方自治を取り巻くさまざまな動向について情報を収集してその課題を把握し，対応策について自らの考えを説明することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには，さらなる学修を必要としている段階です。		
	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解し，地方自治を取り巻くさまざまな動向について関心を寄せることができる。		
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○			
	(DP4)	○	○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	イントロダクション：講義内容の説明	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
2	地方自治の意義と必要性	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
3	地方自治のしくみ（1）：日本の地方自治制度の歴史	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
4	地方自治のしくみ（2）：地方分権改革と地方自治制度の変容	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
5	地方自治のしくみ（3）：市区町村と都道府県	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
6	地方自治のしくみ（4）：大都市制度と広域行政	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
7	地方自治の担い手（1）：自治基本条例と自治の担い手	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習
8	地方自治の担い手（2）：市民・住民①（住民の機能・住民組織）	講義，作業（実習課題）	講義内容の復習

9	地方自治の担い手(3):議会	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成準備
10	地方自治の担い手(4):首長と執行機関	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 作業レポートの作成
11	地方自治の担い手(5):市民・住民②(参加, 選挙)	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
12	地方自治の担い手(6):NPMと「新しい公共」	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習
13	地方自治体の経営(1):地方財政と予算	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の準備
14	地方自治体の経営(2):地方公務員制度	講義, 作業(実習課題)	講義内容の復習, 期末レポート(レポートの場合)の作成
15	地方自治体の経営(3):組織と機構管理	講義, 作業(実習課題)	
備考	毎回, テキストの説明と板書により講義を進めます。また, 各回の講義の終盤では, 取り上げたテーマについての自治体間での比較などの作業や, 簡単なグループワークを取り入れていく予定です。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容				作業(実習課題)について, 少人数のグループで作業を分担して結果を比較したり, ディスカッションを行うことがあります。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	現代社会論 A（ジェンダー・世代）		単位	2
科目名（英語）	Modern Social Theories A（Gender and Generational Studies）		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	前期	
担当教員	中村晋介			
授業概要	1)伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程の分析、2)世代間による文化や規範意識のギャップについての分析など、社会学におけるジェンダー論、世代論に関係する分野から具体的なトピックを適宜取り上げて紹介する。これを通して「社会的なもの見方や考え方」を習得させ、3年次以降の専門教育に向けての土台作りをする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために、他の社会学系科目をいくつか履修していることが望ましい。			
テキスト	特に使用しない（講義担当者が作成したプリントで講義していきます）			
参考図書・教材等	講義中に適宜指示する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカード、オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	ジェンダー・バイアスや世代間ギャップが再生産されていく過程についての知識を修得する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 履修目標で示したことに加え、講義時間の都合上、講義内では簡単に触れることしかできなかった事柄について、自ら積極的に学習し、その内容を理解している。 A：80～89 履修目標を達成している。		

履修目標で示したことを十分に理解し、自分自身の知識として習得している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
履修目標で示したことをある程度まで理解し、自分自身の知識として習得している。
C：60～69 到達目標を達成している。
到達目標で示したことについては理解し、自分自身の知識として習得している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
到達目標で示したことについての理解不足や、自分自身の知識として習得しているとは言えない状況である。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20	80				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクションー本講義の位置づけ	それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。	事前学習：高等学校の「世界史」教科書で、19世紀以降のヨーロッパ史を復習。 事後学習：講義範囲の復習
2	「男女共同参画社会」の虚実①ー日本における男女格差		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
3	「男女共同参画社会」の虚実②ー「ジェンダー」とは何か	適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
4	「男女共同参画社会」の虚実③ー男女格差と「装置」「プラクティス」		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
5	「男女共同参画社会」の虚実④ー「装置」との戦い	理解が困難な場合は、積極的に質問に来ること。質問に来た学生に対しては、個別指導を十分に行う。	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
6	「男女共同参画社会」の虚実⑤ーバックラッシュ現象		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
7	「男女共同参画社会」の虚実⑥ーバックラッシュを乗り越える		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
8	世代をめぐる物語①ー戦後日本に存在してきた「世代」		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
9	世代をめぐる物語②ー「焼け跡世代」「団塊の世代」		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
10	世代をめぐる物語③ー「学生運動」の季節		事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習

11	世代をめぐる物語④－「新人類世代／団塊ジュニア世代」	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
12	世代をめぐる物語⑤－「新・新人類」	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
13	世代をめぐる物語⑥－ゼロ年代以降の若者たち	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
14	世代をめぐる物語⑦－「反＝若者論」	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
15	世代をめぐる物語⑧－「反＝若者論」との対峙	事前学習：前回の講義内容の復習 事後学習：今回の講義内容の復習
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	現代社会論B（情報社会論）			単位	2
科目名（英語）	Modern Social Theories B（Information Society）			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種、上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	阪井 俊文				
授業概要	メディアが発達し高度に情報化されているということは、現代社会の大きな特徴の一つである。本講義では、「流動化」「個人化」「再帰化」「グローバル化」「消費社会化」といった社会構造・社会変動に関する様々な論点と関連づけながら、情報化がもたらす功罪について考えていく。前半は、情報化に関連する主要な理論の解説を行い、後半では「恋愛」「観光」「音楽」など、身近なトピックが情報化とどのように関連しているのかを考えたい。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	辻・南田・土橋（編）『メディア社会論』有斐閣，2018，1800円				
参考図書・教材等	講義の中で紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また講義の前後に、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	情報革命を中心とする情報社会論とともに社会変動論としての情報社会論の特徴を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	情報社会論の理論や分析方法を用いて、日常生活のコンビニや言語等の事象を論じることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について主体的に分析・考察できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 情報化に関する主要な理論を理解し、それに基づいて現代的な社会事象を説明できる。		
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について主体的に分析し、新しい見方を提唱できる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

情報化に関する様々な理論を理解し、それを踏まえながら具体的な社会事象について考察できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
情報化に関する社会学理論を理解し、具体的な社会事象と関連づけて説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
情報化に関連する社会学理論や専門用語について説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
情報化について、社会的な理解ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		20	80				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義	テキスト第1章を読む
2	メディアの発達と「流動化」	講義	テキスト第1章を読む
3	インターネットと「個人化」	講義	テキスト第1章を読む
4	再帰的近代化論とメディア	講義	テキスト第1章を読む
5	マクルーハンのメディア論	講義	テキスト第2章を読む
6	マスメディアと近代化	講義	テキスト第2章を読む
7	メディアの変遷と「広告」	講義	テキスト第2、7章を読む
8	メディアの変遷と「権力」	講義	テキスト第4章を読む
9	メディア社会における「健康」	講義	テキスト第7章を読む
10	SNSとアイデンティティ	講義	テキスト第5章を読む
11	メディアと人間関係	講義	テキスト第9章を読む
12	芸術と「コンテンツ」	講義	テキスト第6、10章を読む

13	観光と「疑似イベント」	講義	テキスト第3章を読む
14	ユビキタスとビッグデータ	講義	テキスト第8章を読む
15	まとめとレポート課題の説明	講義	テキスト第11章を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	福祉社会学		単位	2
科目名（英語）	Welfare Sociology		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	本講義では、高齢者をめぐる状況、生きがいや生きづらさ、ボランティアと福祉社会などについて学ぶ。福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について考察する力を養うことを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	①福祉社会学会編，2013，『福祉社会学ハンドブック』中央法規出版。②直井道子・中野いく子・和気純子編，2014，『補訂版 高齢者福祉の世界』有斐閣。			
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義としてボランティア的行為に関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回は変更することがある。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	福祉社会学における基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代社会における福祉領域をめぐる状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について、批判的な視点から考察し、意見を言うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について理解している。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合				70			30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○			○	
思考・判断・表現	(DP3)			○			○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	授業概要説明	講義、議論	福祉、福祉社会学に関する配布資料を読む
2	福祉、福祉社会学	講義、議論	福祉、福祉社会学に関する配布資料を読む
3	生きづらさ	講義、議論	生きづらさに関する配布資料を読む
4	生きがい	講義、議論	生きがいに関する配布資料を読む
5	高齢化の状況	講義、議論	高齢化に関する配布資料を読む
6	高齢者と社会関係	講義、議論	高齢者、社会関係に関する配布資料を読む
7	高齢者とケア	講義、議論	高齢者、ケアに関する配布資料を読む
8	福祉コミュニティの形成	講義、議論	福祉コミュニティに関する配布資料を読む
9	ボランティアの研究	講義、議論	ボランティアの研究に関する配布資料を読む
10	献血の現状 (ゲスト講師による講義)	講義、議論	献血の現状に関する配布資料を読む
11	献血の研究	講義、議論	献血の研究に関する配布資料を読む
12	献血の研究	講義、議論	献血の研究に関する配布資料を読む

13	災害と困難、支援	講義、議論	災害、困難、支援に関する配布資料を読む
14	福祉社会と想像力	講義、議論	福祉社会、想像力に関する配布資料を読む
15	まとめ	講義、議論	これまでの配付資料を読み返す
備考	授業内では全体を通して、現代社会における福祉領域をめぐる状況について、個別に意見を言う時間や、グループ・ディスカッションの時間を設ける。授業では、福祉社会学の知識の講義だけではなく、それらの知識を通して、批判的な視点から考察し、意見を言うことを求める。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				授業内では、現代社会における福祉領域をめぐる状況についてグループ・ディスカッションを設ける予定である（受講人数にもよるが、数回予定）。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会学 A		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Studies A		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く理解する必要がある。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	テキスト持参を前提に講義を行う。			
テキスト	山本努編，2019，『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社。			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義として地域社会とコミュニティに関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回は変更することがある。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	農村社会学、都市社会学における基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域社会を取り巻く状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	地域社会における課題やその対策について意見を言うことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について批判的な視点から考察し、その対策について意見を言うことができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得している。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		70					30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○					○	
思考・判断・表現	(DP3)	○					○	
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	○					○	
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業概要説明	講義	テキストはじめに、第1章を読む
2	地域とは	講義 テキストはじめに、1章	テキストはじめに、第1章を読む
3	都市と農村、地方	講義 テキストはじめに、1章	テキストはじめに、第1章を読む
4	農村社会の構造：家と村	講義 テキスト4章	テキスト第4章を読む
5	都市化・産業化と地域社会	講義 テキスト2章	テキスト第2章を読む
6	過疎問題と限界集落	講義 テキスト2章	テキスト第2章を読む
7	現代農村の現状分析(1)：人口還流（Uターン）	講義 テキスト3章	テキスト第3章を読む
8	現代農村の現状分析(2)：農村家族、子育て	講義 テキスト4章	テキスト第4章を読む
9	高齢化と地域社会(1)：生きがいと地域差	講義 テキスト5章	テキスト第5章を読む
10	高齢化と地域社会(2)：期待される地域社会	講義 テキスト6章	テキスト第6章を読む
11	高齢化と地域社会(3)：近隣関係と地域組織（ゲスト講師）	講義 テキスト6章	テキスト第6章を読む
12	住民主体の地域福祉活動の事例	講義 テキスト6章	テキスト第6章を読む

13	地域社会調査	講義 テキスト 8 章	テキスト第 8 章を読む
14	地域活動の担い手	講義 補足資料	補足資料を読む
15	まとめ	講義	テキスト全体を読み返す
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	地域社会学 B		単位	2
科目名（英語）	Regional and Community Studies B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	吉武 由彩			
授業概要	本講義では、現代農村を取り巻く状況および農村における人々の生活実態や意識について学ぶ。農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について、批判的に考察する力を養うことを目的とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	地域社会学 A を履修していることが望ましい。			
テキスト	なし			
参考図書 ・教材等	①徳野貞雄, 2014, 『T型集落点検とライフヒストリーでみえる 家族・集落・女性の底力: 限界集落論を超えて』農山漁村文化協会. ②山本努, 2017, 『人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学-増補版』学文社.			
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義としてまちづくりに関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回は変更することがある。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	農村社会学における基礎的知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代農村をめぐる状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	地域社会における課題やその対策について意見を言うことができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について、批判的な視点から考察し、その対策について意見を言うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について理解している。			
成績評価の基準			
S : 90~100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)		○			○	
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	授業概要説明	講義、議論	人口変動に関して考えてくる
2	人口変動	講義、議論	人口変動に関する配布資料を読む
3	過疎地域における人口動態	講義、議論	過疎地域、人口動態に関する配布資料を読む
4	農村における生活	講義、議論	農村、生活に関する配布資料を読む
5	限界集落と地方消滅	講義、議論	限界集落、地方消滅に関する配布資料を読む
6	農村における地域意識と社会参加活動	講義、議論	地域意識、社会参加活動に関する配布資料を読む
7	農村における他出子の存在	講義、議論	他出子に関する配布資料を読む
8	農村高齢者の生活を支える要件	講義、議論	農村、高齢者に関する配布資料を読む
9	市町村合併と地方分権	講義、議論	市町村合併、地方合併に関する配布資料を読む
10	農村における交通	講義、議論	農村、交通に関する配布資料を読む
11	農村における子育て	講義、議論	農村、子育てに関する配布資料を読む

12	現代農村の現状分析(ゲスト講師による講義)	講義、議論	農村、現状分析に関する配布資料を読む
13	過疎地域と人口還流	講義、議論	過疎地域、人口還流に関する配布資料を読む
14	地域再生	講義、議論	地域再生に関する配布資料を読む
15	まとめ	講義、議論	これまでの配布資料を読み返す
備考	授業内では全体を通して、現代農村を取り巻く状況とそれへの対策について、個別に意見を言う時間や、グループ・ディスカッションの時間を設ける。授業では、農村社会学の知識の講義だけではなく、それらの知識を通して、批判的な視点から考察し、その対策について意見を言うことを求める。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容				授業内では、現代農村を取り巻く状況とそれへの対策についてグループ・ディスカッションを設ける予定である(受講人数にもよるが、数回予定)。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	コミュニティ論		単位	2
科目名（英語）	Community Theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	現代社会における基礎的な社会単位であるコミュニティについて理解することは、地域づくりや生活者として役割を果たすうえできわめて重要である。本科目では、「コミュニティ」（より幅広く共同性や協働、公共性、連帯といった概念を含めて）の理論や歴史、政策を学んでいく。具体的には以下3つのテーマを扱う。第一に、コミュニティという概念に関する社会学や政治哲学の理論を学ぶ。第二に、犯罪や教育といった具体的な社会事象と関連づけながらコミュニティについての理解を深めていく。第三に「ケア」に焦点をあててコミュニティ政策の実践とその課題について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	毎回プリントを配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：野沢慎司監修『リーディングス ネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房、2006年／地域社会学会編『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社、2011年／斎藤純一『不平等を考える—政治理論入門』ちくま新書、2017年			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	一市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	多様な地域性をもつコミュニティには、さまざまな課題があることが分かる。
		(DP4)	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	地域の諸問題について、行政や住民の果たす役割が多面的に存在することが分かる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「コミュニティ」の理論や歴史、政策について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	20	10					30
思考・判断・表現	(DP3)	20	10					30
	(DP4)	20	10					30
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)	10						10
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
2	コミュニティとは何か：その概念と歴史		
3	共同体と個人：社会学理論を学ぶ		
4	ソーシャル・キャピタル		
5	ナショナリズムとコミュニティ		
6	犯罪とコミュニティ		
7	メディアとコミュニティ		
8	教育とコミュニティ		
9	ジェンダーとコミュニティ		

10	ケアとコミュニティ (1) 子育て支援	
11	ケアとコミュニティ (2) 貧困問題	
12	ケアとコミュニティ (3) 福祉国家	
13	日本の共同体 (1) 村落共同体・家制度	
14	日本の共同体 (2) 企業社会・個人化社会	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	NPO 論		単位	2	
科目名（英語）	NPO (Non-Profit Organization) Studies		授業コード		
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	佐野 麻由子				
授業概要	営利組織（企業）、政府組織との比較を通して非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行うNPOの歴史的展開や活動の特徴を学び、三者の協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	NPO、市民社会の動向に関心があること。				
テキスト	レジュメを配布します。				
参考図書・教材等	Mayuko SANO, 2012 ,Problem of Resource Mobilization : NGOs in Nepal 科学研究費補助金スタート支援報告書（研究代表者：佐野麻由子）				
実務経験を生かした授業	NPO関係者を特別講師として招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。
		(DP4)	NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	日本だけでなく、世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>(1) 市民組織（NPO）、市民社会についての幅広い知識を身につけ、NPOの組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について理論に依拠して説明できること、(2) NPOの資源動員、官民市民の連携における課題解決策を提示できること、(3) 世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できること、(4) NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できること、を目標とする。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
国際協力に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60				40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○			○	
思考・判断・表現	(DP3)		○			○	
	(DP4)		○			○	
関心・意欲・態度	(DP5)		○			○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○			○	
備考	参加度・リアクションペーパーの提出（40%）と最終レポート（60%）で評価する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	ガイダンス：NPO論で学ぶこと	講義	
2	NPOとは？NPOの定義	質疑応答、講義	・レジュメの復習
3	NPOの歴史的展開：世界で一番古いNPO	質疑応答、講義	・世界で一番古いNPOについて考えてくる
4	NPOと公共性、市民との関係は？：対抗的相補性	質疑応答、講義	・レジュメの復習
5	NPO/NGOの現状を知る（世界編）：NPOが多い地域と少ない地域の違いは？ 映像資料の視聴	質疑応答、講義・事例検討	・レジュメの復習
6	NPO/NGOの国際比較からみえるもの：NPO/NGOの組織形態を決める要因	質疑応答、講義・事例検討	・レジュメの復習

7	事例：巨大 NPO バングラデシュの BRAC	質疑応答、講義・事例検討	・レジユメの復習
8	NPO/NGO の現状を知る（日本編）：NPO が多い地域と少ない地域の違いは？	質疑応答、講義	・レジユメの復習
9	地域間比較からみえるもの：日本の NPO 活動（役割）、経営状況、人材	質疑応答、講義	・自分の地域の人口あたり NPO の数、活動分野についての資料収集 ・レジユメの復習
10	新しい NPO のかたち：社会的事業	質疑応答、講義	・レポートのテーマの検討
11	新しい NPO のかたち：社会的企業	質疑応答、講義・事例検討	・レジユメの復習
12	新しい NPO のかたち：CSR、BOP ビジネス	質疑応答、講義	・レジユメの復習
13	新しい NPO のかたち：今日の官、民、市民の協働	質疑応答、講義、議論	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・レジユメの復習
14	ゲスト講師による講話：討論・報告のまとめ方・発信	質疑応答、講義、議論	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・聞き取りのまとめ
15	まとめ：プレゼンテーション	質疑応答、議論、議論	・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジユメの振り返り。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	発達心理学Ⅱ			単位	2
科目名（英語）	Developmental Psychology Ⅱ			授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	公認心理師・保育士・幼稚園教諭一種		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	池 志保				
授業概要	人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達を通して人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。講義では、親子関係、きょうだい関係、夫婦関係などに関する発達心理学の知見を取り上げ、思春期から老年期に関する発達心理学上の問題と心理的援助についても概説していく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	前期から続く科目です。前期科目『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。				
テキスト	『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店。				
参考図書・教材等	『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房。				
実務経験を生かした授業	発達臨床で実務経験のある教員が担当しています。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。
		(DP4)	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が大変よく理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことが大変よくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することが大変よくできている。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略がよく理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがよくできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがよくできている。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略がおおむね理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがおおむねできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがおおむねできている。	
C：60～69	到達目標を達成している。
思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略がやや理解できる。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことがややできている。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することがややできている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについての概略が理解できていない。理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができていない。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎	◎	◎			
思考・判断・表現	(DP3)	◎	◎	◎			
	(DP4)	◎	◎	◎			
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○			
	(DP6)		○	○			
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	生涯発達心理学（心身の発達、認知機能、発達障がい）	講義（配付資料）	<p>事前学習 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>
2	人格の発達	講義（配付資料）	
3	視聴学習－カイン・コンプレックス①	講義とDVD視聴	
4	視聴学習－カイン・コンプレックス②	講義とDVD視聴	
5	青年期の発達理論－ピーター・ブロス他	講義（配付資料）	
6	青年期の親子関係	講義（配付資料）	
7	「学校から就職へ」	講義（テキスト）	
8	「恋愛関係の発達」	講義（テキスト）	
9	「結婚生活とその推移」	講義（テキスト）	
10	「親になること・親であること」①	講義（テキスト）	
11	「親になること・親であること」②	講義（テキスト）	

12	中年期の発達心理①（知的能力・記憶・創造性）	講義（テキスト）
13	中年期の発達心理②（人格・社会性）	講義（テキスト）
14	高齢者に関する発達理論（認知機能・感情・人格・社会性）	講義（テキスト）
15	「発達心理学は何をするのか」及び発達に関する心理的援助	講義（配付資料）
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ミニッツコメントによる双方向授業）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年心理学	単位	2
科目名（英語）	Psychology of Aging	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	認定心理士
標準履修年次	3	開講時期	前期
担当教員	麦島 剛		
授業概要	<p>社会の急速な高齢化に伴い、高齢者に関する科学的な理解の重要性がますます高まりつつある。老年期の心理学的側面について科学的に理解する分野が老年心理学である。近年、老年心理学的研究が進むにつれ、従来の素朴な老人観の不確かさが次々と明らかにされてきた。この授業では、感覚知覚、記憶、知能、人格などが加齢に伴ってどのように変化するのか（しないのか）を中心に、生涯発達心理学の視点より解説する。また、実りある老年期を過ごすための心理学的研究についても紹介する。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト	テキストはとくに定めない。		
参考図書・教材等	参考のできる文献を授業の中で適宜紹介し、プリントを適宜配付する。		
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	高齢期に関する心理学的諸現象と諸理論を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	高齢期に関する心理学を支える論理的統一性と多角的観点を理解する。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期の心理学的側面について科学的に理解する。その上で生命と人間と社会に関する諸原理と諸現象の理解に延伸させる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
老年期の心理学的側面について科学的に理解する。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
履修目標で想定される到達点の9割以上の成果が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の 8 割以上 9 割未満の成果が認められる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 履修目標で想定される到達点の 7 割以上 8 割未満の成果が認められる。
C : 60~69	到達目標を達成している。 履修目標で想定される到達点の 6 割以上 7 割未満の成果が認められる。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。 履修目標で想定される到達点の 6 割未満の成果が認められる。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10					
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	○	○				
思考・判断・表現	(DP 3)	○	○				
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)						
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						
	(DP 9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	老年心理学とは	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された</p>	<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>
2	老年心理学の研究法(1)		
3	老年心理学の研究法(2)		
4	記憶と加齢(1) 記憶のメカニズム		
5	記憶と加齢(2) 実験室場面での研究		
6	記憶と加齢(3) 日常的場面での研究		
7	知能と加齢(1) 知能の基本的知識		
8	知能と加齢(2) 年をとると頭が鈍るのか?		
9	人格と加齢(1) 人格の基本的知識		
10	人格と加齢(2) 年をとると人柄が変わるのか?		
11	老年期の環境適応		
12	主観的幸福感・死にゆく過程の研究		

13	老年期のこころの不調 認知症	公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。
14	老年期のこころの不調 その他	
15	まとめ	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年期医学		単位	2
科目名（英語）	Geriatrics		授業コード	361
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	小嶋秀幹			
授業概要	保健医療福祉分野で高齢者を支援する際に必要な老年期医学の基礎知識と、老年期に起こりやすい精神疾患・身体疾患について講義する。最近の老年期医学のトピックスについても随時紹介する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。			
テキスト	特に指定しない。			
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・道場信孝著、日野原重明監修 「臨床老年医学入門 第2版」 （医学書院、2013年、3,200円） ・ e-learning で各回の資料を配布する。 			
実務経験を生かした授業	医師の教員が老年期医学の基本的知識を講義する。			授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解し、内容を正しく説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解し、内容を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、内容を的確に説明できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、内容を概ね説明できる。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、基本的な内容は説明できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解した上で、最低限の内容は説明できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
老年期医学の基礎知識と老年期に起こりやすい疾患について理解できておらず、内容の説明ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○		○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	老年期医学とは	講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
2	高齢者の健康問題のとりえ方	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
3	高齢者の健康評価	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
4	健康評価の実際	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
5	高齢者の脆弱化	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
6	老年期に起こりやすい疾患①（認知症）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
7	老年期に起こりやすい疾患②（うつ病）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
8	老年期に起こりやすい疾患③（睡眠障害）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
9	老年期に起こりやすい疾患④（骨粗鬆症、転倒）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
10	老年期に起こりやすい疾患⑤（尿失禁・白内障・難聴）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
11	老年期に起こりやすい疾患⑥（呼吸器疾患）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む

12	老年期に起こりやすい疾患 ⑦（循環器疾患）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
13	老年期に起こりやすい疾患 ⑧（低栄養状態）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
14	老年期に起こりやすい疾患 ⑨（悪性腫瘍）	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
15	長寿の秘訣	質疑応答、講義	事前配布資料、講義テーマに関連する図書等を読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会病理学		単位	2
科目名（英語）	Theories in Deviant Behavior and Social Problems		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	堤圭史郎			
授業概要	本講義では、逸脱・犯罪・社会問題等を読み解く上で有用な、社会学的なものを見方を学ぶ。逸脱・犯罪・社会問題をどのように読み解くかは、「私たち」の立場やものの考え方に大きく影響されるものである。社会病理学の研究蓄積は、この問題を克服しようとしてきた歴史とも言える。社会学（もしくは「私たち」）が社会的諸事象をどのように捉えてきたか、そして「私たち」がこれから社会問題・逸脱・犯罪を語るならば、それへのいかなる接近が「可能」なのかを理解することを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	社会学 A・社会学 B を履修していることが望ましい。			
テキスト	資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。			
参考図書・教材等	①仲村祥一編『社会病理学を学ぶ人のために』世界思想社、1986年。②ハワード・S・ベッカー『完訳 アウトサイダーズ』現代人文社、2011年。③岡邊健編『犯罪・非行の社会学 — 常識をとらえなおす視座』有斐閣、2014年。④松本康編『都市社会学・入門』有斐閣、2014年。他、講義中に指示する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じます。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してください。また、受講生の状況に応じて、講義内容の変更を検討します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会病理学に関する基礎的な知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	犯罪・非行や社会問題を批判的な視点から理解し、説明することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会病理学に関する基礎的な知識を理解するとともに、犯罪・非行や社会問題を現代の社会的諸条件のもと批判的な視点から分析し、論理的かつ明快な文章表現により説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
犯罪・非行や社会問題について、社会病理学に関する基礎的な知識をもとに説明することができる。			
成績評価の基準			

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)		○	○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	ガイダンス — 「社会病理」という用語について	講義	以下の用語を調べる。社会病理・近代化、社会有機体説
2	社会病理学の誕生／社会病理学への批判的視座	質疑応答、講義	近代化、社会有機体説、レッセ＝フェール・同心円地帯仮説
3	社会解体論（1）シカゴ学派の社会調査、同心円地帯仮説	質疑応答、講義	同心円地帯仮説・社会解体、同化
4	社会解体論（2）犯罪・非行の地域的顕在	質疑応答、講義	社会解体、同化・逸脱
5	逸脱行動論序説 — ものの見方としての「逸脱」	質疑応答、講義	逸脱・社会化、分化的接触仮説
6	逸脱は学習される — マリファナ使用者	質疑応答、講義	分化的接触仮説・ホワイトカラー犯罪
7	企業活動と逸脱	質疑応答、講義	ホワイトカラー犯罪・アノミー論
8	逸脱と社会構造 — 拝金主義	質疑応答、講義	アノミー論・ボンド理論、いじめの四層構造
9	つながりの欠如が逸脱をもたらす — 非行、いじめ	質疑応答、講義、レポート課題の提示	ボンド理論、いじめの四層構造・ラベリング論、スティグマ論

10	「レッテル貼り」が逸脱をもたらす 一冤罪	質疑応答、講義	ラベリング論、スティグマ論・社会問題の構築
11	社会問題はつくられる	質疑応答、講義	社会問題の構築・「ニート」って言うな！
12	社会問題への社会学的検討	質疑応答、講義	「ニート」って言うな！・刑法犯
13	刑法犯の動向	質疑応答、講義	刑法犯・犯罪統計、暗数
14	まとめと課題	課題	課題で論理的な文章が書けるよう予め準備をしておく。
15	課題解説と総括	質疑応答、課題解説、講義	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会心理学（社会・集団・家族心理学）			単位	2
科目名（英語）	Social Psychology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士 高等学校教諭一種免許状		
標準履修年次	1	開講時期	後期		
担当教員	上野 行良				
授業概要	社会心理学とは、自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学である。この講義では社会心理学の主要なテーマを紹介する。本講義は、テキストを読むことを中心とした授業を行う。社会心理学のテキストを共に読み、内容をまとめ、わからないところを質問する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」「対人心理学」を履修済みであることが望ましい。また「人格心理学」を同時に履修することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	他者及び自己に対する意識と対人行動についての知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	対人意識や対人行動の問題について主体的に考えることができる
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学的知識を積極的に学習する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の課題を通して自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学的知識を知る。。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ステレオタイプ1	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
2	ステレオタイプ2	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
3	ステレオタイプ3	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
4	ステレオタイプ4	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
5	ステレオタイプ5	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
6	基本的な帰属の誤り	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
7	中心ルート・周辺ルート	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
8	復習課題	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
9	社会的促進と抑制	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
10	傍観者効果	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
11	少数派の影響	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
12	制度規範	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
13	集団極性化現象	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
14	集団思考	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
15	復習課題	アクティブラーニング欄参照	e-learningの資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				毎回異なるメンバーとグループを作る。 ①前回までの内容に関するチェックテストと採点（事前・事後学習としてテストの準備をすること） ②グループでテキストの輪読をしたあと、各自でテキストをまとめる ④内容の概説 ⑤前回の質問に対する回答 ⑥各自でまとめたものを、グループで見せ合い評価する ⑦与えられたテーマでコメントを書く ⑧グループでコメントを共有する ⑨授業内容についてのコメントと質問を書く 毎回、前回までのテキストを持って来ること。 復習課題のときは、事前に課題を説明するので、準備をして来ること。また、ダウンロードした提示資料を持参すること。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ処理とデータ解析 I		単位	1
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis I		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士・社会調査士、中一種、高一種	
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用を、コンピュータで統計処理を行う演習を通して学習する。具体的には、基本統計量や度数分布などの記述統計、母平均・母比率・母分散に関する区間推定、検定などの推測統計のデータ処理と分析の方法を学習する。つぎに変数間の関係の分析方法や回帰分析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	独自演習用テキストを配付する。			
参考図書・教材等	①白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」第2版、日本評論社、2015年、②大谷信介他「社会調査へのアプローチ」第2版、ミネルヴァ書房、2005年、③青木繁伸「Rによる統計解析」オーム社、2009年			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	量的・質的データの集計結果や基礎的な統計解析法により解析された結果を適切に解釈できる。 データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。
		(DP4)	基礎的な集計や統計解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。 (社会福祉学科はDP4該当なし)
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	データの単純集計、度数分布の作成ができる。 量的データの基本統計量を算出できる。 量的データの母平均・母比率・母分散の区間推定・検定、2群の検定ができる。 質的変数間のクロス集計の作成、量的変数間の相関係数の算出ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
------	--

量的・質的データの集計や基礎的な統計解析の方法を理解しており、データに応じて集計や基礎的な統計解析の方法を適切に選択できる。

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		10	40			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	◎			○	
	(DP4)	○	◎			○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			◎		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	記述統計と推測統計について概説	演習・確認テスト	データの尺度の復習
2	記述統計－単純集計表、度数分布表	演習・確認テスト	度数分布の階級数・階級幅の復習
3	記述統計－分布の代表値、散布度	演習・確認テスト	平均値、最頻値、中央値、分散、標準偏差などの復習
4	記述統計から推測統計へ－標準得点と偏差値、正規分布	演習・確認テスト	データの標準化、正規分布などの復習

5	推測統計－母平均、母比率、母分散の点推定・区間推定	演習・確認テスト・レポート課題提示	標準誤差の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
6	推測統計－母平均、母比率、母分散の検定	演習・確認テスト	帰無仮説、有意確率などの意味、Z検定、t検定、カイ二乗検定の復習
7	推測統計－対応のない2群の検定	演習・確認テスト	対応のない2群の検定の復習
8	推測統計－対応のある2群の検定	演習・確認テスト	対応のある2群の検定の復習
9	質的変数における2変数間の関係－クロス集計、カイ二乗検定	演習・確認テスト	カイ二乗検定・クラメルの連関係数などの復習
10	量的変数における2変数間の関係－相関分析（相関係数、偏相関係数）	演習・確認テスト・レポート課題提示	相関係数・偏相関係数などの復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
11	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク・確認テスト	作成した質問紙の集計・分析方法の確認
12	調査データの解析②－質問項目の作成・ミニ調査実施	グループワーク・確認テスト	入力データのチェック
13	調査データの解析③－調査データの集計（単純集計・クロス集計）	グループワーク・確認テスト	調査データの分析結果のチェック
14	調査データの解析④－調査データの分析（仮説の検定・変数間の関係）	グループワーク・確認テスト	調査データの分析結果のチェック
15	調査データの解析⑤－調査報告書作成（結果及び考察・対策を含む）	グループワーク・確認テスト	調査データの報告書のチェック
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習														○	○	○	○	○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク														○	○	○	○	○	
その他（演習）				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容				毎回の授業でデータ処理の演習を行う。第11回からはグループワークを行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	データ処理とデータ解析II		単位	1
科目名（英語）	Data Processing and Data Analysis II		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士・社会調査士	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用について、コンピュータでの統計処理演習を通して学習する。「データ処理とデータ解析I」で学習した記述統計、推測統計、2変数間の相関分析、分散分析を基礎として、量的データ及び質的データの多変量解析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「データ処理とデータ解析I」を履修していること。			
テキスト	独自演習用テキストを配付する。			
参考図書・教材等	①駒沢勉・橋口捷久、石崎龍二著、赤池弘次監修、『新版 パソコン数量化分析』、朝倉書店、1998年（6,264円）、②石村貞夫著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年（2,160円）、③菅民郎著、『多変量解析の実践 下』、現代数学社、1993年（2,916円）			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	量的・質的データの多変量解析の方法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	量的・質的データの多変量解析により解析された結果を適切に解釈できる。
		(DP4)	データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。 多変量解析を行った結果を的確にまとめ、報告できる。(社会福祉学科はDP4該当なし)
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	重回帰分析・ロジスティック回帰分析・判別分析・主成分分析・因子分析ができる。 数量化理論第I類・II類・III類の分析ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析を適切に行い、結果を的確にまとめ、報告できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	量的・質的データの多変量解析の方法を理解しており、データに応じて多変量解析の方法を適切に選択できる。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		10	40			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	◎		○	
思考・判断・表現	(DP3)		○	◎		○	
	(DP4)		○	◎		○	
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			◎		○	
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	多変量解析－重回帰分析	演習・確認テスト	重回帰式、偏回帰係数、決定係数の復習
2	多変量解析－ロジスティック回帰分析	演習・確認テスト	オッズ、オッズ比の復習
3	多変量解析－判別分析	演習・確認テスト	相関比、判別関数の復習
4	多変量解析－主成分分析	演習・確認テスト	固有値、主成分負荷量、主成分得点の復習
5	多変量解析－因子分析	演習・確認テスト・レポート 課題提示	因子数の決定基準、因子寄与、因子寄与率、因子名の決定方法の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
6	多変量解析－数量化理論第 I 類（予測、要因分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数量の復習
7	多変量解析－数量化理論第 I 類による解析②	演習・確認テスト	レンジ、偏相関係数、重相関係数の復習

8	多変量解析－数量化理論第Ⅱ類（判別、予測、要因分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト	説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリ数量の復習
9	多変量解析－数量化理論第Ⅱ類による解析②	演習・確認テスト	レンジ、偏相関係数、相関比、判別区分点、判別的中率の復習
10	多変量解析－数量化理論第Ⅲ類（分類、要因、データ構造分析のための数量化）の解析①	演習・確認テスト・レポート課題提示	アイテム・カテゴリ数量及び散布図、サンプル数量の散布図の復習、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
11	多変量解析－数量化理論第Ⅲ類による解析②（自由記述データの解析）	演習・確認テスト	自由記述データの加工手順を復習
12	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク・確認テスト	作成した質問紙の集計・分析方法の確認
13	調査データの解析②－ミニ調査実施	グループワーク・確認テスト	入力データ、データの集計結果のチェック
14	調査データの解析④－調査データの集計・解析	グループワーク・確認テスト	調査データの解析結果のチェック
15	調査データの解析⑤－調査データの報告書作成	グループワーク・確認テスト	調査データの報告書のチェック
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習														○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク														○	○	○	○
その他（演習）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容			毎回の授業でデータ処理演習を行う。第12回からはグループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族社会学 A		単位	2
科目名（英語）	Family Sociology A		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格		
標準履修年次	2	開講時期	前期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	本科目では、家族や結婚をめぐるさまざまな具体的な事象について家族社会学の視点から学んでいく。家族社会学の理論や概念を知ること、家族や結婚の歴史的変遷を知ること、そして、さまざまな国や文化における家族のありかたを比較することによって、われわれが「自明」とみなしている家族を相対化し、さまざまな問題に気づくことができる。こうした視点から、これからの家族や家族以外の人間関係がどう変化していくのか、さらには、どのような法制度・政策が必要とされるのかを考えていく。講義で得た知識・考えを使って、自分自身や自分の身の回りについて考えることを重視する（毎回リアクションペーパーを提出する）。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	毎回、講義用プリントも配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学【四訂版】』培風館、1997年／落合恵美子『21世紀家族【第三版】』有斐閣、2004年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、2015年。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会学の家族研究における基礎的な理論を説明することができる。家族社会学の基礎的な用語を社会構造の問題として理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのか、そして、われわれが日々どのように生きていくべきなのかを考える力を身につけることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
社会学の家族研究における基礎的な理論について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのかを考える力を身につけることができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	40	20				60
思考・判断・表現	(DP3)	30	10				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション：家族を疑う	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
2	家族と世帯：家族変動をとらえる視点と理論		
3	結婚と家族（1）見合い結婚と恋愛結婚		
4	結婚と家族（2）離婚と再婚		
5	結婚と家族（3）多様化するパートナーシップ		
6	少子高齢社会（1）少子化の原因と対策		

7	少子高齢社会 (2) 福祉政策の歴史と国際比較		
8	少子高齢社会 (3) 介護問題をめぐる課題と対策		
9	家族と暴力 (1) 児童虐待を考える		
10	家族と暴力 (2) ドメスティック・バイオレンスを考える		
11	家族と階層再生産:家庭教育と貧困を考える		
12	血縁を疑う:養子縁組と里親制度		
13	「住まい」から問う家族 (1) 家族と住宅の歴史		
14	「住まい」から問う家族 (2) 現代の課題と新たな展開		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族社会学 B		単位	2
科目名（英語）	Family Sociology B		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	高等学校教諭一種免許状〈公民〉・中学校教諭一種免許状〈社会〉	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	阪井 裕一郎			
授業概要	本科目では、家族や結婚をめぐるさまざまな具体的な事象について家族社会学の視点から学んでいく。家族社会学の理論や概念を知ること、家族や結婚の歴史の変遷を知ること、そして、さまざまな国や文化における家族のありかたを比較することによって、われわれが「自明」とみなしている家族を相対化し、さまざまな問題に気づくことができる。特に、LGBT や事実婚、国際結婚といった新たに登場してきた多様な家族に焦点をあてる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にないが、家族社会学 A を履修していることが望ましい。			
テキスト	毎回、講義資料を配布する。			
参考図書・教材等	参考文献：永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／清水浩昭ほか編『家族革命』弘文堂、2004年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、2015年／森山至貴『LGBTを読み解く』ちくま新書、2017年			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	現代家族の状況をあらわす用語である近代家族、家族の多様化、ジェンダー、LGBTなどを社会構造の問題として理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのか、そして、われわれが日々どのように生きていくべきなのかを考える力を身につけることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
現代家族を説明するうえで重要となる近代家族、家族の多様化、ジェンダー、LGBTといった用語について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのかを考える力を身につけることができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30					100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	40	20					60
思考・判断・表現	(DP3)	30	10					40
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	イントロダクション	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。	毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。
2	家族主義の問題		
3	ワーク・ライフ・バランス(1) 国際比較を中心に		
4	ワーク・ライフ・バランス(2) 男性の育児参加を中心に		
5	LGBT と家族 (1) セクシュアリティとは何か		
6	LGBT と家族 (2) 同性婚を考える		
7	事実婚と同棲		

8	戸籍と夫婦別姓 (1) 戸籍の歴史		
9	戸籍と夫婦別姓 (2) 別姓問題とは何か		
10	生殖補助医療 (1) 人工妊娠中絶／不妊問題／出生前診断		
11	生殖補助医療 (2) 代理母出産／AID など		
12	グローバル化と家族 (1) 国際結婚の歴史と現在		
13	グローバル化と家族 (2) ケア労働者／結婚移住者		
14	近代家族／家族の多様化を再考する		
15	まとめ		
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	生涯教育論		単位	2
科目名（英語）	Lifelong Education		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種、幼一種	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	董 秋艶			
授業概要	本授業を通して、生涯教育/学習を支える思想及び施策を学びとともに、人間形成に関わる教育/学習支援への在り方とその課題を知る。それらの学びを通して、教育/学習という側面から生涯教育の役割と機能をよりよく発揮できるかを考えるよう目指す。			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	形成学科の学生が必修			
テキスト	配付資料を中心とし、必要に応じて適宜指示する。			
参考図書 ・教材等	社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』（エイデル研究所 2017年） 佐藤一子『現代社会教育学－生涯学習社会への道程』（東洋館出版社 2011年） 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房 2017年）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	質問や相談等は、授業終了後またはメールにて受け付けます。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生涯教育/学習の基礎的な知識について理解する
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	20	10	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	50	20	10	20			100
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（本授業の視点と概要）	講義	生涯教育を考える
2	「生涯教育」とは何か？ ～思想/概念～	講義（配布資料）	予習・復習
3	「生涯」を対象とした「教育」がなぜ必要か？ ～生涯にわたる人間形成～	講義（配布資料）	課題レポートの作成
4	生涯教育は大人が対象なのか？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ
5	生涯教育と社会教育	講義（配布資料）	予習・復習
6	生涯教育と生涯学習	講義（配布資料）	課題レポートの作成
7	「教育」と「学習」って何か違うのか？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ
8	生涯教育の現代的課題を考える① ～夜間中学校～	講義（配布資料）	予習・復習
9	生涯教育の現代的課題を考える② ～図書館～	講義（配布資料）	予習・復習
10	生涯教育の現代的課題を考える③ ～公民館～	講義（配布資料）	課題レポートの作成
11	生涯教育か生涯学習か？	演習（課題レポート発表）	課題のふりかえ

12	生涯学習を实践する① ～あなたが好きな新書をおすすめしよう～	講義（配布資料）	予習・復習
13	生涯学習を实践する②	講義 グループワーク	好きな新書を選び、紹介文の作成
14	生涯学習を实践する③	グループワーク 発表	発表のふりかえ
15	まとめと学習のふりかえ	講義	復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	社会教育論			単位	2
科目名（英語）	Adult and Community Education			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	太田華奈				
授業概要	<p>生涯学習はその学習形態や特徴から、フォーマルエデュケーション、ノンフォーマルエデュケーション、インフォーマルエデュケーションの3つの領域に分けて考えることができます(チームス)。ごく簡単に分類すると、1つ目のフォーマルエデュケーションは定型教育で学校教育的なモデルを指します。2つ目のノンフォーマルエデュケーションは、不定型教育で、日本の公的社会教育はこの形態をとっています。なお、日本の公的社会教育とは学校教育と家庭教育以外の領域における、人々の組織的な(組織化しつつある)教育活動を指します。最後、インフォーマルエデュケーションは個人が学習と認識している/していないもふくめた非組織的で、非体型的、非制度的な学習です。</p> <p>本授業では、ノンフォーマルエデュケーション領域に焦点をあてるなかで、社会教育の固有性や特徴を理解すると共に、ノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の可能性や課題を共に考えていきます。</p> <p>具体的にノンフォーマルエデュケーション及び社会教育についての知識を得つつ、自ら考えていくために、丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性—生活に根ざす教育へ』(新評論, 2013年)をテキストとして用います。テキストの精読し、考察を行い、問いを立て、みんなで議論してゆきます。こうした一連の作業を通して、問いを深めながら、次の3点について探求します。現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の①意味や価値とはなにか。②可能性とは何か。③課題とは何か。</p>				
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にありません。学校教育に疑問を持っている、学校教育について別の視点から考えてみたい、生活に根ざす教育に関心がある、現代社会の課題の解決を探りたい…学生さん！待っています。				
テキスト	丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性—生活に根ざす教育へ』(新評論, 2013年) ISBN 978-4794809605				
参考図書・教材等	社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』(エイデル研究所, 2017年)他。随時、授業内で提示します。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後に行います。また、メールでの連絡も受け付けています。 ※「なぜ?」と問いかけることを大事にしていきます。「どうしたら」の前に、「なぜ」という問いをはさみ、考えていくことを意識しましょう。そうして、物事を批判的に考えていきましょう。「なぜ」を持ったあなたが、参加されることを楽しみにしています!				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得できる。社会教育の観点から問いをたてることができる。社会教育のまなざしを獲得できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の意味や価値、可能性、課題は何かについて主体的に考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	

		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得したうえで、社会教育の観点から主体的に問いをたてることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会教育のまなざしを獲得し、そのまなざしでもって次の3点について自ら探求し、他者に伝えていくことができる。現代社会におけるノンフォーマルエデュケーションとしての社会教育の①意味や価値とはなにか。②可能性とは何か。③課題とは何か。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性についての基本的な知識を獲得することを怠らず、テキストの精読に毎回主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自らの考えを積極的に他者に伝え、議論を深めていくことができる。			
A：80～89	履修目標を達成している。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性の理解に積極的でありつつ、テキストの精読に毎回主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自らの考えを他者に伝えていくことができる。			
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴や固有性に関心を持ちつつ、テキストの精読に主体的に取り組み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、社会教育の観点を理解したうえで、自ら考え、他者に伝えようという志向性をもつことができる。			
C：60～69	到達目標を達成している。		
テキストを読み、その成果をレジメの作成、発表にいかすことができる。さらに授業内において、自ら考えることができる。			
不可：～59	到達目標を達成できていない。		
社会教育のまなざしを獲得することの意味を自らに問うことなく、また社会教育のまなざしを獲得しようと格闘することをしない。テキストを精読せず、自らの観点のみでレジメを作成し、発表をやり過ごすように取り組む。授業内で求められても発言を拒むことが続く。他者との議論に参加しようとする意志が著しく見られない。			

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	50		25	5		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○		○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						

	(DP9)							
	(DP10)							
備考	授業参加度と、レジメの作成・発表も評価の対象とします。							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(授業の進め方、発表順決め、自己紹介など)	講義・ワーク	そのままのあなたで臨んでください!
2	ディスカッションについて	講義・ワーク	嫌だったディスカッションをその理由と共に、思い出してきてください。
3	ノンフォーマルエデュケーション及び、社会教育の本質、特徴、固有性等について。	講義	「教育」についての疑問をできる限りたくさん考えてきてください。
5	丸山英樹・太田美幸『ノンフォーマル教育の可能性』(新評論, 2013年 ※以下『テキスト』)「はじめに」「第1章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「1章」「はじめに」を読み、問いを立ててきてください。
6	『テキスト』「第2章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「2章」を読み、問いを立ててきてください。
7	『テキスト』「第3章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「3章」を読み、問いを立ててきてください。
8	『テキスト』「第4章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「4章」を読み、問いを立ててきてください。
9	『テキスト』「第5章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「5章」を読み、問いを立ててきてください。
10	『テキスト』「第6章 1・2」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「6章 1・2」を読み、問いを立ててきてください。
	『テキスト』「第6章 3」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「6章 3」を読み、問いを立ててきてください。
11	『テキスト』「第7章 1・2」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「7章 1・2」を読み、問いを立ててきてください。
12	『テキスト』「第7章 3・4」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「7章 3・4」を読み、問いを立ててきてください。
13	『テキスト』「第8章」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「8章」を読み、問いを立ててきてください。
14	『テキスト』「第9章」「あとがき」発表、ディスカッション	発表、ディスカッション	『テキスト』「9章」「あとがき」を読み、問いを立ててきてください。
15	まとめ	ディスカッション	話し合いたいことを考えてきてください。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	感情・人格心理学/人格心理学		単位	2
科目名（英語）	Psychology of Emotion and Personality/ Personality Psychology		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理士	
標準履修年次	1	開講時期		
担当教員	上野 行良			
授業概要	福祉社会を支えるためにひとりひとりの人間に対して深い理解をもつことは不可欠です。他者を「嫌な性格」ですまし、自己の問題を「性格を直す」ですますような浅く無意味な対処は知識のなさや誤ったスキーマ処理に起因する態度です。本授業では個人を理解するために必要な心理学的な知識を説明します。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」「対人心理学」を履修済みであることが望ましい。また同時に「社会心理学」を履修していることが望ましい。			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人格の概念と形成について心理学的な知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自己や他者のパーソナリティについて客観的に考えようとする事ができる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	「個人」を理解するために必要な心理学的な知識を積極的に身につけることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の説明と課題を通して得た「個人」を理解するために必要な心理学的な知識をもっている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人格心理学・感情心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
2	人格とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
3	欠点・性格とは何か	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
4	人格形成の要因	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
5	環境1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
6	環境2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
7	マクロな環境1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
8	マクロな環境2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
9	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
10	マクロな環境3	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
11	行動を変える1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
12	行動を変える2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
13	行動を変える3	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
14	行動を変える4	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				全回課題があり、他者とのコミュニケーションがある。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	対人心理学		単位	2
科目名（英語）	Social Psychology of Interpersonal Relationships		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	1	開講時期	前期	
担当教員				
授業概要	福祉社会を支える人材として対人関係に関わる心理を知っていることは有利になります。この講義では対人コミュニケーションに困らないための初歩を説明します。人に好感をもたれること、人を理解すること、人に説明すること、対人葛藤を解決すること、コミュニケーションを通して心理や行動が操作されやすいこと等を取り上げます。なお授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「心理学概論」を同時に履修することが望ましい			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	なし			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	対人コミュニケーションで失敗しないための初歩の知識をもっている
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	積極的に他者より良いコミュニケーションをとろうとすることができる
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
対人心理学の知識を積極的に学習できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業の説明と課題を通して得た対人心理学の基礎知識をもっている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○				
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	人間関係を振り返る	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
2	話を聞く 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
3	話を聞く 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
4	話を聞く 3	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
5	話を聞く 4	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
6	説明する 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
7	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
8	説明する 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
9	説明する 3	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
10	聞いて、説明する 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
11	聞いて、説明する 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
12	解決する 1	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
13	解決する 2	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
14	解決する 3	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
15	復習	スライドを使つての講義と課題	e-learning の資料の利用
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。 通常は自分の人間関係をチェックするための課題をペアで行います。 復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日はダウンロードした提示資料を持参してください。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報数学			単位	2
科目名（英語）	Information Mathematics			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	石崎 龍二				
授業概要	<p>コンピュータや通信技術の技術革新により、社会における情報化が急速に進んでいる。コンピュータを使って数値計算や統計解析を行ったり画像や音声のデジタル信号処理を行ったりするためには、基礎的な数学の知識と理論的な思考が必要である。</p> <p>本講義では、情報通信技術（ICT）の数学的な観点からの理解を深めることを目的として、情報のデジタル化と情報通信の基礎となる符号理論、コンピュータのハードウェア設計の基礎となる命題論理、ソフトウェア設計の基礎となる述語論理・オートマトン理論・形式言語理論・プログラミング言語などの基本的概念を学ぶ。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト	独自テキストを配付する。				
参考図書 ・教材等	開講時に紹介する。				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」「プログラミング言語」に関する基本的概念を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	文字、音、画像等の情報の2元符号化ができる。 情報量・平均情報量の計算ができる。 論理式を使った論理演算、命題変数の真理値表での表現ができる。 命題を述語論理の論理式として表現できる
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解し、情報の2元符号化、情報量・平均情報量の計算、論理式を使った論理演算や命題変数の真理値表での表現、命題を述語論理の論理式で表現できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	「符号理論」「命題論理」「述語論理」「オートマトン理論」「形式言語理論」に関する基本的概念を理解している。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A：80～89	履修目標を達成している
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C：60～69	到達目標を達成している
不可：～59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)		◎			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	事象と確率	講義	事象と確率について整理
2	指数関数と対数関数	講義	指数関数と対数関数について整理
3	2 元符号化理論－進数変換、負数の符号化	講義	進数変換、負数の符号化について整理
4	情報源符号化理論－情報量・平均情報量	講義	情報量・平均情報量について整理
5	情報源符号化理論－情報源符号化定理	講義	情報源符号化定理について整理
6	情報源符号化理論－通信速度、通信容量	講義	通信速度、通信容量について整理
7	論理演算と論理回路	講義・レポート課題提示	論理演算と論理回路について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	命題論理	講義	命題論理について整理
9	述語論理	講義	述語論理について整理

10	オートマトン理論の基礎	講義	オートマトン理論の基礎について整理
11	オートマトン理論の応用	講義	オートマトン理論の応用について整理
12	チューリングマシンとコンピュータ	講義	チューリングマシンとコンピュータについて整理
13	形式言語理論	講義・レポート課題提示	形式言語理論について整理し、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	プログラミング言語	講義	プログラミング言語について整理
15	まとめ	講義	本講義の履修目標に達していない部分について復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	Web デザイン演習		単位	1
科目名（英語）	Web Design Practicum		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	柴田 雅博			
授業概要	インターネットでは様々な Web サイトが運営されている。Web ページがどのように作られているのか、Web ページを構成する代表的な技術（HTML, CSS, JavaScript）について学び、自ら情報発信を行える技能を身に付ける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	こもりまさあき・赤間公太郎『Web デザインの新しい教科書（改訂新版）』，エムディーエヌコーポレーション，2016，¥2,500+税			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	Web サイトの構成について理解している。 HTML, CSS, JavaScript といった Web 関連技術に関する知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	アクセシビリティ、ユーザビリティを考慮して Web ページをデザインすることができる
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
		(DP 7)	
	技能	(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	HTML を使って Web ページの開発を行うことができる。 HTML と CSS を組み合わせて Web ページの構成デザインを行うことができる。 JavaScript を使ったプログラミングを実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Web 関連技術を十分に理解し、目的やユーザ層を鑑みながら、Web サイトの仕様策定、設計、制作を実施することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
Web 関連技術を理解し、HTML, CSS などを用いて Web ページを作成することができる。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○					
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)	○					
関心・意欲・態度	(DP5)		○				
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○					
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	Web サイトの構成（システム構成、Web サーバ）	講義	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
2	Web サイトの設計。アクセシビリティ、ユーザビリティ	講義	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。
3	Web サイト制作の設計計画	Web サイト制作のための作成計画 演習	事前にどのような Web サイトを作るか、ある程度の構想を建てておく。 次週までに Web サイトの構成、仕様策定、ある程度のデザインなどの計画書を作成する。
4	HTML（1）： タグ、属性、Web ページの基本構造	講義と Web ページ作成演習	事前に教科書の担当箇所を読み、ある程度理解しておく。 次週までに演習課題を提出する。

I. 科目情報

科目名（日本語）	プログラミング概論		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Programming		授業コード	
必修・選択	選択（公共社会学科は選択必修）	関連資格	上級情報処理士	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	石崎 龍二			
授業概要	コンピュータプログラミングの基本的な概念や技法を習得する。 代表的なプログラミング言語（C言語やJavaScript等）を例にして、プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）、アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）、関数の作り方、ファイル処理などを解説する。コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの技法を身につける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	独自テキストを配付する。			
参考図書・教材等	開講時に紹介する。			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	プログラミングの基本的な要素（変数、データ型、演算子、配列など）を理解している。 アルゴリズムの基本となる制御構造（順次、分岐、反復など）を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	問題に応じて変数の宣言を適切にできる。 問題に応じて制御文（順次、分岐、反復など）を適切に使ったプログラミングができる。 問題に応じて関数を適切に使ったプログラミングができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解し、問題に応じて変数の宣言、制御文、関数を適切に使ったプログラミングができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	プログラミングの基本的な要素、アルゴリズムの基本となる制御構造を理解している。		

S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる
A : 80~89	履修目標を達成している
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない
C : 60~69	到達目標を達成している
不可 : ~59	到達目標を達成できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	確認テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		5	70			25	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	◎			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	◎			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	プログラミングの概要	講義・演習・確認テスト	プログラミングの概要について整理
2	基本的なデータ表現	講義・演習・確認テスト	基本的なデータ表現について整理
3	簡単なデータの入出力	講義・演習・確認テスト	簡単なデータの入出力について整理
4	数値データの入力・計算・出力	講義・演習・確認テスト	数値データの入力・計算・出力について整理
5	選択処理－分岐	講義・演習・確認テスト	選択処理－分岐について整理
6	反復処理－繰り返し	講義・演習・確認テスト	反復処理－繰り返しについて整理
7	1次元配列・2次元配列	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示	1次元配列・2次元配列について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
8	関数の作り方	講義・演習・確認テスト	関数の作り方について整理
9	文字列操作関数・数学関数	講義・演習・確認テスト	文字列操作関数・数学関数について整理
10	ファイル処理	講義・演習・確認テスト	ファイル処理について整理

11	JavaScript－データの入出力	講義・演習・確認テスト	JavaScript－データの入出力について整理
12	JavaScript－選択処理	講義・演習・確認テスト	JavaScript－選択処理について整理
13	JavaScript－反復処理	講義・演習・確認テスト・レポート課題提示	JavaScript－反復処理について整理、講義終了時に提示するレポート課題に取り組む。
14	JavaScript－フォームの活用	講義・演習・確認テスト	JavaScript－フォームの活用について整理
15	JavaScript－メニューの活用	講義・演習・確認テスト	JavaScript－メニューの活用について整理
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（演習）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内容			毎回の授業でプログラミング演習を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	データベース論			単位	2
科目名（英語）	Database Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	世の中にある多くの情報システムにおいてデータベースはデータ管理の中核となっている。本講義では、情報システム設計の基本となるデータベースについて、役割と仕組み、構築とデータ管理について学習する。また、Microsoft Access を利用して実際にデータベースの構築を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	eラーニングで資料配布します。 Access の操作については、『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦（オーム社）を使用				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	情報システムにおけるデータベースの役割・機能について理解している。 データベースの仕組みに関する基礎知識を修得している。 SQL の記法を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実事象を適切にモデル化することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	データベースの設計・構築を行うことができる。 SQL を使ってデータベースから必要な情報を抽出することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題・ レポート	授業態度・ 参加度	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合			80	20				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)			○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	データベースとは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	データベース管理システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	関係データベース（1）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
4	関係データベース（2）	講義と Access の基本操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	関係代数	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

6	Access の操作演習	Access による DB 検索演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
7	SQL (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	SQL (2)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
9	SQL (3)	講義と SQL による DB 操作演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	データベースの設計(1)三層スキーマ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	データベースの設計(2)E-Rモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	データベースの設計(3)正規化1	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	データベースの設計(4)正規化2	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
14	データベース設計演習(1)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	データベース設計演習(2)	データベースの設計構築演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報ネットワーク論			単位	2
科目名（英語）	Information Network Studies			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができない。パソコンやスマートフォンで日常的に利用しているネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。 本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	eラーニングで資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	ネットワークシステムの構成について理解している。 ネットワーク技術に関する専門用語や基礎知識を理解している。 ネットワークセキュリティの基礎知識を修得している。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ネットワークシステムを構築する各機器の役割について理解する。ネットワーク技術に関する数学的知識を身につける。ネットワークセキュリティに関する基盤技術について理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ネットワークの仕組み、LANの構成について理解する。ネットワークセキュリティについて理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		20	20			100
知識・理解	(DP1)	○		○			
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			○			
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)	○		○			
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回:通年) 90分 (30回:半期2コマ連続)
1	コンピュータネットワークの基礎	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	インターネットの技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
3	OSI基本参照モデルとTCP/IPモデル	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	プロトコル技術	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
5	LANシステムの構成	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	IP アドレス	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	サーバー (1)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	サーバー (2)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	ルーター	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
10	スイッチと VLAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
11	ファイアーウォール	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	ネットワーク攻撃とセキュリティ	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
13	暗号化、ユーザ認証	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	無線 LAN	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	音声、動画の通信	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	プログラミング演習			単位	1
科目名（英語）	Programming Practicum			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	3	開講時期	前期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	問題解決を図るためには論理的思考が必要である。プログラミングは論理的思考能力を身に付けるのに非常に有効である。 「プログラミング概論」で身に付けたプログラミング手法を応用し、具体的な目的を達成するためのアプリケーション開発を行う。そのために必要なモデル化、モジュール化の知識を修得し、実践に活かす力を身につける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。				
テキスト	eラーニングシステムで資料提供する。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解している。 論理的思考を行うための前提知識を身につける。
	思考・判断・表現	(DP 3)	現実問題をモデル化することができる。 大問題を小問題の群として再構成し、問題解決方法を模索できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	目的を達成するために、アルゴリズムを設計し、プログラム開発を行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
問題解決のために、問題をモデル化し、解決手段を論理的に検討することができる。またプログラミングを用いて問題解決を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解し、オブジェクト指向型プログラミングを作成できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習課題	授業態度・参加度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30				
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)		○					
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○					
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
2	C言語の復習	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
3	メソッド	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
4	アルゴリズムの基礎（1）	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
5	アルゴリズムの基礎（2）	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
6	オブジェクト指向型プログラミング	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。

7	.Net Framework	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
8	Windows アプリケーションの作成基礎	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
9	イベント駆動型プログラミング	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
10	カプセル化	講義とプログラミング演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
11	継承 (1)	講義とアプリケーション設計演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
12	継承 (2)	講義とアプリケーション設計演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 次週までに課題を提出する。
13	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
14	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 課題を進めておく。
15	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 締切までに課題を提出する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	情報検索システム論			単位	2
科目名（英語）	Information Retrieval Systems			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	上級情報処理士		
標準履修年次	3年	開講時期	後期		
担当教員	柴田 雅博				
授業概要	インターネットや情報システムの中には膨大なデータが蓄積されており、今もなお増加している。我々はその膨大なデータの中から必要な情報を検索・抽出しなければならない。本講義ではWeb検索エンジンを例にテキスト検索を中心に、情報検索がどのように行われているのか、その仕組みについて学習する。また一般に判別技術についても学習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特にないが、「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。				
テキスト	eラーニングで資料配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。ただし、レポート提出メールの場合、確認が遅れることがあるので、質問メールはレポート提出と別に送ってくれると助かります。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	Web検索エンジンの仕組みについて理解している。 検索関連技術について理解している。 機械学習手法の基礎を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	情報判別手法の基本を理解し、問題解決に応用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	機械学習（教師あり学習）を実践に応用できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
Web検索エンジンに関する基盤技術を理解している。AIに関する基盤技術を理解し、問題解決への応用を図ることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
Web検索エンジンの仕組みを理解している。AI技術の基礎的な知識を身につけている。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	演習	授業外レポート・宿題	授業態度・参加度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50	10	20	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				
思考・判断・表現	(DP3)	○	○	○				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○				
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	情報検索とは	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
2	テキスト検索: 文書の表現	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
3	検索エンジンの構成、クローリング	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
4	形態素解析: 単語の抽出	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
5	索引付け	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理

			解を深める。
6	辞書	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
7	検索の評価値(1):PageRank	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
8	検索の評価値(2):その他 (tf/idf、コサイン類似度、PMI、シソーラス類似度)	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
9	画像の検索	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
10	情報検索システムの評価:適合率、再現率、F値	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。 次週までに課題を仕上げる。
11	情報検索システムの評価テスト:機械学習、クロスバリデーション	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
12	検索質問の拡張:対話型検索、自然言語検索、QA	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
13	情報検索技術の応用:自動要約、文書分類、情報推薦	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
14	情報検索技術の応用:セマンティックウェブ、対話システム	講義	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。 授業内容について復習し授業内容の理解を深める。
15	情報検索技術の応用:判別技術	機械学習に関する演習	事前に資料を読み、ある程度理解しておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	問題解決演習		単位	1
科目名（英語）	Problem Solving		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子			
授業概要	<p>現代社会では、個人の能力を発揮することによって、地域社会が発展することが重要視されています。授業では、地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。</p> <p>授業の中では、具体的な社会課題を考えるため可能な限り身近な課題を扱う予定です。これまでは、めんべい、博多座、西部ガスなどの企業から提供された課題を解決することに挑戦しました。授業時間には限りがあるため、授業内容を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度、チームでの協同作業への主体的な取り組みが求められます。なお、授業の連続性が高く学外の方との協同作業も含まれるため、毎回の授業出席は重要になります。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	前向きな姿勢でグループワークに参加し、授業を欠席しないよう努めること			
テキスト	なし			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	企業や行政にマネジメントや人材育成について助言アドバイスをしている教員が諸経験を活かし、社会で活躍するために必要になる基礎的能力育成を目指して講義する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	チームの内部及び外部の者に対して、問題の設定や解決に関する情報を的確に伝達できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	地域社会に存在する問題を発見し、自らその解決に向けて具体的に活動することができる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	問題の発見、解決に必要なとなる情報の収集、分析を適切に行うことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	与えられた課題を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度をはぐくみます。また、チームでの協同作業への主体的な取り組み姿勢を身に着けます。パワーポイントを作成し、社会人を相手にプレゼンする力を身に着けます。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			30		60		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		10		20			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		10		20			
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		10		20		10	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	多様な地域課題の背景と課題間の関係性について考える	講義・アクティブラーニング	本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあいます。課題を提供していただくのは、民間企業や行政機関となります。1・2回は現場を見学する予定です。土曜日に見学訪問を行う可能性が高いです。課題の内容や活動の状況によっては、予定を変更することがあ
3	地域課題の抽出、チームビジョンの共有、チームリーダー決定	講義・アクティブラーニング	
4	企業分析のためのツールや分析方法について	講義・アクティブラーニング	
5	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	

6	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	ります。
7	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
8	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
9	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
10	課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動	講義・アクティブラーニング	
11	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
12	チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）	講義・アクティブラーニング	
13	変課題解決案の発表会の準備	講義・アクティブラーニング	
14	プレゼンテーション	アクティブラーニング	
15	振り返り	プレゼンテーション	
備考	5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（ ）																		
内容				グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	人的資源管理論		単位	2
科目名（英語）	Human resource management theory		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	<p>人的資源管理論とは労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すための学問である。この領域は、社会的影響を受けつつも、私達の働き方や生活様式の変化に影響を与える。講義では、人的資源管理が誕生する以前の人事管理と比較しながら米国で誕生し発展した人的資源管理の特徴、そして日本への影響などを概説する。続いて、日本企業における具体的な人的資源管理の内容について議論する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響についても検討していく。更に、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い理論と実践について展望する。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入し、持参すること。講義はテキストを用いてグループディスカッションを行います。テキストがないと議論ができませんのでテキストが手元にあることが条件となります。			
テキスト	入門 人的資源管理 第2版（著）奥林 康司（注）第2版です。ご注意ください。			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサル、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	職業社会に関する知識：良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を理解する
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	就業意欲：人生と職業生活に関する諸問題を主体的意欲的に探求することができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すことを目指す。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
国内外の人的資源管理の歴史と発展について理解する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響について理解する。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		60			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		20	30			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	30			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（テキストや成績などについて）		
2	人的資源管理の役割と生成	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観
3	企業経営と人的資源管理	講義・アクティブラーニング	
4	働く動機づけ	講義・アクティブラーニング	

5	リーダーシップ	講義・アクティブラーニング	点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイルで、深く広く理解することを目指します。
6	職務と組織の設計	講義・アクティブラーニング	
7	人的資源管理の仕組み	講義・アクティブラーニング	
8	能力開発	講義・アクティブラーニング	
9	人事考課制度	講義・アクティブラーニング	
10	専門職制度	講義・アクティブラーニング	
11	賃金制度	講義・アクティブラーニング	
12	福利厚生制度	講義・アクティブラーニング	
13	労使関係	講義・アクティブラーニング	
14	女性労働者	講義・アクティブラーニング	
15	高年齢労働者とワークライフバランス		
備考	5回以上の欠席の場合は単位取得できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（ ）																		
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	キャリア論	単位	2
科目名（英語）	Career	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	教員資格
標準履修年次	3	開講時期	前期
担当教員	井上奈美子		
授業概要	<p>進路選択は、個人が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長することを目指す過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動でもある。それを包含するキャリア教育は、教育機関で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択についてキャリアに関する様々な理論をもとに議論する。これによって、将来教員を目指す者にとってはキャリア教育の実践力が身に付き、民間企業や公的機関への就職を目指す者にとっては就職活動に有意義な知識を獲得することができる。なお本講義では履修生主体のアクティブラーニングを行う。</p>		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	<p>本学のプレインターンシップ、社会人基礎力などを履修することが望ましい。</p>		
テキスト			
参考図書・教材等	<p>教職志願者は教科書を生協にて購入してください。それ以外の方には適宜資料提供します</p>		
実務経験を生かした授業	<p>長年、大学の就職課で就職（キャリア）進路支援を行った実務経験者が指導する。キャリア教育の教員に求められる知識と資質、さらに民間や公的機関の採用試験の動向について議論する。</p>	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	<p>コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。授業中の質問、発言は成績評価の加点となります。</p>		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	進路選択、キャリア教育に関する専門知識を獲得し実践することができる。
履修目標	<p>授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。</p>		
<p>社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		

進路指導、キャリア教育の教育意義を理解し、さらに現代の子供たちの進路選択や悩みを理解することができる。現代社会で若者が抱える就職活動の悩みや新卒労働市場の動向などについて理解する。キャリア教育の理論を理解し、自身の進路選択や人生に活かすことができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

5回以上の欠席は不可となります。ご注意ください。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40		60			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		20		30			
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		20		30			
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（講義の進め方、課題、成績評価の説明など）	講義、履修目的の明確化	
2	キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導そしてキャリア教育へ 第1回講義	教職課程履修生には、講義に加えて文部科学省発行の資料などを読み込む	毎回、講義の復讐として自習を行う。配布資料は各自でダウンロード、印刷を行うこと
3	教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育 第2回	課題が別途あります。予習復習として	
4	キャリア教育推進施策の展開 第3回	自己学習が必要になります。	
5	キャリア発達支援 第4回	民間企業や公的機関への就職を希望する履修生には資料課題はありません	
6	主体的進路選択 第5回 資料なし	さんが、講義で学んだことを就職活動や	

7	キャリア教育の意義と原理、自己実現過程 第6回	その後の社会活動に活用できる知識の獲得を目指します。 本講義は学生主体で学びあうアクティブラーニングを取り入れます。その中で進路指導の模擬事業を行っています。 学生へのプレゼン発表・グループ	
8	キャリア教育における地域・産業界との連携、インターンシップ 第7回資料なし		
9	キャリア意思決定（文部科学省提言）第8回 資料なし		
10	キャリア自己効力感－社会認知的キャリア理論		
11	現実的探索・試行と社会的移行準備		
12	職業観・勤労観の確立		
13	キャリアと協働、キャリア自己概念		
14	生涯にわたる主体的キャリア形成		
15	学習の振り返り、プレゼンテーション		
備考	同じ人が作業や発言をしないようチームワークを重視した学習活動を行う		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
その他（ ）																	
内容	毎回、なんらかのグループでのアクティブラーニングを行う。模擬授業や模擬面接もあり																

I. 科目情報

科目名（日本語）	組織マネジメント		単位	2
科目名（英語）	Organizational management		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	井上 奈美子			
授業概要	<p>公的機関、民間企業、非営利団体に限らず、事業を遂行し、目標を達成するには、組織的な運用は不可欠です。更に、仕事の場に限らず、生活全般にわたって組織と関わることもある現代において、組織について学ぶことは、人が社会で生きていくためにも重要になってきています。本講義は、理論的枠組みを理解しやすいよう説明していきます。まず、組織の定義や組織の成立条件について学ぶことからスタートします。そして、組織が安定的に活動を継続させるための構造とプロセスについて学びます。また、組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革についても取り上げます。これらの学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に付けることができます。なお、本講義では、実際に組織（チーム）を形成し、講義の中でグループワークを行い、教員との双方向による議論を展開します。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	講義が始まる前までに以下のテキストを生協にて購入し、持参すること。講義はテキストを用いてグループディスカッションを行います。テキストがないと議論ができませんのでテキストが手元にあることが条件となります。			
テキスト	はじめての経営組織論、高尾義明、 有斐閣 ストウディア 1900（+税）			
参考図書・教材等	講義の中で紹介します			
実務経験を生かした授業	大学の管理職として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサルタント、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、企業や団体が取り組む組織マネジメントについてわかりやすく指導する。	授業中の撮影	有	
学習相談・助言体制	コメントカード（毎回回収します）、またはメールで随時応じる。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	組織論と経営学の領域を多面的に捉え、理論的枠組みの理解と理論の実践を体験的に学ぶことで、組織運用のための思考と実践力を高める。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	変化する社会において、不確実性のともなう組織マネジメントでは、個人が組織内において将来を見越して主体的に行動するダイバーシティマネジメントが実行できるよう専門的スキルを身につける。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す。		
組織の定義や組織の成立条件について理解します。組織が安定的に活動を継続させるための構造とプロセスについて理解します。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
組織運用で近年特に重要になってきているイノベーション創出や変革について理解します。学術的知見を踏まえて、実務に用いることができる考え方やアイデアを自ら生み出す力を身に着けます。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
グループでのアクティブラーニングを軸として講義を進める。最後の講義ではグループによるプレゼン発表を行う。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		60			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20		30			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20	30			
備考	学生の理解度が浅いと判断した際には、最終テストを行います。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（グループづくり、試験、単位、学習到達目標の確認）		
2	なぜ組織について学ぶのか：①協働する場としての組織②個人をエンパワーする組織	講義・アクティブラーニング	毎回、講義の冒頭に2分間の振り返りを全員で行う。各自、予習復習を行うこと。本講義では、学生が主体的にグループで各領域について調べ、学びあい、発表しあうことを繰り返します。専門的な用語や学術的観点は教員から解説しますが、原則、自分たちで調べ、議論することが中心の講義スタイル
3	組織の定義：①経営組織と経営資②意思決定からのアプローチ	講義・アクティブラーニング	
4	組織目的：①組織の目的と個人が組織に参加する目的との関係②ステークホルダーからの経営資源の調達と組織均衡	講義・アクティブラーニング	

5	コミュニケーションと調整:①調整と決定前提②組織におけるコミュニケーション③コミュニケーションの円滑化	講義・アクティブラーニング	ルで、深く広く理解することを目指します。
6	貢献意欲:①組織メンバーの参加確保②貢献意欲の必要性の増大③関係づけメカニズム	講義・アクティブラーニング	
7	合理的システムの設計:①組織の発展に伴う構造の変化②典型的な組織形態	講義・アクティブラーニング	
8	自生的システムの創発:①社会的ネットワーク②組織文化	講義・アクティブラーニング	
9	組織プロセス:①様々なリーダーシップ②ポリティクスとコンフリクト③組織プロセスの複雑性	講義・アクティブラーニング	
10	経営資源としての変化する人:①モチベーションの源泉への注目…ニーズ(欲求)理論②モチベーションの複雑性…プロセス(過程)理論	講義・アクティブラーニング	
11	戦略と組織学習:①組織と戦略の関係②組織の学習	講義・アクティブラーニング	
12	イノベーションと組織:①イノベーション創出に向けた組織マネジメントの特徴②知識の創出と獲得	講義・アクティブラーニング	
13	変化を続ける組織:①変化し続ける組織①変化を増幅する学習	講義・アクティブラーニング	
14	企業・団体組織マネジメントケース分析、まとめ	アクティブラーニング	
15	パワーポイント用いたプレゼンテーション	プレゼンテーション	
備考	学生の理解度が浅いと判断した際には、最終テストを行います。5回以上欠席した場合は単位履修できません。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
その他()																			
内容				テキストの章ごとにグループを形成し、アクティブラーニングと発表を繰り返す。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	ビジネス倫理		単位	2
科目名（英語）	Business Ethics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	神谷英二			
授業概要	<p>学生が将来、仕事上の倫理問題に直面したとき、責任をもって倫理に適った望ましい決断を下せるよう、ビジネス倫理に関する基礎知識の習得と意思決定の訓練を行う。過去の企業不祥事など具体的なケースについて分析しながら、経営戦略や日常の企業活動において求められる倫理を学ぶ。現在のビジネス倫理に必須の個人情報保護、危機管理についても同時に理解を深める。民間企業だけでなく、行政機関や医療機関なども分析対象とする。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし。			
テキスト	なし。			
参考図書・教材等	授業時に配付する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	疑問があればすぐに質問すること。電子メールによる質問も常時受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	明確な根拠をもって意思決定した内容について、わかりやすく伝える力を身につける。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	仕事で出会う倫理問題について自ら考え、意思決定する能力を身につける。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>仕事上直面しうる倫理問題について自ら考え、明確な根拠をもって意思決定し、その内容をわかりやすく伝えることができる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
成績評価の基準			
<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p>			
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	50				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		○	○				
関心・意欲・態度	(DP5)		○	○				
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「ビジネス倫理講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「ビジネス倫理講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）
2	仕事と意思決定	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
3	個人情報の倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
4	個人情報の倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第1回）	
5	民間ビジネスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
6	民間ビジネスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第2回）	
7	医療・福祉サービスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
8	医療・福祉サービスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
9	行政サービスの倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	

		小レポート（第3回）	
10	行政サービスの倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
11	地域社会の倫理（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第4回）	
12	地域社会の倫理（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
13	SDGs（1）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析	
14	SDGs（2）	「ビジネス倫理講義資料」による講義 ケース分析 小レポート（第5回）	
15	まとめ	学期全体の学習内容を復習	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				具体的なケースに関するグループ・ディスカッションを随時行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	個人情報法制		単位	2
科目名（英語）	Information Privacy Law		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3	開講時期	後期	
担当教員	森脇敦史			
授業概要	情報社会においてデータは「21世紀の石油」と言われるほど、社会活動において重要度を増している。中でも「個人情報」は、適切に取り扱われることが個人の基本的人権として要求される一方、その適切な利用は本人及び社会への利益の観点からも重要である。本講義では、個人情報の「保護」だけでなく「利用」の側面について、現行の法制度と実際の運用を講義する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。			
テキスト	(レジュメを配布する)			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	個人情報に関わる法制度に関する基本的知識を身につけている。
	思考・判断・表現	(DP3)	個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	個人情報について生じている問題を自ら探索することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
個人情報に関わる課題を法的制度の枠組で整理し、より望ましい制度設計を考察できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業への参加度	合計
総合評価割合	70					30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	◎					
思考・判断・表現	(DP3)	◎					
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					○	
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／ 進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス	講義	授業内容に関連するニュースを読む 配布レジュメを復習する
2	個人情報法制の歴史と法体系……個人情報とプライバシー、条例と法律	講義	同上
3	個人情報保護法①……個人情報の定義、個人情報取扱事業者	講義	同上
4	個人情報保護法②……個人情報に対する義務	講義	同上
5	個人情報保護法③……個人データ・保有個人データに対する義務	講義	同上
6	個人情報保護法④……匿名加工情報、実効性確保	講義	同上
7	行政機関個人情報保護法①……定義、保護	講義	同上
8	行政機関個人情報保護法②……開示・訂正・利用停止請求	講義	同上
9	その他の個人情報関連法……医療ビッグデータ法、住基法、番号法	講義	同上
10	個人情報の国際的保護……EU 一般データ保護規則、アメリカの個人情報保護	講義	同上
11	事例検討……個人情報ビジネス①	講義	同上
12	事例検討……個人情報ビジネス②	講義	同上
13	事例検討……行政機関と個人情報	講義	同上
14	事例検討……医療・福祉・教育と個人情報	講義	同上

15	まとめ	講義	同上
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク												○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容																	